

— 君津市 —

上湯江遺跡Ⅴ

宅地造成に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

2022

株式会社 新昭和
君津市教育委員会

— 君津市 —

かみ ゆ え
上湯江遺跡Ⅴ

宅地造成に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

2022

株式会社 新昭和
君津市教育委員会

序 文

広大な市域を有する君津市には、二大河川の小糸川・小櫃川流域を中心に、数多くの遺跡が所在しております。これらの貴重な遺跡を、私たちは後世へと伝え残していかななくてはなりません。

現代では、経済発展や地域活性化のための開発が進む一方、それらの行為によって遺跡が壊されてしまうことも多いのが実情です。このような状況のなか、開発と遺跡保存の一つの解決策として講じているのが、事前に発掘調査を実施し、その記録を報告書として後世へ残す「記録保存」という手段であります。

本報告書は、民間開発事業に伴い発掘調査を実施した上湯江遺跡の成果をまとめたものです。今回の調査では、古墳時代から中世にかけての遺構・遺物を数多く検出しました。中でも平安時代の井戸からは、墨書土器など当地区はもちろんのこと、君津市全体においても貴重な成果を上げました。また、古銭を備蓄した中世の遺構を検出するなど多岐にわたった資料を得ることができました。

本書が学術資料、教育資料として活用されるとともに、市民をはじめ多くの皆様の目にとまり、遺跡というものがごく身近にも存在しているのだということを認識していただく契機となり、埋蔵文化財の保護を推進することができれば幸いです。

結びにご指導・ご助言いただきました千葉県教育庁教育振興部文化財課、発掘調査・整理事業に従事した調査補助員の方々、ご協力いただいた地域の方々、関係者の皆様に対しまして、心から感謝の意を表します。

令和4年3月

君津市教育委員会
教育長 粕谷 哲也

例 言

- 1 本書は、令和元・2年度調査実施の千葉県君津市上湯江に所在する上湯江遺跡Vの成果を収録した発掘調査報告書である。
- 2 調査は、千葉県教育委員会の指導のもと、君津市教育委員会が実施した。
- 3 事業名および発掘調査の期間・面積、整理期間は以下のとおりである。
宅地造成に伴う埋蔵文化財発掘調査
(確認調査) 令和2年2月6日～同年3月25日 1,792/21,878.95㎡
(本調査) 令和2年5月18日～令和3年1月13日 7,748.5㎡
(整理作業) 令和3年5月17日～令和4年3月22日
- 4 発掘調査は、令和元年度朝倉 唯、令和2年度朝倉、當眞紀子、曾我真実子が担当した。整理作業・原稿執筆・編集は當眞・矢野淳一の協力の下、曾我が担当した。
- 5 発掘調査で使用した遺跡コードは、上湯江遺跡: K T 056 である。なお、遺物注記の際には、コードの次に調査地点を付した(例: K T 056 V)。
- 6 遺構・遺物の縮尺は各実測図に明記した。方位は座標北であり、測量値は世界測地系による。
- 7 出土した木製品及び獣骨については株式会社パレオ・ラボに樹種同定、獣骨同定の自然科学分析を委託した。
- 8 今回の調査に伴う遺物・図面・写真等の記録類は、君津市教育委員会が保管する。
- 9 調査組織は下記のとおりである。
《君津市教育委員会》
令和元～3年度
教育長: 山口喜弘(令和2年度6月まで) 粕谷哲也(令和2年度7月から)
教育部長: 加藤美代子(令和元年度まで) 安部吉司(令和2年度から)
生涯学習文化課長: 矢野淳一(令和2年度まで) 塚越直美(令和3年度から)
副主幹(事)文化振興係長: 當眞紀子 (再) 主査: 矢野淳一(令和3年度から)
文化財主事: 朝倉 唯 文化財主事: 曾我真実子
- 10 発掘調査から本書の刊行にいたるまで、千葉県教育委員会をはじめとする関係諸機関の方々からご指導・ご協力をいただいた。記して感謝の意を表したい(敬称略・五十音順)。
浅野健太、岡山亮子、甲斐博幸、鎌田望里、川名葵、武田剛朗、佃沙奈、松本勝

凡 例

- 1 本書で使用した地形図は、第1図 地形図「鹿野山」(1:25,000) 国土地理院発行、第2図 君津市地形図「D-5」(1:2,500) 君津市発行である。
- 2 遺構番号は各遺構ごとに通して番号を付した。図示する遺物が出土していない土坑、ピットについては表にまとめた。
- 3 調査区ごとで一括して記載した遺物については、番号脇の()内に遺構番号を記した。
- 4 本文中及び表中に記載した遺構の重複関係は(旧)→(新)の順に記載した。
- 5 整理作業時に遺構の性格を検討した結果、番号を変更・欠番とした遺構がある。出土遺物には、発掘調査時の遺構番号で注記を行った。遺構番号の新旧対応は以下のとおりである。

(旧) P-75	→	(新) SK-037	(旧) P-290	→	(新) SB-001-P-7
SK-037	→	P-75	P-294	→	SB-001-P-8
SK-038	→	P-74	P-289	→	SB-002-P-9
P-74	→	SK-038	SK-093	→	SB-002-P-10
P-285	→	SB-001-P-1	SK-094	→	SB-002-P-11
P-286	→	SB-001-P-2	SK-095	→	SB-002-P-12
P-287	→	SB-001-P-3	SK-097	→	SB-002-P-13
P-298	→	SB-001-P-4	P-292	→	SB-002-P-14
P-297	→	SB-001-P-5	SK-096	→	SB-002-P-15
P-291	→	SB-001-P-6			

(欠番) SD-020・023・024、SK-093～097、P-285～287・289・290～292・294・297・298

- 6 土器の出土総量が1,000gを超える遺構については、種別ごとに重量を記載した。
- 7 事実記載及び観察表中の「口」「底」は径、「高」は器高、(復)は復元値、(遺)は遺存値を示す。
- 8 遺構・遺物実測図のスクリーントーンは、下記のことを示す。

[遺構]



[遺物]



目 次

序文・例言・凡例

第1章	はじめに	1
1	調査にいたる経緯	1
2	地理的・歴史的環境	1
3	遺跡の概要	3
4	調査の方法	5
5	基本土層	6
第2章	調査成果	8
1	検出遺構	8
2	A区	8
3	B区	16
4	C区	20
5	D区	30
6	E区	93
7	その他出土遺物	101
第3章	まとめ	102
第4章	自然科学分析	106
1	上湯江遺跡V出土木製品の樹種同定	106
2	上湯江遺跡V出土の動物遺体	111

挿図目次

第1図	周辺の遺跡 (1/25,000)	2	第20図	SI-002・003実測図	33
第2図	調査範囲図 (1/2,500)	4	第21図	SB-001・002実測図	35
第3図	確認調査結果及び基本土層図	7	第22図	D区遺構平面図 (1)	36
第4図	遺構配置図	9	第23図	D区遺構平面図 (2)	37
第5図	A区遺構実測図 (1)	10	第24図	D区遺構平面図 (3)	38
第6図	A区遺構実測図 (2)	13	第25図	D区遺構断面図 (1)	39
第7図	A区出土遺物実測図 (1)	14	第26図	SD-045~047・052・053・057・058 出土遺物実測図	41
第8図	A区出土遺物実測図 (2)	15	第27図	SD-059出土遺物実測図	43
第9図	B区遺構実測図	17	第28図	D区遺構平面図 (4)	45
第10図	B区出土遺物実測図	19	第29図	D区遺構平面図 (5)	46
第11図	SD-014・015遺構実測図	21	第30図	D区遺構平面図 (6)	48
第12図	SD-014・015出土遺物実測図	22	第31図	D区遺構断面図 (2)	49
第13図	C区遺構平面図 (1)	23	第32図	SD-067・070・071・073・075 出土遺物実測図	50
第14図	C区遺構平面図 (2)	25	第33図	SK-084実測図	52
第15図	C区遺構断面図	26	第34図	D区土坑出土遺物実測図	53
第16図	SK-043実測図	27	第35図	SE-002実測図	56
第17図	C区出土遺物実測図	30	第36図	SE-002出土遺物実測図	57
第18図	D区遺構平面図	31			
第19図	SI-001実測図	32			

第37図	SE-003遺構実測図	59	第52図	P-240出土古銭(1)	80
第38図	SE-003出土遺物実測図(1)	60	第53図	P-240出土古銭(2)	81
第39図	SE-003出土遺物実測図(2)	61	第54図	P-240出土古銭(3)	82
第40図	SE-003出土遺物実測図(3)	62	第55図	P-240出土古銭(4)	83
第41図	SE-003出土遺物実測図(4)	63	第56図	P-240出土古銭(5)	84
第42図	SE-003出土遺物実測図(5)	64	第57図	P-240出土古銭(6)	85
第43図	古銭出土ピット遺構実測図及び P-245出土古銭	68	第58図	P-240出土古銭(7)	86
第44図	P-239出土古銭(1)	69	第59図	D区ピット出土遺物実測図	90
第45図	P-239出土古銭(2)	70	第60図	E区遺構平面図(1)	95
第46図	P-239出土古銭(3)	71	第61図	SD-034出土遺物実測図	96
第47図	P-239出土古銭(4)	72	第62図	E区遺構平面図(2)	97
第48図	P-239出土古銭(5)	73	第63図	E区遺構断面図	98
第49図	P-239出土古銭(6)	74	第64図	E区出土遺物実測図	100
第50図	P-239出土古銭(7)	75	第65図	遺構外出土遺物実測図	101
第51図	P-239出土古銭(8)	76	第66図	調査成果	103
			第67図	P-239・240出土古銭種類別数量	105

表目次

表1	A区ピット観察表	12	表16	SD-067・070・071・073・075 出土遺物観察表	50
表2	A区出土遺物観察表(1・2)	15	表17	SK-084出土遺物観察表	52
表3	B区土坑観察表	18	表18	D区土坑出土遺物観察表	53
表4	B区ピット観察表	19	表19	D区土坑観察表(1・2)	54
表5	B区出土遺物観察表	19	表20	SE-002出土遺物観察表	57
表6	SD-014・015出土遺物観察表	22	表21	SE-003出土遺物観察表(1~3)	63
表7	SK-043出土遺物観察表	28	表22	P-239出土古銭観察表(1~3)	77
表8	C区土坑観察表	28	表23	P-240出土古銭観察表(1~4)	86
表9	C区ピット観察表	29	表24	D区ピット出土遺物観察表	90
表10	C区出土遺物観察表	30	表25	D区ピット観察表(1~3)	91
表11	SI-001出土遺物観察表	33	表26	SD-034出土遺物観察表	96
表12	SI-002出土遺物観察表	34	表27	E区土坑観察表	99
表13	SB-002出土遺物観察表	34	表28	E区ピット観察表	100
表14	SD-045~047・052・053・057・058 出土遺物観察表(1・2)	42	表29	E区出土遺物観察表	101
表15	SD-059出土遺物観察表	44	表30	遺構外出土遺物観察表	101

図版目次

図版1~10	遺構写真
図版11~31	遺物写真

第1章 はじめに

1 調査にいたる経緯

令和元年12月26日付けで、株式会社新昭和より「埋蔵文化財発掘の届出について」の提出があった。開発目的は宅地造成で、開発予定面積は21,878.95㎡である。開発区域は「周知の埋蔵文化財包蔵地内(上湯江遺跡)」で、開発着手前に確認調査を実施する必要がある旨を事業者に説明した。協議の結果、計画どおり事業を行うことになり、遺跡の規模及び性格を把握するための確認調査を実施することとした。確認調査は、令和2年2月6日から同年3月25日まで行った。確認調査の結果、溝跡や土坑、ピットが検出されたため、事業者と市教育委員会生涯学習文化課とで再度協議を行い、本調査を行うこととした。本調査は、令和2年5月18日から令和3年1月13日まで行った。なお、調査はすべて君津市教育委員会でを行った。

2 地理的・歴史的環境(第1図)

上湯江遺跡は、君津市上湯江に所在し、JR内房線君津駅の南東約1.5km地点にある。小糸川下流域の左岸の低位段丘に位置し、標高は約11m前後である。遺跡周辺の環境は、小糸川右岸はすでに市街化が進んでいるのに対して、左岸は水田が広がり自然が多く残っている。左岸の低地・丘陵上には多くの埋蔵文化財が所在しているが、調査例は少ないため様相は明らかではない。

発掘調査がされた周辺の遺跡をみると、同じ低地遺跡であり、区画整理の計画範囲に入っていた**2. 富吉遺跡**、**7. 釜神遺跡**、**8. 中富遺跡**がある⁽¹⁾。

富吉遺跡では、古墳時代後期の竪穴住居跡(以下住居跡)34軒、溝跡36条、古墳周溝1条、奈良・平安時代の掘立柱建物跡13棟のほか、古代の畦畔、中世の土坑などが検出され、古墳時代後期から奈良・平安時代にかけて集落が営まれていたことが判明した。また、近年の調査成果⁽²⁾では古墳時代中期の遺物や溝跡、住居跡を確認していることから、当該期の集落が存在する可能性も考えられる。釜神遺跡は小糸川の河道跡であり、近世の溝跡、畦畔が検出された。中富遺跡は、小糸川の河道跡に囲まれているが、中富地区の中心一帯は周囲よりも若干標高が高いため、遺構が存在している可能性が十分に考えられる。南東側約2.0kmに低地遺跡の**25. 常代遺跡**⁽³⁾や**26. 郡条里遺跡**⁽⁴⁾がある。常代遺跡は、弥生時代から奈良時代までの複合遺跡であり、弥生時代中期の方形周溝墓群、古墳時代中・後期の集落跡、奈良・平安時代の掘立柱建物群などが調査され、弥生時代中期の河川跡からは多量の木製品が出土している。郡条里遺跡では、古代条里制と関係のある溝跡や水田跡を確認している。丘陵上には縄文時代から古墳時代までの包蔵地である**33. 上野台遺跡**、石製模造品を伴う祭祀関連遺跡の**30. 下荘台遺跡**⁽⁵⁾があるが、報告書未刊行のため詳細は不明である。古墳については、古墳時代後期の群集墳である**C. 元秋葉台古墳群**⁽⁶⁾や、古墳時代終末の墓制である**D. 元秋葉台横穴群**⁽⁷⁾で一部調査が行われており、遺存状態が良好な須恵器等の遺物が出土している。三舟山の麓には、中世の鎌倉街道と推定される**39. 房総往還**も残されて



- | | | | | |
|-----------|-----------|--------------|----------------|------------|
| 1. 上湯江遺跡 | 2. 富吉遺跡 | 3. 八幡西遺跡 | 4. 八幡前古墳 | 5. 貞元遺跡 |
| 6. 貞元塚田古墳 | 7. 釜神遺跡 | 8. 中富遺跡 | 9. 八崎遺跡 | 10. 下湯江陣屋跡 |
| 11. 天神遺跡 | 12. 南子安古墳 | 13. 南子安子安坂古墳 | 14. 寺の前古墳 | 15. 下迫古墳 |
| 16. 下道古墳 | 17. 馬門古墳 | 18. 子安陣屋跡 | 19. 花輪堂古墳 | 20. 壁田遺跡 |
| 21. 八幡東遺跡 | 22. 主師古墳 | 23. 八幡神社古墳 | 24. 外箕輪遺跡 | 25. 常代遺跡 |
| 26. 郡桑里遺跡 | 27. 八幡権現塚 | 28. 郡西遺跡 | 29. 元秋葉台遺跡 | 30. 下荘台遺跡 |
| 31. 下荘台古墳 | 32. 中荘台古墳 | 33. 上野台遺跡 | 34. 上湯江上野台古墳 | 35. 法木作遺跡 |
| 36. 法木作古墳 | 37. 陣所古墳 | 38. 三船台遺跡 | 39. 鎌倉街道(房総往還) | 40. 下三船古墳 |
| 41. 春日神社塚 | 42. 浅間塚 | | | |
- A. 三船台古墳群 B. 上野台古墳群 C. 元秋葉台古墳群 D. 元秋葉台横穴群

※番号に○印のあるものは、すでに消滅

第1図 周辺の遺跡 (1/25,000)

おり、古代から中世まで各時期の文化財が多くみられる地域である。

註 (1) 『富吉遺跡群確認調査報告書』1996 君津市教育委員会

『富吉遺跡群確認調査報告書Ⅱ』1997 君津市教育委員会

『富吉遺跡群確認調査報告書Ⅲ』1998 君津市教育委員会

(2) 『富吉遺跡Ⅱ』2017 君津市教育委員会

『平成30年度君津市内遺跡発掘調査報告書』2019 君津市教育委員会

『富吉遺跡Ⅴ』2019 君津市教育委員会

- (3) 『常代遺跡群確認調査報告書』1989 君津市教育委員会

『常代遺跡群』1996 財団法人君津都市文化財センター

『常代遺跡Ⅱ』1998 財団法人君津都市文化財センター

『国道127号 埋蔵文化財調査報告書—君津市常代遺跡六反免地区、郡条里遺跡、郡遺跡(2)、郡遺跡(3)、小山野遺跡—』2004 財団法人千葉県文化財センター

- (4) 『郡条里遺跡確認調査報告書』1988 君津市教育委員会

『郡条里遺跡発掘調査報告書』1990 君津市教育委員会

『郡条里遺跡Ⅱ』1992 財団法人君津都市文化財センター

『郡条里遺跡Ⅲ』1994 財団法人君津都市文化財センター

『国道127号 埋蔵文化財調査報告書—君津市常代遺跡六反免地区、郡条里遺跡、郡遺跡(2)、郡遺跡(3)、小山野遺跡—』2004 財団法人千葉県文化財センター

- (5) 『千葉県君津郡君津町誌 後編』1973 君津町誌編纂委員会

- (6) 『元秋葉台32号墳発掘調査報告書』1977 君津市教育委員会、貞元・新御堂遺跡発掘調査会

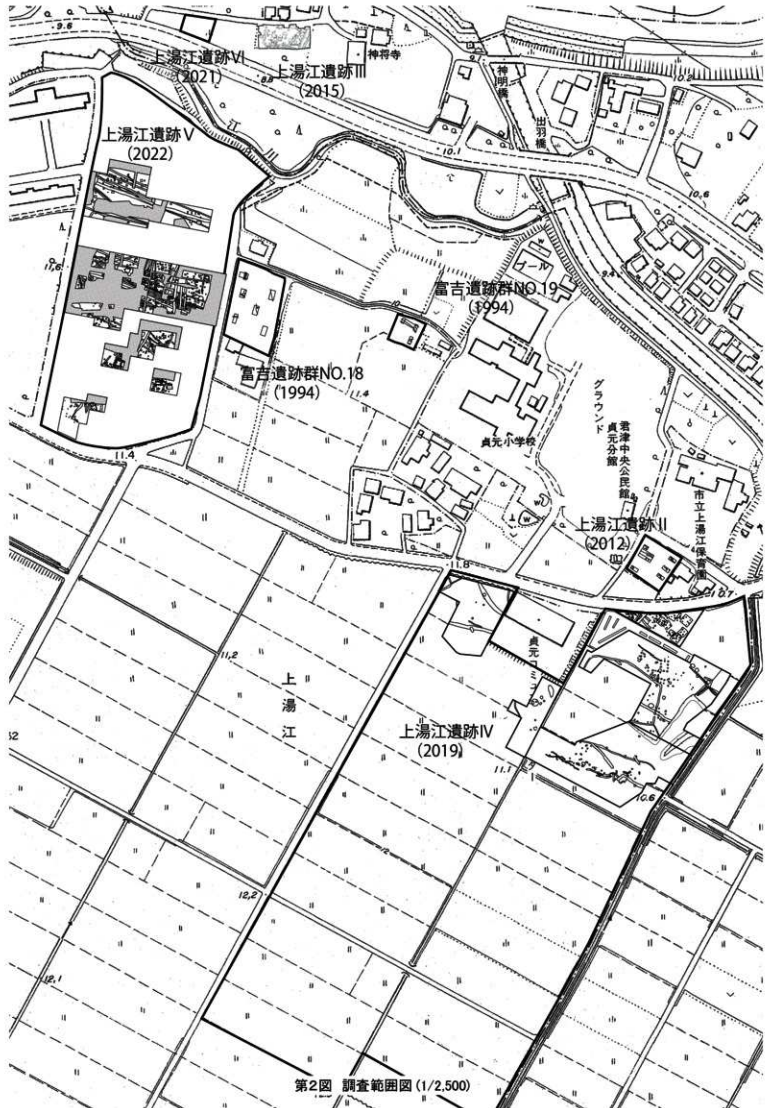
- (7) 『平成6年度君津市内遺跡発掘調査報告書』1995 君津市教育委員会

参考文献

『千葉県埋蔵文化財分布地図(4)—君津・夷隅・安房地区(改訂版)—』2000 千葉県教育委員会

3 遺跡の概要(第2図)

上湯江遺跡は、古墳時代等遺物包蔵地として周知の遺跡であり、君津市貞元土地区画整理組合による区画整理計画に伴い、平成6・7年度に確認調査⁽¹⁾を実施している。平成6年度には遺跡北側の3か所、平成7年度には遺跡中央部の4か所の計7か所でトレンチを設定して調査した。平成6年度調査部分では、奈良・平安時代の掘立柱建物跡を3棟以上確認し、8世紀代の土器が出土している。また、上湯江字市場において1964年の団地造成の際に採集された遺物の紹介をしており、該当資料も同様の時期を示すことから、古代の集落の存在を示唆している。このほか、中世の井戸跡と溝跡が検出され、出土陶磁器の中にも12世紀末から13世紀前葉の龍泉窯系の輪花碗、初期かわらけがあり、鎌倉とのつながりのある在地顔主層の屋敷跡があったとも考えられている。平成7年度調査部分では、沼沢地の様相を示し、遺構は確認できなかった。平成23年度⁽²⁾には個人住宅建設に伴い確認・本調査を実施し、古墳時代後期から奈良・平安時代の溝跡、ピット、土坑を確認した。狭い調査面積であるが多量の土器が出土しており、なかには湖西窯産の須恵器坏もみられ集落の展開を検討する上で重要な成果となった。また、平成26年度⁽³⁾にも個人住宅建設に伴う確認・本調査を実施し、古墳時代後期の住居跡や溝跡、土坑、ピットを多数検出した。その中には、古墳の周溝と考えられる弧状の溝跡も見られた。従来、上湯江地区の低地部分には墳丘を有する古墳はないとされていたが、調査によって、墳丘を失った古墳の周溝と同時期の住居を検出した



第2図 調査範囲図 (1/2,500)

ことで、古墳時代後期の集落の存在を考える新たな成果が得られた。さらに、平成29・30年度⁽⁴⁾にはトマト栽培施設建設に伴う確認・本調査が実施され、縄文時代～近代までの時期幅のある遺物が出土した。縄文・弥生時代の遺物出土はこれが初例である。遺構・遺物は奈良・平安時代が中心であり、水滴の可能性のある小型平版や刻書がある高台付冪も出土した。掘立柱建物跡が検出されたことから、周辺に識字層がいる官衙や寺院などの施設が存在した可能性もある。古墳時代後期～奈良・平安時代の堅穴住居跡を7軒検出し、集落が微高地上に広がっていることが判明した。令和2年度⁽⁵⁾には、遺跡の北西端を調査し、当該地まで遺構が広がらないことが判明した。

また、上湯江は地名から周准郡の「湯坐郷」の地と推定されている。

註(1)『富吉遺跡群確認調査報告書』1996 君津市教育委員会

(2)『平成23年度君津市内遺跡発掘調査報告書』2012 君津市教育委員会

(3)『平成26年度君津市内遺跡発掘調査報告書』2015 君津市教育委員会

(4)『君津市-上湯江遺跡IV』2019 君津市教育委員会

(5)『令和2年度君津市内遺跡発掘調査報告書』2020 君津市教育委員会

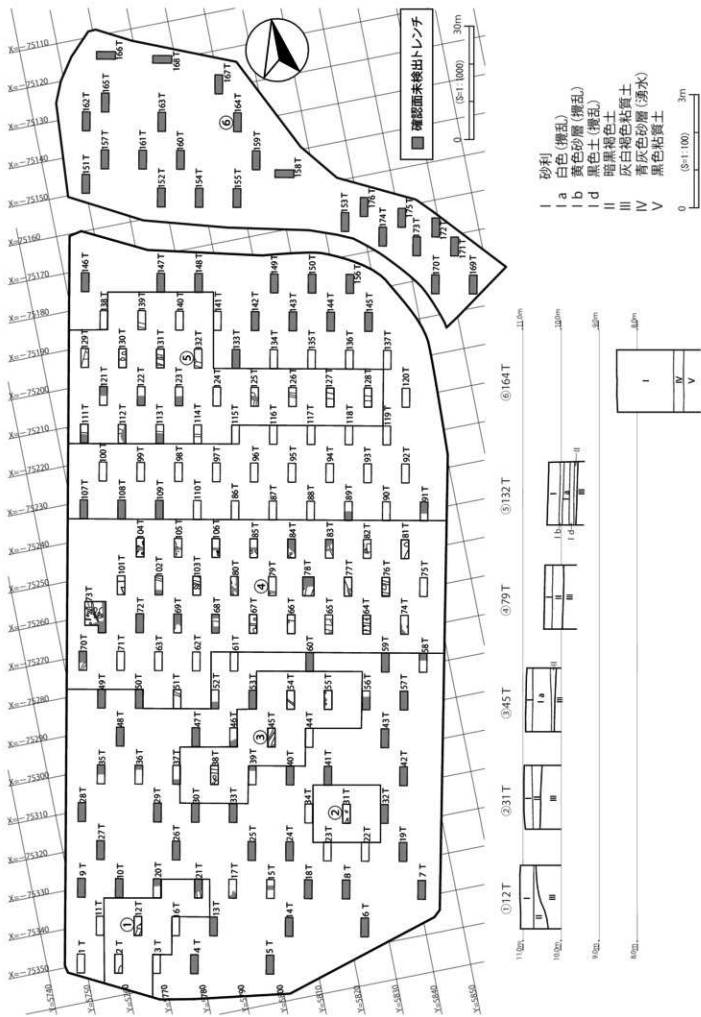
4 調査の方法(第3図)

確認調査は令和元年度に実施し、対象地内における遺構の分布と種別を把握するため、対象地21,878.95㎡に2×5mのトレンチを176本設定した。現況は荒蕪地である。調査を実施するにあたり、公共座標に基づく基準点測量及び現況測量は専門業者が行った。写真撮影はデジタルカメラを使用した。遺構確認面までの表土を重機で除去した後、鋤鎌を用いて人力により遺構検出作業を行った。現地表面から確認面(Ⅲ層上面)までは0.4～1.34mである。確認調査の結果、奈良・平安時代溝跡37条・土坑12基・ピット59基が検出されたため、事業者と市教育委員会生涯学習文化課とで協議を行い、埋蔵文化財をどうしても保存することができない部分7,748.5㎡については、本調査を実施することとなった。

本調査区は、A～E区の5区画に分け、B→A→C→E→Dの順に調査を行った。遺構番号は、本調査区全体で通し番号を付した。遺構確認面までの表土は重機により除去し、本調査範囲の遺構検出作業、覆土掘り下げは人力で行った。公共座標に基づく基準点測量は専門業者が行い、この杭を用いて実測作業を行った。出土した遺物は遺構ごとに取り上げた。遺構の平面図は基準杭を用いて平板測量を行った。A～C区調査中の令和2年6～7月は長梅雨で雨量が多く、調査区が冠水することが何度もあり、その都度水中ポンプで汲み上げを実施した。A～C、E区では、調査終了後は重機により排土を埋め戻して原状復帰した。D区は、事業者都合により埋め戻しは実施せず、現地作業を終了した。

5 基本土層（第3図）

現況は、荒蕪地である。従前、調査区には社宅が建っていたが、解体工事の影響を受けている部分が大きく、本調査区内にも攪乱が及んでいた。基本土層は①～⑥で記録した。全トレンチに共通して、上層0.2～0.4mは後世に敷設した砂利層がみられる。地山層はⅢ層の灰白褐色粘質土で、①～⑤で確認した。地山層は、現地表面から0.5～1.3mで検出する。⑥の調査区北側では確認面（Ⅲ層）が検出されず、トレンチ掘削時に激しい湧水があった。確認面が検出されなかった調査区北側は、現地表面も①～⑤に比べ約1.7m低く、本調査範囲を中心にした南側部分が微高地であったことがわかる。



第3図 確認調査結果及び基本土層図

第2章 調査成果

1 検出遺構（第4図）

本調査範囲は、5区画に分かれており、南側から順にA～Eとし、各区画ごとに調査を実施した。調査成果は、各区画ごとに報告する。検出遺構は、古墳時代溝跡3条・土坑1基、奈良・平安時代竪穴住居跡3軒・掘立柱建物跡2棟・溝跡66条・土坑149基・井戸2基・ピット352基、中世井戸1基・ピット3基、中世以降溝跡6条である。

2 A区（第5～8図、表1・2）

溝跡

SD-005（第5・6図）

重複関係 なし

規模・形態・構造 幅0.12～0.6m、深さ0.15～0.3m、検出部分の長さは4.7m。南-北方向に走る溝で、断面形は逆台形状である。底面にピット状の掘り込みをもつ。

遺物 土師器、鉄滓53.2gが出土した。土師器は坏などが含まれるが、いずれも小片のため図示し得るものはない。

SD-006（第5・7図、表2）

重複関係 SD-006→SK-019、P-34→P-35

規模・形態・構造 幅0.6～1.5m、深さ0.6～1.0m、検出部分の長さは11.8m。南西-北方向に走る溝で、直角に曲がる。断面形は、SK-019より北側部分では、東側にテラスをもつ形状でそれ以外は、逆台形状である。

遺物 土師器、須恵器が出土した。

SD-007（第5～7図、表2）

重複関係 SD-007→SD-008、P-67

規模・形態・構造 幅1.0～1.1m、深さ0.1～0.15m、検出部分の長さは4.8m。南西-北東方向に走る溝で、断面形は皿状である。

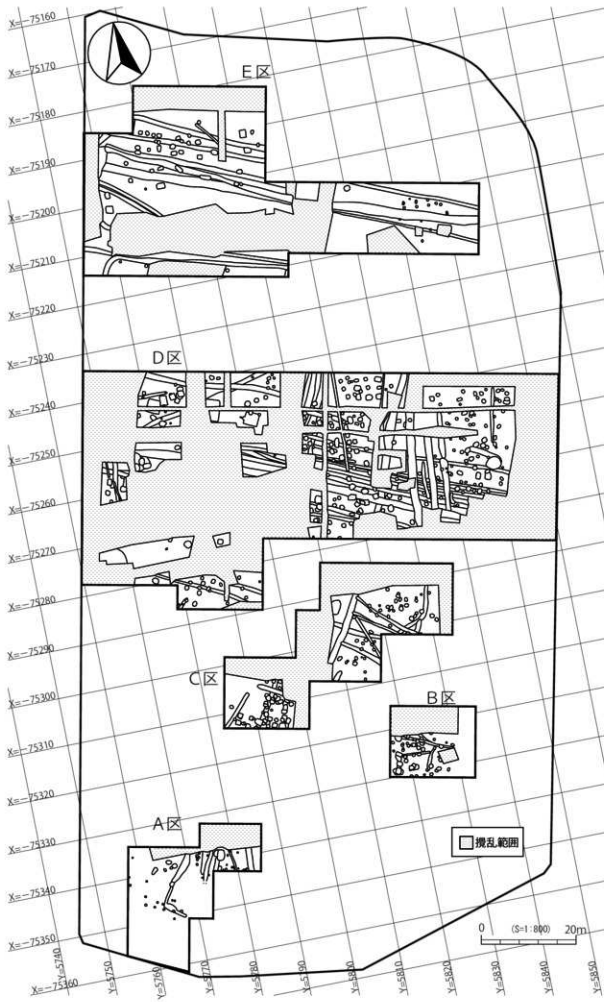
遺物 土師器、須恵器、羽口片72.57g、鉄滓334.98gが出土した。土師器は坏・高坏・甕、須恵器は甕などが含まれる。

SD-008（第5～7図、表2）

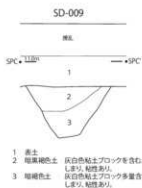
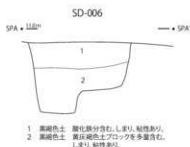
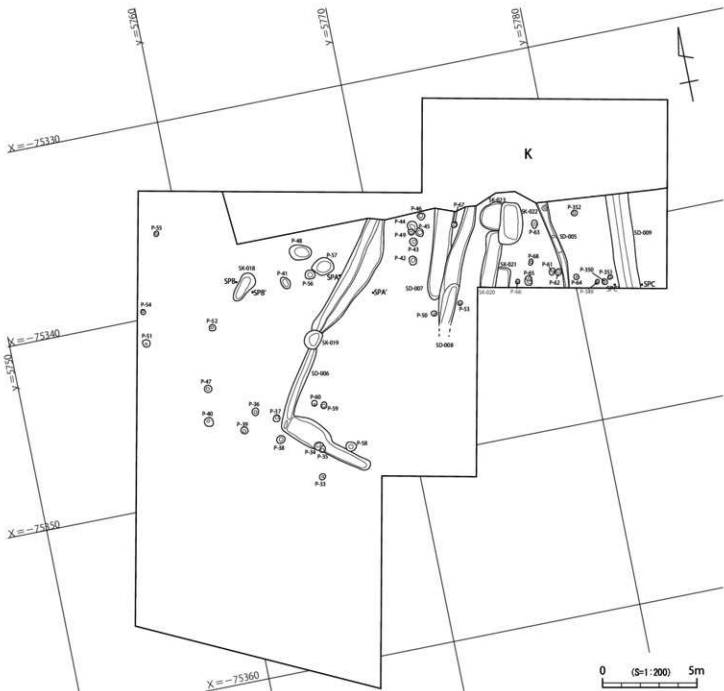
重複関係 SD-007→SD-008

規模・形態・構造 幅0.6～1.0m、深さ0.1～0.2m、検出部分の長さは6.2m。南西-北東方向に走る溝で、断面形は逆台形状である。

遺物 土師器1,700g、須恵器120g、羽口片570.66g、鉄滓4,427.86g、粘土塊622.6g、砂岩124.33gが



第4図 遺構配置図



0 (S=1:50) 1m

第5図 A区遺構実測図(1)

出土した。土師器は坏・高坏・甕、須恵器は甕・蓋などが含まれる。9は礎で、6の直下から出土した。

SD-009 (第5・7図、表2)

重複関係 なし

規模・形態・構造 幅1.1m、深さ0.7m、検出部分の長さは5.0m。南-北方向に走る溝で、断面形はV字状で底面は平坦な形状である。

遺物 土師器、須恵器、陶器、鉄滓166.57gが出土した。土師器と須恵器は小片であり、混入の可能性が高い。

土坑

SK-018 (第5・7図、表2)

重複関係 なし

規模・形態・構造 長軸3.2m、短軸0.6～0.8m、深さ0.4～0.6m。平面形は不整な楕円形で、断面形は逆台形状である。

遺物 土師器が出土した。土師器は坏などが含まれる。

SK-019 (第5～7図、表2)

重複関係 SD-006→SK-019

規模・形態・構造 直径0.8～1.0m、深さ1.0m。平面形は不整な円形で、断面形は逆台形状である。

遺物 土師器、須恵器が出土した。土師器は坏・高坏などが含まれる。

SK-020 (第5～7図、表2)

重複関係 SK-021→SK-020→SK-022

規模・形態・構造 検出部分の長軸2.96m、短軸0.8m、深さ0.3m。平面形は長方形が想定され、断面形は逆台形状である。

遺物 土師器、須恵器、鉄滓327.63gが出土した。土師器は坏・甕、須恵器は蓋などが含まれる。

SK-021 (第5～7図、表2)

重複関係 SK-021→SK-020

規模・形態・構造 検出部分の長軸1.0m、検出部分の短軸0.7m、深さ0.19m。平面形は長方形が想定され、断面形はU字状である。

遺物 土師器、須恵器、鉄滓86.75gが出土した。土師器は坏・甕、須恵器は甕などが含まれる。

SK-022 (第5・6・8図、表2)

重複関係 SK-023→SK-020→SK-022

規模・形態・構造 長軸2.16m、短軸1.2m、深さ0.16～0.28m。平面形は長方形で、断面形は逆台形状である。

遺物 土師器、須恵器、鉄滓1,433.46g、砥石1点、軽石29.61gが出土した。土師器の坏・甕、須恵器の蓋・甕などが含まれる。

SK-023 (第5・6・8図、表2)

重複関係 SK-023 → SK-022

規模・形態・構造 長軸1.5m、検出部分の短軸1.1m、深さ0.22m。平面形は不整な円形が想定され、断面形はU字状である。覆土には酸化鉄・焼土・炭化物を多量に含み、その中に粘土を含む箇所がある。また、出土遺物に羽口片や鉄滓などが多数含まれるため、鉄製作関係遺構の可能性がある。

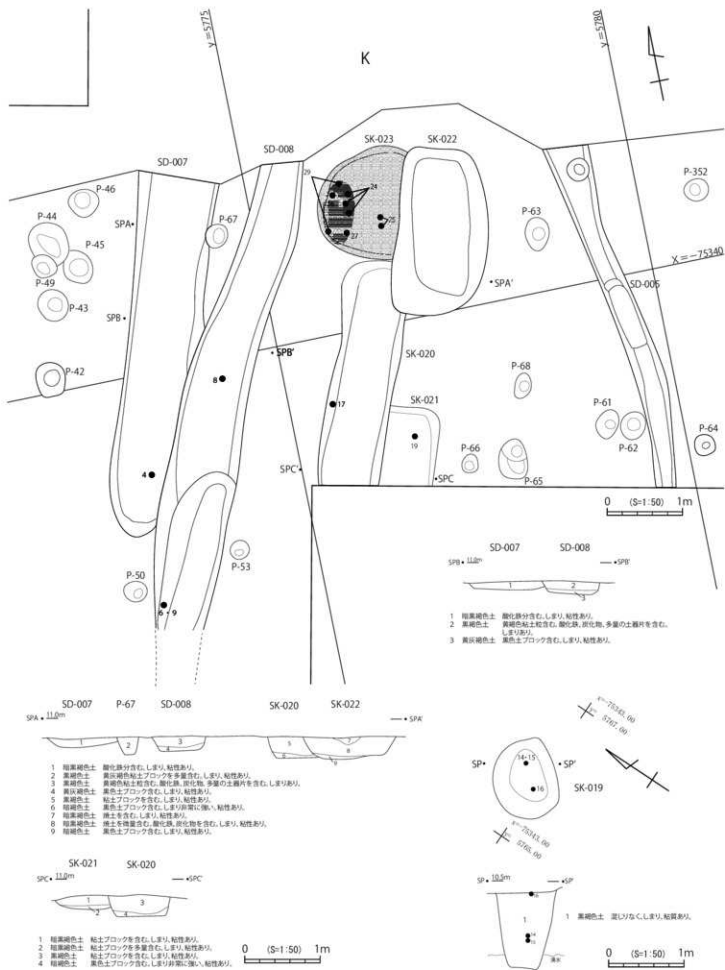
遺物 土師器1,020g、須恵器27g、羽口片1,017g、鉄滓4,545.55g、軽石181.21gが出土した。土師器は坏・高坏・甕、須恵器は坏・蓋などが含まれる。

ビット

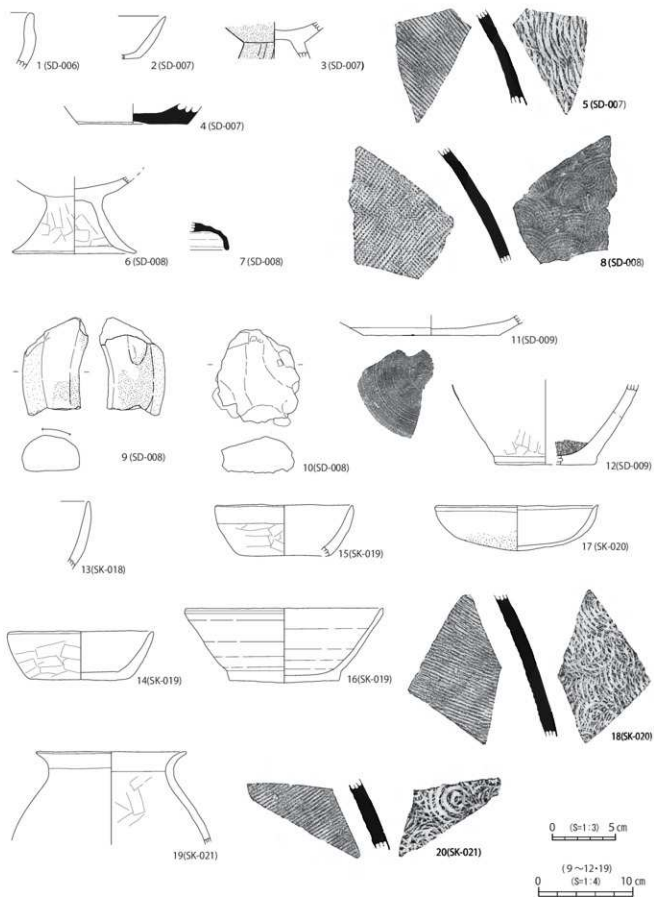
詳細は一覧表にまとめた。

遺構	重複関係	規模	平面形	柱状の有無	出土遺物	備考
P-33	なし	直径0.55m、深さ0.47m	円形	無	土師器	第5図
P-34	29-306 → P-34 → P-35	直径0.45m、深さ0.41m	円形	無	土師器	第5図
P-35	29-306 → P-34 → P-35	長軸0.48m、短軸0.24m、深さ0.27m	不整な楕円形	無	土師器	第5図
P-36	なし	直径0.38m、深さ0.35m	円形	無	土師器	第5図
P-37	なし	直径0.38m、深さ0.42m	円形	無	土師器	第5図
P-38	なし	直径0.42m、深さ0.4m	円形	無	土師器	第5図
P-39	なし	直径0.4m、深さ0.29m	円形	無	土師器	第5図
P-40	なし	直径0.45m、深さ0.24m	円形	無	なし	第5図
P-41	なし	長軸0.48m、短軸0.42m、深さ0.23m	楕円形	無	若草器	第5図
P-42	なし	長軸0.4m、短軸0.4m、深さ0.26m	不整な方形	無	土師器	第6図
P-43	なし	直径0.4m、深さ0.12m	円形	無	土師器の坏を含む	第6図
P-44	P-41 → P-44 → P-49	直径0.5 ~ 0.4m、深さ0.11m	不整な円形	無	土師器	第6図
P-45	P-41 → P-44	一辺0.9m、深さ0.25m	不整な方形	無	土師器	第6図
P-46	なし	直径0.38 ~ 0.4m、深さ0.08m	不整な円形	無	なし	第6図
P-47	なし	直径0.38m、深さ0.21m	円形	無	土師器の坏を含む	第5図
P-48	なし	長軸1.44m、短軸0.88m、深さ0.24m	楕円形	無	土師器の坏を含む	第5図
P-49	P-44 → P-49	直径0.32m、深さ0.15m	不整な円形	無	土師器	第6図
P-50	なし	直径0.29 ~ 0.31m、深さ0.23m	円形	無	土師器	第6図
P-51	なし	直径0.43m、深さ0.28m	円形	無	土師器	第5図
P-52	なし	直径0.34m、深さ0.27m	円形	無	土師器	第5図
P-53	なし	直径0.34m、深さ0.28m	円形	無	なし	第6図
P-54	なし	直径0.26m、深さ0.08m	円形	無	土師器	第5図
P-55	なし	直径0.26m、深さ0.12m	円形	無	なし	第5図
P-56	なし	直径0.48m、深さ0.14m	円形	無	なし	第5図
P-57	なし	長軸1.48m、短軸0.9m、深さ0.23m	楕円形	無	土師器	第5図
P-58	なし	直径0.34m、深さ0.38m	円形	無	土師器	第5図
P-59	なし	直径0.34m、深さ0.22m	円形	無	なし	第5図
P-60	なし	直径0.33m、深さ0.18m	円形	無	なし	第5図
P-61	なし	長軸0.38m、短軸0.29m、深さ0.24m	楕円形	無	なし	第6図
P-62	なし	直径0.28m、深さ0.25m	円形	無	なし	第6図
P-63	なし	長軸0.32m、短軸0.44m、深さ0.34m	楕円形	無	なし	第6図
P-64	なし	直径0.36m、深さ0.25m	円形	無	なし	第6図
P-65	なし	長軸0.52m、短軸0.34m、深さ0.42m	楕円形	有	土師器	第6図
P-66	なし	直径0.2 ~ 0.26m、深さ0.09m	不整な円形	無	土師器	第6図
P-67	29-307 → P-67	直径0.5m、深さ0.21m	不整な円形	無	土師器	第6図
P-68	なし	長軸0.54m、短軸0.2m、深さ0.25m	楕円形	無	なし	第6図
P-69	なし	直径0.29m、深さ0.41m	不整な円形	無	なし	第5図
P-70	なし	直径0.3m、深さ0.35m	不整な円形	無	なし	第5図
P-71	なし	直径0.22m、深さ0.38m	不整な円形	無	なし	第5図
P-72	なし	直径0.32m、深さ0.33m	円形	無	なし	第6図

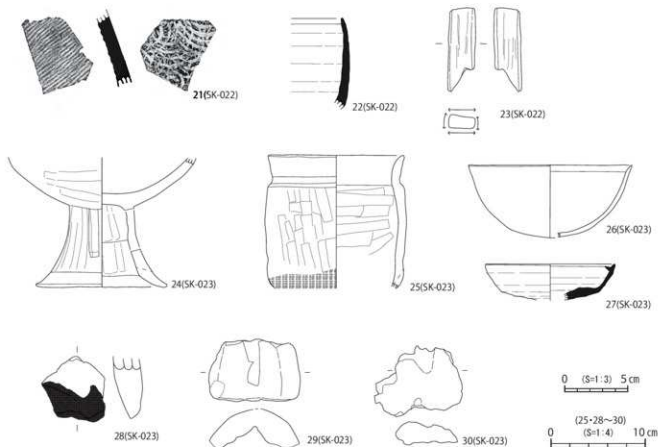
表1 A区ビット観察表



第6図 A区遺構実測図(2)



第7图 A区出土遗物实测图(1)



第8図 A区出土遺物実測図(2)

順	品名・種類	遺存率	寸法等 (mm, g)	特徴	構成	色調	出土
1	土師器碗 集-006	口縁残片		口縁残片コナツテ、内面ナツテ。	土質	内面に赤い斑色、外面黒色	伊奈沢、中蔵、砂粒
2	土師器片 集-007	口縁部～底面片	高 3.2	磨料磨して調整不明。	土質	褐色	集-04・砂粒、白灰粒
3	土師器高片 集-007	外底～胴部縁部底	高 (直) 12.9 底 (直) 1.4	外底内面に磨料磨して調整不明、胴部外面へツケテ。	中々土質	褐色斑色	白灰粒、砂粒
4	土師器片 集-007	底面 1/4	底 (直) 19.0 底 (直) 11.7	口ツケ成形、底面へツケテ。	土質	灰色	集-04・白灰粒、砂粒
5	土師器片 集-007	胴部片		内面にて真底、外面平打ちタテ。	土質		
6	土師器高片 集-008	胴部 1/2	底 (直) 19.0 底 (直) 15.5	内面へツケテ、外面へツケテ。	土質	にじい斑褐色	伊奈沢、中蔵、砂粒
7	土師器片 集-008	口縁残片		口ツケ成形。	土質	灰色	白灰粒、砂粒
8	土師器片 集-008	胴部片		内面にて真底、外面粉子状タテ。	土質	灰色	中蔵、集-04・砂粒
9	土師器片 集-008	西面底欠損	最大径 6.0 最大厚 9.6 重 99.4g	上面厚肉底、上下面、胴面に磨料。			
10	土師器片 集-008	西面底欠損	最大径 9.9 最大厚 9.9 重 121.6				
11	土師器片 集-009	口縁部 1/4	底 (直) 114.4 底 (直) 12.1	内面磨料が散見、外面へツケテ、底面凹縁へツケテ。	土質	褐色斑色	集-04・砂粒、中蔵
12	土師器片 集-009	口縁部 1/4	底 (直) 110.4 底 (直) 19.0	内面磨料が散見、外面平打ちへツケテ。	土質	褐色斑色	集-04・砂粒、中蔵
13	土師器片 集-010	口縁残片		口縁部コナツテ。	中々土質	褐色斑色	集-04・砂粒、砂粒
14	土師器片 集-010	胴部残片	口 11.3 底 8.0 底 3.8	口縁部コナツテ、内面ナツテ、外面へツケテ。	中々土質	褐色	砂粒、中蔵
15	土師器片 集-010	口縁部～底面 1/4	口 (直) 116.8 底 (直) 17.2 底 8.0	口縁部コナツテ、内面ナツテ、外面へツケテ。	土質	褐色	集-04・砂粒、中蔵
16	土師器高片 集-010	1/2	口 15.8 底 8.4 底 5.9	口ツケ成形。	中々土質	にじい斑褐色	集-04・砂粒、砂粒、中蔵
17	土師器片 集-020	1/3	口 13.0 底 5.9 底 3.8	磨料磨して調整不明、外面下部から底面凹縁化、表面に黒色内底に粉粒と粉粒。	中々土質	内面褐色、外面に にじい斑褐色	集-04・砂粒、中蔵

表2 A区出土遺物観察表(1)

16	弥生層大甕 第-020	弥生層		内面にて長板、外面平打タタキ。	良好	内面灰色、外面オリーブ色	砂粒、小石
19	土師器甕 第-021	白磁器～赤磁土/4	口 (径) 16.0 底 (径) 10.0	白磁器～白磁器テラ、内面ヘラテラ、外面器底剥離により不明	中～良好	内面～淡褐色	石灰、砂粒、赤色粒
20	弥生層大甕 第-021	弥生層		内面にて長板、外面平打タタキ。	良好	内面灰色、外面オリーブ色	砂粒、小石
21	弥生層大甕 第-022	弥生層		内面にて長板、外面平打タタキ。	良好	緑オリーブ色	砂粒、小石
22	弥生層大甕陶器 第-022	白磁器層		口が成形、外面板が覆死。	良好	内面灰色、外面オリーブ色	石灰粒、砂粒
23	甕 第-022	下層灰土層	最大径 2.5 最大径 6.4 重 27.0g	甕外面4面			
24	土師器高弁 第-023	黄褐色の灰土層	高 10.2 底 (径) 10.1	内面テラ、外面ヘラテラ、裏方部のスリが3箇所	良好	内面～淡褐色	砂粒、小石
25	土師器甕 第-023	白磁器～赤磁土/2	口 (径) 14.4 底 (径) 14.0	白磁器テラ、内面ヘラテラ、外面ヘラテラ、外面下方に粘土層が確認できる。	良好	赤褐色、外面下方に緑褐色	灰～赤色粒、小石、石灰
26	土師器甕 第-023	白磁器～赤磁土/4	口 (径) 14.0 底 (径) 15.0	原料濃しく調整不明。	不良	褐色	細い砂粒
27	赤磁器甕 第-023	白磁器～赤磁土/4	口 (径) 10.3 底 5.9	口が成形。	良好	灰色	砂粒、石灰粒
28	甕 第-023		最大径 6.0 最大径 7.2 最大径 2.9 重 23.1g	ガラス押付。			
29	甕 第-023		最大径 9.0 最大径 6.2 最大径 2.0 重 199.7g				
30	甕 第-023		最大径 9.0 最大径 6.4 重 313.17				

表2 A区出土遺物観察表(2)

3 B区(第9・10図、表3～5)

溝跡

SD-001(第9図)

重複関係 SD-002、SK-005 → SD-001 → SK-004・007・012、P-2・12・26・353・354

規模・形態・構造 幅0.4～0.65m、深さ0.22m、検出部分の長さは11.15m。南東～北西方向に走る溝で、断面形は逆台形状である。

遺物 土師器が出土した。小片のため図示し得るものはない。

SD-002(第9図)

重複関係 SD-002 → SD-001 → P-26

規模・形態・構造 幅0.55m、深さ0.2m、検出部分の長さは1.8m。南東～北西方向に走る溝で、断面形は逆台形状である。

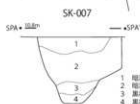
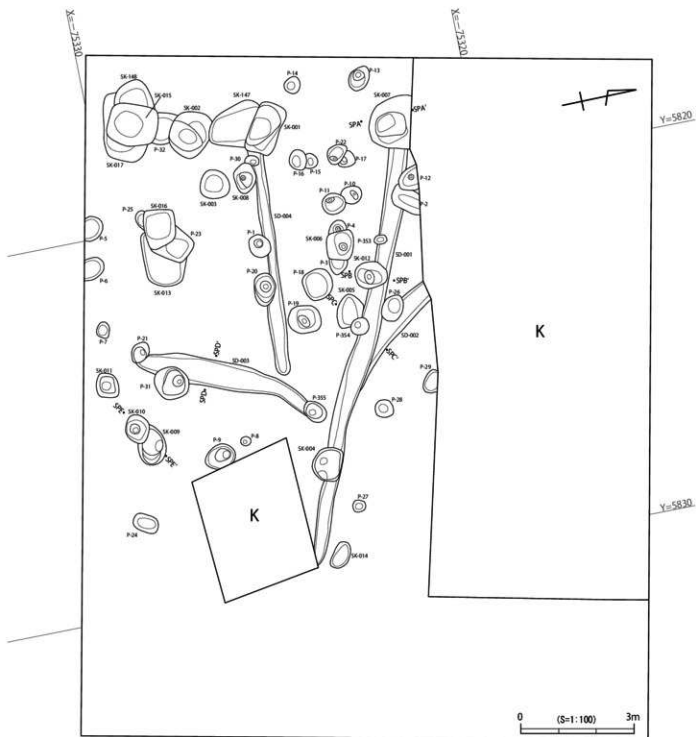
遺物 土師器が出土した。小片のため図示し得るものはない。

SD-003(第9・10図、表5)

重複関係 SD-003 → P-21・31・355

規模・形態・構造 幅0.4～0.7m、深さ0.18m、検出部分の長さは4.4m。南西～北東方向に走る溝で、断面形は逆台形状である。

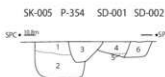
遺物 土師器、須恵器、鉄滓24.75gが出土した。土師器は甕、須恵器は蓋などが含まれる。



- 1 暗黒褐色土 黄灰褐色粘土ブロックを含む。しまり、粘性あり。
- 2 暗黒褐色土 黄灰褐色粘土ブロックを多量含む。しまり、粘性あり。
- 3 黒褐色土 湿りがない。粘性あり。
- 4 暗黒褐色土 灰白色粘土粒を含む。粘性あり。



- 1 暗黒褐色土 黄灰褐色粘土ブロックを含む。しまり、粘性あり。
- 2 暗黒褐色土 黄灰褐色粘土粒を少量含む。しまり、粘性あり。
- 3 黒褐色土 湿りがない。しまり、粘性あり。
- 4 暗黒褐色土 黄灰褐色粘土粒を多量含む。しまり、粘性あり。



- 1 暗黒褐色土 黄灰褐色粘土粒を多量含む。しまりあり。
- 2 暗黒褐色土 黄灰褐色粘土粒を含む。しまり、粘性あり。
- 3 暗黒褐色土 黄灰褐色粘土粒を含む。しまり、粘性あり。
- 4 暗黒褐色土 黄灰褐色粘土粒を多量含む。しまり、粘性あり。
- 5 黄灰褐色土 黒色土ブロックを含む。しまり、粘性あり。
- 6 暗黒褐色土 黄灰褐色粘土粒を多量含む。しまり、粘性あり。



- 1 暗黒褐色土 黄灰褐色粘土粒を含む。しまり、粘性あり。
- 2 灰褐色砂質土 黄色土を含む。しまりあり。



- 1 暗黒褐色土 黄灰褐色粘土粒を多量含む。しまりあり。
- 2 暗黒褐色土 黄灰褐色粘土粒を含む。
- 3 暗黒褐色土 黄灰褐色粘土粒を多量含む。しまり、粘性あり。

0 (S=1:50) 1m

第9図 B区遺構実測図

SD-004 (第9図)

重複関係 SD-004→SK-001・008、P-1・20・30

規模・形態・構造 幅0.25～0.5m、深さ0.08m、検出部分の長さは5.9m。西-東方向に走る溝で、断面形は皿状である。

遺物 土師器が出土した。小片のため図示し得るものはない。

土坑

SK-002 (第9・10図、表5)

重複関係 P-32→SK-002→SK-147

規模・形態・構造 長軸1.2m、短軸1.0m、深さ0.82m。平面形は不整な楕円形で、断面形は逆台形状である。北西方向にテラスを持つ。

遺物 土師器、須恵器が出土した。土師器は坏・甕、須恵器は甕などが含まれる。

SK-016 (第9・10図、表5)

重複関係 SK-013、P-23・25→SK-016

規模・形態・構造 長軸1.0m、短軸0.8m、深さ0.72m。平面形は不整な方形で、断面形は逆台形状である。

遺物 土師器が出土した。土師器は坏などが含まれる。

その他土坑

下記のとおり一覧表にまとめた。

遺構	重複関係	規模・特徴	平面形	断面形	出土遺物	備考
SK-001	SD-004、SK-147→SK-001	長軸1.46m、短軸0.9m、深さ0.99m	長方形	逆台形	土師器	SK-001
SK-002	なし	深径1.6m、深さ0.82m	不整な円形	U字状	土師器	SK-001
SK-004	SD-001→SK-004	長軸0.9m、短軸0.8m、深さ0.75m、底面にピット状の陥り込み	不整な楕円形	逆台形	土師器	SK-001
SK-005	SK-005→SD-001→P-254	長軸0.98m、短軸0.7m、深さ0.53m	不整な楕円形	逆台形	土師器、須恵器の片を伴う。数量16.2g	SK-001
SK-006	P-3・9→SK-006	一辺0.49m、深さ0.29m、底面にピット状の陥り込み	不整な方形	逆台形	土師器	SK-001
SK-007	SD-001→SK-007	楕円部分の長軸1.18m、短軸1.2m、深さ0.9m	不整な楕円形	逆台形	土師器の片を含む。須恵器	SK-001
SK-008	SD-004→P-30→SK-008	長軸0.79m、短軸0.59m、深さ0.7m、ピット状の陥り込み	不整な長方形	逆台形	土師器の片を含む	SK-001
SK-009	SK-009→SK-010	楕円部分の長軸1.05m、短軸0.75m、深さ0.55m、東側にクマシをもち	楕円形	U字状	土師器	SK-001
SK-010	SK-009→SK-010	一辺0.58m、深さ0.46m、底面にピット状の陥り込み	方形	逆台形	土師器	SK-001
SK-011	なし	一辺0.99m、深さ0.4m	方形	U字状	土師器	SK-001
SK-012	SD-001→SK-012	長軸0.98m、短軸0.7m、深さ0.54m、底面にピット状の陥り込み	楕円形	逆台形	なし	SK-001
SK-013	SK-013→P-23→SK-016	楕円部分の長軸1.45m、短軸1.18m、深さ0.9m	長方形	逆台形	土師器の片を含む	SK-001
SK-014	なし	長軸0.75m、短軸0.45m、深さ0.44m	楕円形	U字状	土師器	SK-001
SK-015	SK-015、P-32→SK-148→SK-015	長軸0.9m、短軸1.08m、深さ0.7m	長方形	U字状	なし	SK-001
SK-017	SK-017、P-32→SK-148→SK-017	長軸1.75m、短軸1.2m、深さ0.39m	長方形	U字状	土師器の片を含む	SK-001
SK-147	SK-002→SK-147→SK-001	長軸1.6m、短軸1.11m、深さ0.21m	不整な長方形	逆台形	なし	SK-001
SK-148	SK-017、P-32→SK-148→SK-017	楕円部分が一辺1.6m、深さ0.17m	方形	U字状	なし	SK-001

表3 B区土坑観察表

ピット

平面から掘立柱建物跡の組み合わせを検討したが、組み合わせるものはなかった。

P-31 (第9・10図、表5)

重複関係 SD-003→P-31

規模・形態・構造 直径0.9m、深さ0.62m。平面形は不整な円形で、柱痕を確認した。

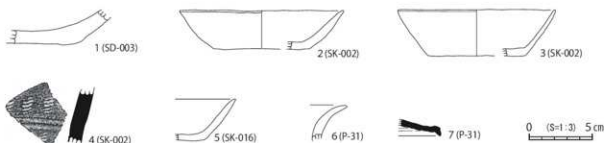
遺物 土師器、須恵器が出土した。土師器は坏・甕、須恵器は蓋などが含まれる。

その他のピット

下記のとおり一覧表にまとめた。

遺構	遺構番号	規模	平断面	柱状の形状	出土遺物	備考
P-1	SD-001→P-1	直径0.4m、深さ0.4m	円形	有	土師器	第99段
P-2	SD-001→P-2→P-12	掘出部分の長軸0.72m、短軸0.53m、深さ0.42m	長方形	無	土師器	第99段
P-3	P-3→SK-006	掘出部分の長さ0.49m、深さ0.29m	半壁心円形	無	土師器	第99段
P-4	P-4→SK-006	掘出部分の直径0.53m、深さ0.41m	円形	有	なし	第99段
P-5	なし	掘出部分の長軸0.62m、深さ0.38m	円形	無	土師器	第99段
P-6	なし	掘出部分の長軸0.59m、短軸0.55m、深さ0.41m	楕円形	無	なし	第99段
P-7	なし	直径0.35m、深さ0.1m	半壁心円形	無	なし	第99段
P-8	なし	直径0.28m、深さ0.12m	円形	無	なし	第99段
P-9	なし	長軸0.46m、掘出部分の短軸0.35m、深さ0.43m	半壁心方形	有	土師器	第99段
P-10	P-10→P-11	直径0.48m、深さ0.32m	半壁心円形	有	土師器	第99段
P-11	P-10→P-11	直径0.38→0.42m、深さ0.44m	半壁心円形	有	土師器	第99段
P-12	SD-001→P-2→P-12	掘出部分の長軸0.54m、短軸0.48m、深さ0.7m	楕円形	有	なし	第99段
P-13	なし	長軸0.46m、短軸0.55m、深さ0.49m	半壁心楕円形	有	土師器	第99段
P-14	なし	直径0.42m、深さ0.23m	円形	無	なし	第99段
P-15	P-15→P-16	直径0.38m、深さ0.23m	円形	無	なし	第99段
P-16	P-15→P-16	直径0.46m、深さ0.37m	半壁心円形	無	土師器の残片を含む	第99段
P-17	P-17→P-22	直径0.49m、深さ0.64m	半壁心円形	有	土師器	第99段
P-18	なし	一回0.47m、深さ0.35m	方形	無	土師器の残片を含む	第99段
P-19	なし	長軸0.46m、短軸0.77m、深さ0.63m	楕円形	有	土師器、銅土師器の遺片を含む	第99段
P-20	SD-001→P-20	長軸0.93m、短軸0.58m、深さ0.54m	半壁心楕円形	有	土師器、銅土師器	第99段
P-21	SD-003→P-21	直径0.48m、深さ0.25m	半壁心円形	有	土師器	第99段
P-22	P-17→P-22	長軸0.58m、短軸0.45m、深さ0.44m	半壁心楕円形	有	なし	第99段
P-23	SK-013→P-23→SK-016	掘出部分の長さ1.09m、短軸0.41m、深さ0.43m	長方形	無	土師器	第99段
P-24	なし	長軸0.77m、短軸0.47m、深さ0.47m	楕円形	無	なし	第99段
P-25	P-25→SK-018	掘出部分の長さ0.38m、深さ0.28m	楕円形	無	土師器	第99段
P-26	SD-002→SD-001→P-26	直径0.54m、深さ0.39m	円形	無	土師器	第99段
P-27	なし	直径0.45m、深さ0.41m	円形	無	土師器	第99段
P-28	なし	直径0.55m、深さ0.36m	円形	無	土師器	第99段
P-29	なし	掘出部分の長軸0.63m、短軸0.35m、深さ0.16m	楕円形	無	なし	第99段
P-30	SD-004→P-30→SK-009	長軸0.46m、短軸0.35m、深さ0.64m	楕円形	無	なし	第99段
P-32	P-22→SK-015→SK-002	掘出部分の長さ0.45m、深さ0.19m	半壁心円形	無	なし	第99段
P-35	SD-001→P-35	長軸0.25m、短軸0.22m、深さ0.64m	楕円形	無	なし	第99段
P-34	SK-005→SD-001→P-34	直径0.41m、深さ0.51m	円形	無	なし	第99段
P-35	SD-003→P-35	長軸0.65m、短軸0.49m、深さ0.33m	楕円形	有	なし	第99段

表4 B区ピット観察表



第10図 B区出土遺物実測図

NO	遺構・種類	遺構番号	大きさ (mm)	特徴	構成	色調	出土
1	土師器類	SK-002	高1.5、径12.7	内面平下、外面平下。	貝殻	褐色	赤褐色、中央、裏面、砂粒
2	土師器類	SK-002	口1.5、径13.0 底1.0、径17.4 高3.0	器口磨して調整不明。	貝殻	褐色	黒シタ・砂粒、白色粒
3	土師器類	SK-002	口1.5、径13.4 底1.0、径17.4 高1.5、径13.4	器口磨して調整不明。	貝殻	褐色	白色粒、砂粒
4	褐色器類	銅土師片	高1.5、径13.4	表面磨沢、又は下方に沈着物を含む。	貝殻	オリーブ褐色	黒シタ・砂粒、砂粒
5	土師器類	土師器片	高1.5、径13.4	器口磨して調整不明。	貝殻	内面褐色、外面に シタ・黄褐色	黒シタ・砂粒
6	土師器類	銅土師片	高1.5、径13.4	器口磨沢。	貝殻	褐色	砂粒、赤褐色、白色粒
7	褐色器類	銅土師片	高1.5、径13.3	口下の磨沢。	貝殻	灰色	黒シタ・砂粒、白色粒

表5 B区出土遺物観察表

4 C区(第11～17図、表6～10)

溝跡

SD-010(第13図)

重複関係 SD-013→SD-010

規模・形態・構造 幅0.4m、深さ0.22m、検出部分の長さは0.14m。南西―北東方向に走る溝で、断面形は逆台形状である。

SD-011(第13・15図)

重複関係 SD-012→SD-011

規模・形態・構造 幅0.7～1.0m、深さ0.14m、検出部分の長さは5.4m。南東―北西方向に走る溝で、断面形はおわん状である。

遺物 土師器、須恵器が出土した。土師器は坏・甕などが含まれるが、小片のため図示し得るものはない。

SD-012(第13・15図)

重複関係 SD-012→SK-149・150・151、P-84→SK-039、P-73→SD-011、SK-029・031・032・035・036・152、P-74・77・79

規模・形態・構造 幅0.8～1.0m、深さ0.4～0.5m、検出部分の長さは10.7m。南西―北東方向に走る溝で、断面形は逆台形状である。

遺物 土師器が出土した。土師器は坏などが含まれるが、小片のため図示し得るものはない。

SD-013(第13・15図)

重複関係 SD-013→SD-010、P-85

規模・形態・構造 幅0.7m、深さ0.48m、検出部分の長さは8.7m。南西―北東方向に走る溝で、断面形は箱状である。

遺物 土師器が出土した。小片のため図示し得るものはない。

SD-014(第11・12・14図、表6)

重複関係 SD-015→SD-014→SD-016・017・018・021

規模・形態・構造 幅0.25～0.5m、深さ0.08m、検出部分の長さは15.6m。南西―北東方向に走る溝で、両側にテラスをもつ形状で、底面は平坦である。

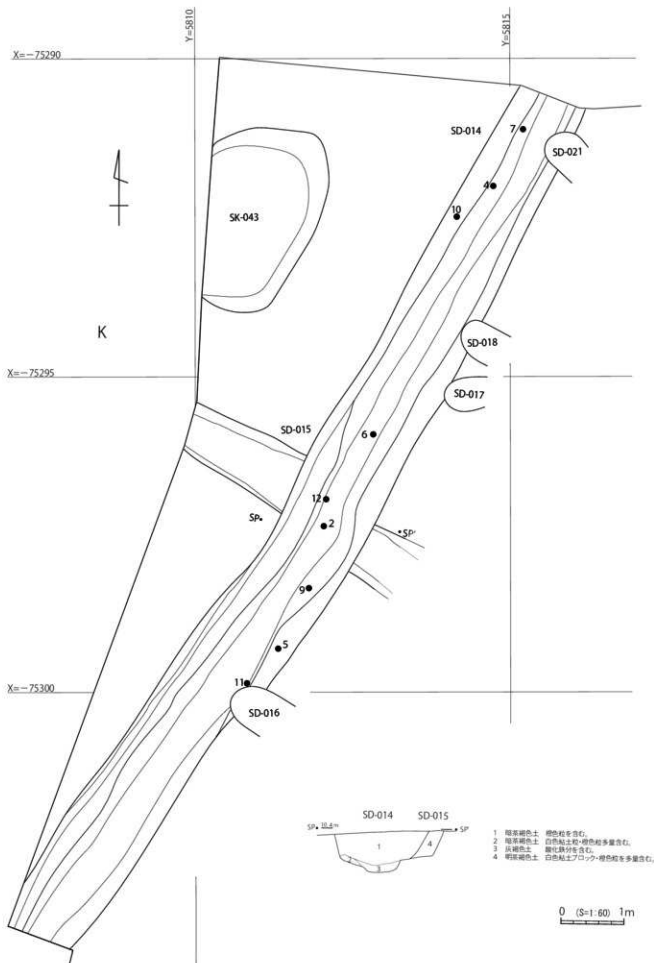
遺物 土師器4,160g、須恵器538g、瓦、鉄滓179g、羽口片456g、粘土塊175gが出土した。土師器の坏・甕・高坏、須恵器の高台坏・蓋・甕などが含まれる。

SD-015(第11・12・14・15図、表6)

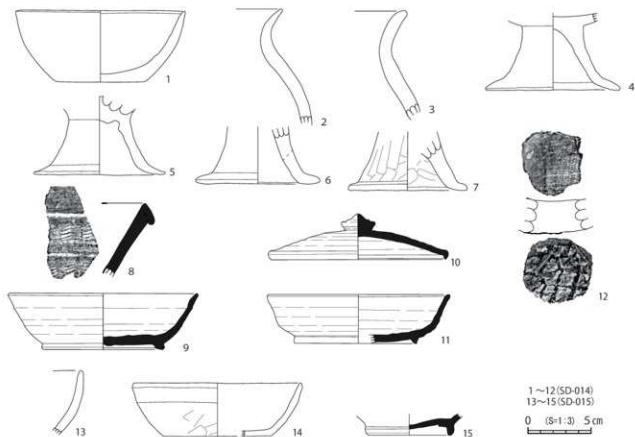
重複関係 SD-015→SD-014・022・017・021・025、SK-154

規模・形態・構造 幅0.6～1.1m、深さ0.37～0.7m、検出部分の長さは27.8m。西―北方向に弧状に走る溝で、断面形は逆台形状である。

遺物 土師器、須恵器、羽口50.6gが出土した。土師器は坏・甕、須恵器は蓋・坏などが含まれる。



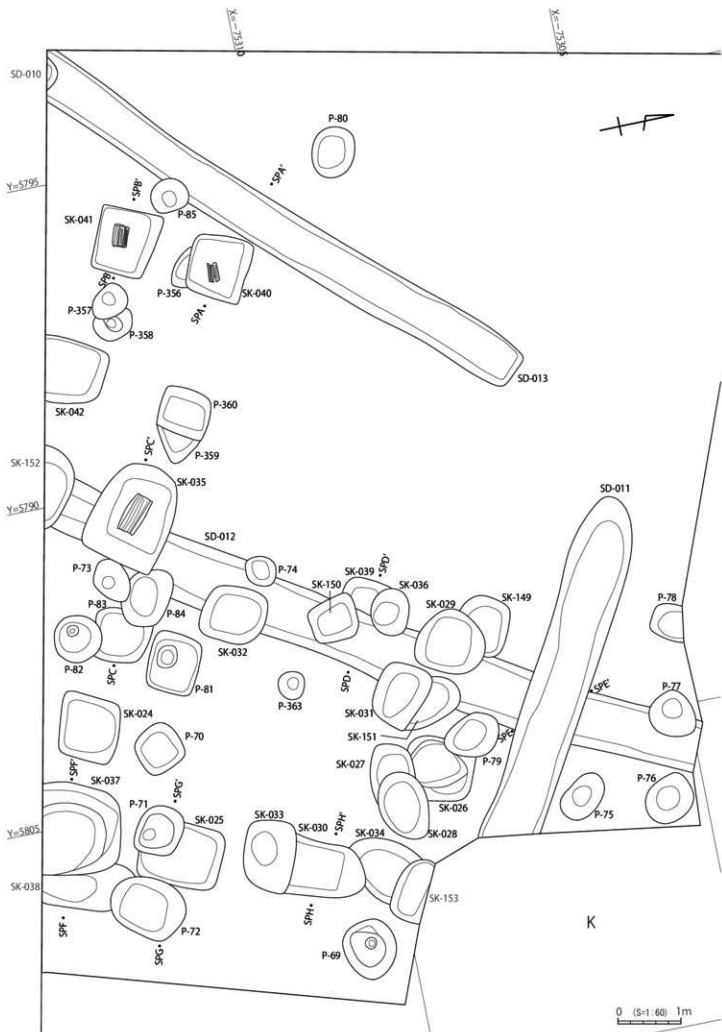
第 11 図 SD-014・015 遺構実測図



第12図 SD-014・015出土遺物実測図

No	名称・種類	遺物番号	寸法 (mm)	特徴	構成	色調	出土
1	土師器鉢	口縁部～底面 1/4	口径 113.4 底径 36.9 高さ 5.4	膠料施して調整不明	中々目紋	土色～黄褐色	罐04・5・6・7
2	土師器鉢	口縁部片		膠料施して調整不明	平目	褐色	砂眼、赤色粒、小石、石膏
3	土師器鉢	口縁部片		膠料施して調整不明	平目	褐色	砂眼、赤色粒、小石、石膏
4	土師器高弁	断面 2/3	径 16.3 高さ 16.1	膠料施して調整不明	平目	内面に赤い帯状、赤粒、小石、白色粒、石膏	外黄褐色
5	土師器高弁	断面のほぼ完全	径 16.3 高さ 16.2	膠料施して調整不明	平目	黄褐色	砂眼、赤色粒
6	土師器高弁	断面 1/2	径 16.9 高さ 14.5	膠料施して調整不明	平目	褐色	罐04・5・6・7、赤色粒
7	土師器高弁	断面 1/3	径 16.9 高さ 14.5	内面ナデ、外面ヘラナデ	目紋	褐色	砂眼、小石、赤色粒
8	赤土器小皿	口縁部片		口縁部取り上げ、外面2本の浅彫りの上に漉状文	目紋	灰色	罐04・5・6・7
9	赤土器高弁	口縁部～底面 1/4	口径 114.9 底径 9.4 高さ 4.3	コナリ成肌	目紋	灰白色	罐04・5・6・7、白色粒
10	赤土器高弁	2/3	口径 113.7 底径 5.6	器元腐敗地が十分である、コナリ成肌、呈現部のツヤミ感も目立つ	中々目紋	黄褐色	罐04・5・6・7、白色粒
11	赤土器高弁	口縁部～底面 3/4	口径 14.4 底径 9.4 高さ 3.9	コナリ成肌	目紋	灰白色	罐04・5・6・7、白色粒
12	平皿	厚 2.3～2.6 径 105.5		外面赤土色、内面黄土色ナデ、平面部が自然であり、点々状の凹みもある	目紋	黄褐色	罐04・5・6・7、白色粒
13	土師器鉢	口縁部片		膠料施して調整不明	平目	黄褐色	砂眼、赤色粒、石膏
14	土師器鉢	口縁部～底面 1/4	口径 115.1 底径 18.5 高さ 4.2	内面ヘラナデ、外面口縁部コナデ、体部ヘラナデ	平目	褐色	砂眼、赤色粒
15	赤土器高弁	断面のほぼ完全	径 6.6 高さ 11.5	コナリ成肌	目紋	灰白色	白色粒、中粒

表6 SD-014・015出土遺物観察表



第13図 C区遺構平面図(1)

SD-016 (第14図)

重複関係 SD-014 → SD-016 → SD-022、P-94

規模・形態・構造 幅0.7～1.1m、深さ0.51m、検出部分の長さは9.3m。南東-北西方向に走る溝で、断面形は逆台形で、南側にテラスを持つ形状である。

SD-017 (第14・17図、表10)

重複関係 SD-014 → SD-018 → SD-017 → SD-022

規模・形態・構造 幅0.5～0.6m、深さ0.1～0.2m、検出部分の長さは10.6m。南東-北西方向に走る溝で、断面形は逆台形状である。

遺物 土師器、須恵器、ガラス滓付羽口片213.15gが出土した。土師器は坏などが含まれる。

SD-018 (第14図)

重複関係 SD-014 → SD-018 → SD-017

規模・形態・構造 幅0.6m、深さ0.21m、検出部分の長さは4.5m。南東-北西方向に走る溝で、断面形は逆台形状である。

遺物 土師器、須恵器が出土した。土師器は坏・甕などが含まれるが、小片のため図示し得るものはない。

SD-019 (第14図)

重複関係 なし

規模・形態・構造 幅1.0m、深さ0.07m、検出部分の長さは2.4m。南西-北東方向に走る溝で、断面形は皿状である。

遺物 土師器が出土した。小片のため図示し得るものはない。

SD-021 (第14・15・17図、表10)

重複関係 SD-015 → SD-014 → SD-025 → SD-021 → SK-155、P-107・109・119・122・361

規模・形態・構造 幅0.38～0.8m、深さ0.28～0.32m、検出部分の長さは15.3m。南東-北西方向に走る溝で、断面形は逆台形状である。

遺物 土師器、須恵器、羽口55gが出土した。土師器は坏・甕、須恵器は蓋・坏などが含まれる。

SD-022 (第14・15図)

重複関係 SD-015 → SD-016・017 → SD-022 → P-96・362

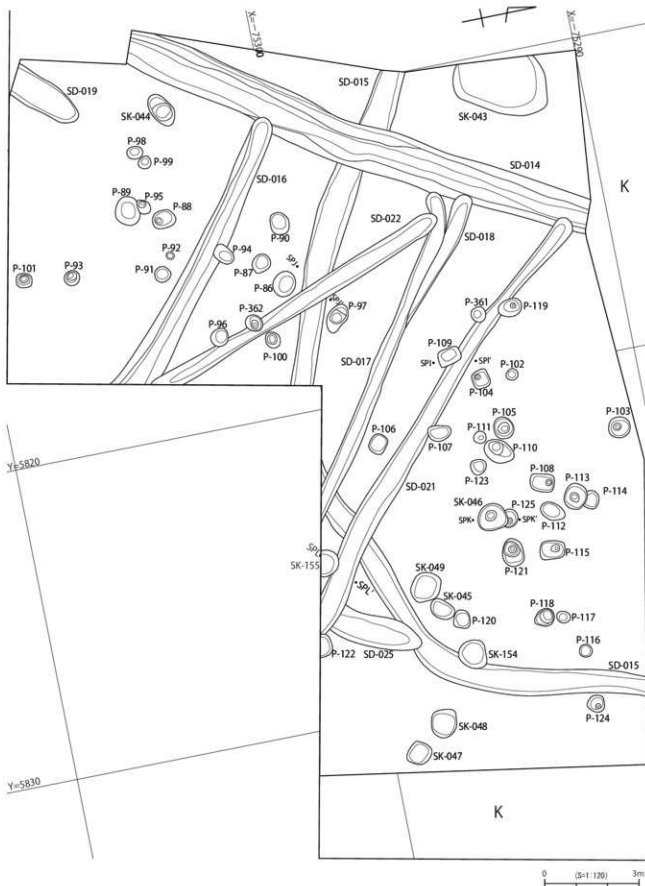
規模・形態・構造 幅0.4～0.6m、深さ0.2～0.25m、検出部分の長さは10.4m。南東-北西方向に走る溝で、断面形は逆台形状である。

SD-025 (第14・17図、表10)

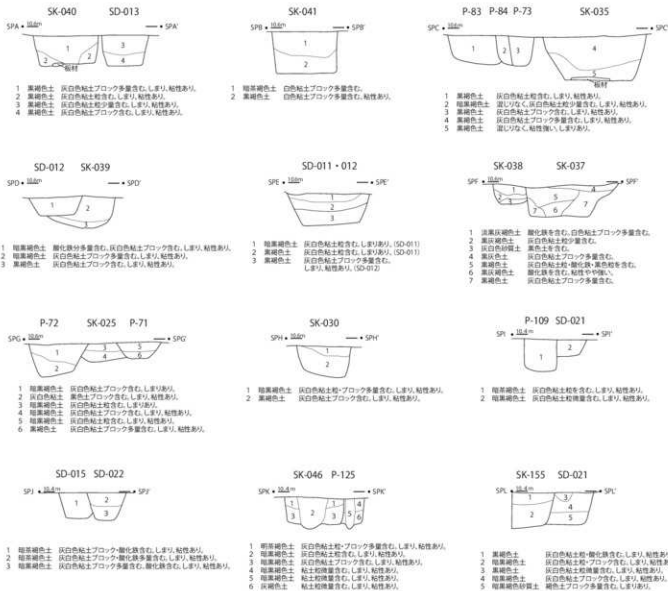
重複関係 SD-015 → SD-025 → SD-021

規模・形態・構造 幅0.8～1.0m、深さ0.37～0.7m、検出部分の長さは2.3m。南西-北方向に走る溝で、断面形は逆台形状である。

遺物 土師器、須恵器が出土した。土師器は坏・甕、須恵器は坏・甕などが含まれる。



第 14 图 C区遺構平面図 (2)



0 (S=1:60) 1m

第 15 図 C区遺構断面図

土坑

SK-024 (第 13・17 図、表 10)

重複関係 なし

規模・形態・構造 一辺 0.7 ~ 0.9 m、深さ 0.48 m。平面形は不整な方形で、断面形は逆台形状である。

遺物 土師器が出土した。土師器は坏・甕・高坏などが含まれる。

SK-031 (第 13・17 図、表 10)

重複関係 SD-012 → SK-151 → SK-031

規模・形態・構造 長軸 1.0 m、短軸 0.7 m、深さ 0.89 m。平面形は不整な長方形で、断面形は逆台形状である。

遺物 土師器、須恵器が出土した。土師器は坏、須恵器は甕などが含まれる。

SK-037 (第13・15・17図、表10)

重複関係 SK-038 → SK-037

規模・形態・構造 検出部分の長軸1.2 m、短軸1.4 m、深さ0.53 m。平面形は不整な楕円形が推定される。断面形は逆台形状である。西方向にテラスを持つ。

遺物 土師器、粘土塊が出土した。土師器は坏などが含まれる。

SK-038 (第13・15・17図、表10)

重複関係 SK-038 → SK-037、P-72

規模・形態・構造 検出部分の長軸1.3 m、短軸0.7 m、深さ0.22 m。平面形は不整な楕円形で、断面形は逆台形状である。

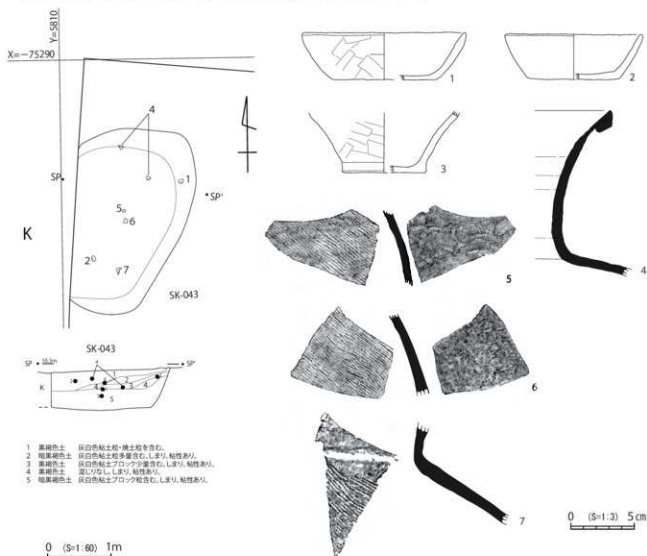
遺物 土師器が出土した。土師器は坏・甕などが含まれる。

SK-043 (第14・16図、表7)

重複関係 なし

規模・形態・構造 長軸2.9 m、検出部分の短軸2.0 m、深さ0.35～0.68 m。平面形は不整な長方形で、断面形は逆台形状である。

遺物 土師器3,979g、須恵器970g、鉄滓354g、粘土塊142.2gが出土した。土師器は坏・甕、須恵器は甕などが含まれる。土師器は坏片が多く、須恵器は甕の胴部片が多い。



第16図 SK-043 実測図

No	遺構・種類	遺構名	大きさ (m, 方)	特徴	構成	色調	出土
1	土間層	石縁部～底面1/1	口 (長) 12.9 幅 (長) 18.0 高 3.0	壁材腐して調整不明。	小や不高	褐色	赤褐色、黒鉄、砂粒
2	土間層	石縁部～底面1/2	口 (長) 136.0 幅 (長) 17.2 高 3.5	壁材腐して調整不明。	不詳	黄褐色	砂粒、小石、石片
3	土間層(小溝)	石縁部～底面1/3	幅 16.4 高 (長) 14.7	内面平直、外面へずす。	良好	内面オリーブ黒色、 外面黄褐色	砂粒、石片、小溝
4	石造層	石縁部～軒梁下		石の成形、外面磨り出し口縁。	良好	灰色	白色鉄、石片、小溝
5	石造層	軒梁下		内面にて真硯、外面平行タタキ。	良好	灰色白色	細い骨鉄粒、石片
6	石造層	軒梁下		内面にて真硯、外面平行タタキ。	良好	灰色白色	小溝、白色鉄
7	石造層	軒梁～軒梁下		石の成形、内面磨り出し真硯、外面平行タタキ、外面磨り出し自然の磨り出し	良好	灰色、外面磨り出し 白色	砂粒、白色小溝

表7 SK-043 出土遺物観察表

その他土坑

下記のとおり一覧表にまとめた。

また、SK-035・040・041の床面直上で板材を検出した。樹種の同定をした結果、ヒノキであることが判明した。樹種同定については、第4章を参照されたい。いずれも明瞭な工具痕等は確認できなかったため、板材検出状況の平面図及び土坑観察表内に計測数値の記載に留めた。

遺構	遺構関係	規模・特徴	平面形	敷設材	出土遺物	備考
SK-025	SK-025→F7→F7	長軸1.22m、短軸1.02m、深さ0.49m	長方形	透石膏	土間層の坪を含む	第13・15層
SK-026	SK-026→SK-027→SK-028、P79	一辺1.0～1.4m、深さ0.8m、東西に穴開きあり	方形	透石膏	土間層の坪を含む、遺灰跡	第13層
SK-027	SK-026→SK-027→SK-028	横山部分の長軸0.9m、短軸0.7m、深さ0.5m	横山形	透石膏	土間層の坪・骨を含む	第13層
SK-028	SK-026→SK-027→SK-028	長軸1.07m、短軸0.73m、深さ0.31m	横山形	UF石膏	土間層の坪を含む	第13層
SK-029	SK-012→SK-110→SK-029	縦横1.0～1.1m、深さ0.40m	不整形な正方形	透石膏	土間層の坪を含む	第13層
SK-030	SK-034→SK-030→SK-033	横山部分の長軸1.18m、短軸0.95m、深さ0.6m	不整形な横山形	透石膏	なし	第13・15層
SK-032	SK-012→SK-032	一辺0.9～1.0m、深さ0.34m	不整形な方形	透石膏	土間層の坪を含む	第13層
SK-033	SK-030→SK-033	長軸1.1m、短軸0.9m、深さ0.62m	長方形	UF石膏	なし	第13層
SK-034	SK-034→SK-030→152	横山部分の長軸0.9m、短軸0.92m、深さ0.49m	横山形	UF石膏	土間層の坪を含む	第13層
SK-035	SK-012→F94→F72→SK-035	長軸1.6m、短軸1.24m、深さ0.75m	長方形	透石膏	土間層の坪を含む	第13・15層
SK-036	SK-036→SK-012→SK-036	長軸0.75m、短軸0.6m、深さ0.36m	横山形	UF石膏	土間層の坪を含む	第13・15層
SK-039	SK-039→SK-012→SK-036・150	横山部分の長軸0.89m、短軸0.7m、深さ0.26m	長方形	透石膏	土間層の坪を含む	第13・15層
SK-040	P350→SK-040	一辺0.9～1.0m、深さ0.34m	方形	透石膏	鉄滓片、板材(長32cm、幅16cm、厚8cm)	第13・15層 第4層
SK-041	なし	一辺0.9～1.0m、深さ0.74m	方形	透石膏	土間層の坪を含む、板材(長35cm、幅25cm、厚4cm)	第4層
SK-042	なし	横山部分の長軸1.05m、短軸1.05m、深さ0.69m	長方形	透石膏	土間層の坪を含む、骨鉄粒の基を含む	第13・15層
SK-044	なし	長軸1.1m、短軸0.65m、深さ0.37m、内側の壁立ち込みあり	横山形	透石膏	土間層	第14層
SK-045	なし	長軸0.8m、短軸0.5m、深さ0.39m	横山形	UF石膏	なし	第13層
SK-046	P125→SK-046	長軸0.9m、短軸0.7m、深さ0.50m、ピット状の壁立ち込みあり	不整形な横山形	透石膏	土間層、遺灰跡	第14・16層
SK-047	なし	一辺0.7m、深さ0.3m	方形	透石膏	土間層の坪を含む	第14層
SK-048	なし	長軸1.0m、短軸0.8m、深さ0.7m	不整形な方形	UF石膏	なし	第14層
SK-049	なし	一辺0.9～1.0m、深さ0.53m	不整形な方形	透石膏	土間層、鉄滓片	第13層
SK-148	SK-012→SK-110→SK-029	長軸0.9m、短軸0.8m、深さ0.33m	横山形	透石膏	なし	第13層
SK-150	SK-039→SK-012→SK-150	横山部分の長軸0.7m、短軸0.7m、深さ0.22m	長方形	透石膏	なし	第13層
SK-151	SK-012→SK-151→SK-031	横山部分の長軸1.1m、短軸0.83m、深さ0.38m	横山形	UF石膏	なし	第13層
SK-152	SK-012→SK-152	横山部分の長軸1.32m、横山部分の短軸0.5m、深さ0.69m	横山形	透石膏	なし	第13層
SK-153	SK-014→SK-153	長軸1.2m、横山部分の短軸0.53m、深さ0.47m	横山形	透石膏	なし	第13層
SK-154	SK-012→SK-154	長軸1.0m、短軸0.9m、深さ0.37m	不整形な横山形	UF石膏	なし	第14層
SK-155	SK-021→SK-155	一辺0.9～0.9m、深さ0.31m	正方形	UF石膏	なし	第14・16層

表8 C区土坑観察表

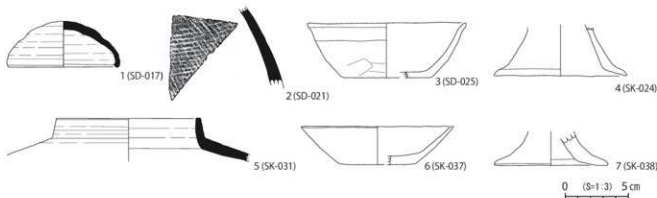
ピット

平面から掘立柱建物跡の組み合わせを検したが、組み合わせるものはなかった。

右記のとおり一覧表にまとめた。

遺構	基礎関係	規模	平断面	柱礎の有無	出土遺物	備考
P-69	なし	基礎0.8×0.9m、深さ0.54m	不整形方形	有	土師器の片を含む、鉄片8kg	第13区
P-70	なし	一辺0.7m、深さ0.39m	方形	無	土師器の片、赤土器の片を含む	第13区
P-71	溝025→P-71	一辺0.7×0.8m、深さ0.46m	不整形方形	有	土師器、赤土器、鉄片7g	第13・15区
P-72	溝025→P72→P72	基礎1.2m、初期0.9m、深さ0.37m	楕円形	無	なし	第13・15区
P-73	P-81→P-73→溝025	基礎0.74m、初期0.51m、深さ0.49m	不整形楕円形	無	なし	第13区
P-74	溝012→P-74	基礎0.67m、深さ0.21m	方形	無	なし	第13区
P-75	なし	基礎0.42m、初期0.51m、深さ0.23m	楕円形	無	なし	第13区
P-76	なし	基礎0.7×0.8m、深さ0.34m	不整形方形	無	土師器、赤土器	第13区
P-77	溝012→P-77	基礎0.75m、深さ0.29m	不整形方形	無	なし	第13区
P-78	なし	掘出部分の一辺0.6m、深さ0.24m	方形	無	土師器	第13区
P-79	溝012、溝026→P-79	基礎0.9m、初期0.7m、深さ0.37m	不整形楕円形	無	なし	第13区
P-80	なし	基礎0.42m、初期0.7m、深さ0.32m	楕円形	無	なし	第13区
P-81	なし	基礎0.95m、初期0.8m、深さ0.39m	長方形	有	土師器の片を含む	第13区
P-82	P-83→P-82→P-84	基礎0.7m、深さ0.32m	方形	有	土師器の片を含む	第13区
P-83	P-83→P-82	一辺0.42×0.39m、深さ0.44m	方形	無	土師器の片・鉄を含む	第13・15区
P-84	溝012→P-84→P-84→P-73→溝025	基礎0.93m、初期0.7m、深さ0.42m	楕円形	無	土師器の片を含む、赤土器	第13区
P-85	溝013→P-85	基礎0.54×0.6m、深さ0.43m	円形	無	土師器の片を含む、赤土器	第13区
P-86	なし	基礎0.64m、初期0.7m、深さ0.42m	不整形楕円形	無	土師器	第14区
P-87	なし	一辺0.55m、深さ0.32m	不整形方形	無	なし	第14区
P-88	なし	基礎0.75m、初期0.55m、深さ0.26m	楕円形	有	土師器の片を含む	第14区
P-89	P-89→P-85	基礎0.9m、初期0.8m、深さ0.27m	楕円形	無	土師器の片を含む	第14区
P-90	なし	基礎0.67m、初期0.8m、深さ0.36m	楕円形	無	土師器の片を含む、鉄片160g	第14区
P-91	なし	基礎0.57m、深さ0.19m	円形	無	土師器、鉄片1g	第14区
P-92	なし	基礎0.79m、深さ0.13m	円形	無	なし	第14区
P-93	なし	基礎0.57m、深さ0.32m	円形	有	土師器	第14区
P-94	溝016→P-94	基礎0.67m、初期0.5m、深さ0.27m	楕円形	無	土師器	第14区
P-95	P-99→P-95	基礎0.7m、初期0.5m、深さ0.44m	不整形楕円形	無	土師器	第14区
P-96	溝022→P-96	基礎0.6m、深さ0.23m	円形	無	土師器	第14区
P-97	なし	基礎0.98m、初期0.64m、深さ0.28m、南東面にフラスコ七つ	不整形楕円形	無	土師器の片を含む	第14区
P-98	なし	基礎0.8m、初期0.8m、深さ0.39m	楕円形	無	なし	第14区
P-99	なし	基礎0.57m、深さ0.09m	円形	無	なし	第14区
P-100	なし	基礎0.55m、深さ0.12m	不整形方形	有	なし	第14区
P-101	なし	一辺0.5m、深さ0.31m	方形	有	土師器の片を含む	第14区
P-102	なし	基礎0.47m、深さ0.11m	円形	無	なし	第14区
P-103	なし	基礎0.77m、深さ0.37m	円形	有	なし	第14区
P-104	なし	一辺0.35m、深さ0.26m	方形	有	なし	第14区
P-105	なし	基礎0.7m、深さ0.35m	円形	有	土師器の片を含む、フラスコ3g	第14区
P-106	なし	一辺0.3×0.4m、深さ0.56m	方形	無	土師器、赤土器の片を含む、鉄片45.51g	第14区
P-107	溝021→P-107	基礎0.45m、初期0.37m、深さ0.13m	楕円形	無	土師器の片を含む	第14区
P-108	なし	基礎0.47m、初期0.55m、深さ0.24m	長方形	有	土師器、赤土器	第14区
P-109	溝021→P-109	基礎0.7m、初期0.5m、深さ0.57m	長方形	無	土師器の片を含む	第14・15区
P-110	なし	基礎1.07m、初期0.77m、深さ0.36m、北東面にフラスコ七つ	不整形楕円形	無	土師器、紅土器、鉄片2g	第14区
P-111	なし	基礎0.47m、深さ0.22m	円形	無	土師器	第14区
P-112	なし	基礎0.47m、初期0.57m、深さ0.36m	楕円形	無	なし	第14区
P-113	P-111→P-113	基礎0.7×0.8m、深さ0.57m	円形	有	土師器、鉄片125g	第14区
P-114	P-111→P-113	掘出部分の直径0.55m、深さ0.26m	円形	無	なし	第14区
P-115	なし	基礎0.87m、初期0.67m、深さ0.87m	長方形	有	土師器	第14区
P-116	なし	基礎0.45m、深さ0.15m	円形	無	土師器	第14区
P-117	なし	基礎0.67×0.67m、深さ0.37m	不整形方形	無	土師器、ガラス片12g	第14区
P-118	なし	基礎0.67×0.77m、深さ0.11m、南面にフラスコ七つ	不整形方形	無	なし	第14区
P-119	溝021→P-119	基礎0.67m、初期0.67m、深さ0.22m	楕円形	有	鉄片70g	第14区
P-120	なし	一辺0.7×0.87m、深さ0.36m	方形	無	土師器	第14区
P-121	なし	基礎0.97m、初期0.67m、深さ0.47m、東面にフラスコ七つ	楕円形	有	土師器	第14区
P-122	溝021→P-122	掘出部分の直径0.77m、深さ0.57m	円形	無	土師器、鉄片14g	第14区
P-123	なし	基礎0.57m、深さ0.12m	不整形方形	無	なし	第14区
P-124	なし	基礎0.55m、深さ0.31m	円形	有	土師器	第14区
P-125	P-125→溝026	掘出部分の直径0.56m、深さ0.46m	円形	有	なし	第14・15区
P-126	P-126→溝040	掘出部分の直径0.46m、掘出部分の初期0.25m、深さ0.27m	楕円形	無	なし	第13区
P-127	P-126→P-127	基礎0.47m、初期0.45m、深さ0.42m	不整形楕円形	無	なし	第13区
P-128	P-126→P-127	基礎0.45m、掘出部分の初期0.45m、深さ0.22m	楕円形	有	なし	第13区
P-129	P-129→P-129	一辺0.45m、深さ0.15m	不整形方形	無	なし	第13区
P-130	P-129→P-130	基礎0.45m、初期0.75m、深さ0.44m	長方形	無	なし	第13区
P-131	溝021→P-131	基礎0.57m、深さ0.25m	円形	無	なし	第14区
P-132	溝022→P-132	基礎0.57×0.57m、深さ0.42m	円形	有	なし	第13区
P-133	なし	基礎0.45m、深さ0.27m	不整形方形	無	なし	第13区

表9 C区ピット観察表



第17図 C区出土遺物実測図

No	器種・種類	遺物番号	大きさ (mm, g)	特徴	構成	色調	出土
1	褐色器蓋 第-017	口縁部～底面1/4	口 8.6 底 5.6	ボタロ成形。	良好	灰白色	緑シロ・緑粘
2	褐色器蓋 第-018	胴部		内面クマシ、外面平行クマシ、底面無クマシ。	良好	褐色	白色粘
3	土師器杯 第-025	口縁部～底面1/2	口 (高) 12.9 底 (高) 16.8 底 6.3	内面無クマシして平肌、内面へツクマシ。	やや不良	褐色	赤粘、白色粘、小礫
4	土師器高杯 第-024	胴部1/3	底 (高) 16.5 底 (高) 14.1	磨料磨して調整不明。	不良	褐色	赤粘、小石、赤色粘
5	褐色器形器蓋 第-031	口縁部～胴部1/3	口 (高) 13.4 底 (高) 12.9	ボタロ成形。	良好	灰色	緑シロ・白色粘
6	土師器杯 第-027	口縁部～底面1/4	口 (高) 13.6 底 (高) 15.6 底 5.5	磨料磨して調整不明。	不良	褐色	粘・赤粘、小石
7	土師器高杯 第-030	胴部1/4	底 (高) 19.6 底 (高) 12.8	磨料磨して調整不明。	不良	内面に黒い黄褐色、外面褐色。	赤粘、赤色粘、石英

表 10 C区出土遺物観察表

5 D区 (第18～59図、表11～25)

竪穴住居跡

SI-001 (第19・28図、表11)

重複関係 SI-001→P-275・276

規模・形態・構造 一辺2.7～2.8m、深さ0.19mである。平面形は正方形である。遺構上部は、削平を受けている。確認できた壁はほぼ垂直に立ち上がる。壁溝は西側一部以外検出され、幅0.16～0.2m、深さ0.3mである。床面は平坦で、掘方には粘土に黒色ブロック・粒を混ぜた土を貼っている。柱穴は確認できなかった。カマドは粘土で構築した両袖の一部と支脚が残る。カマドの周囲からは焼土を検出した。煙道の一部を検出した。貯蔵穴は確認できなかった。

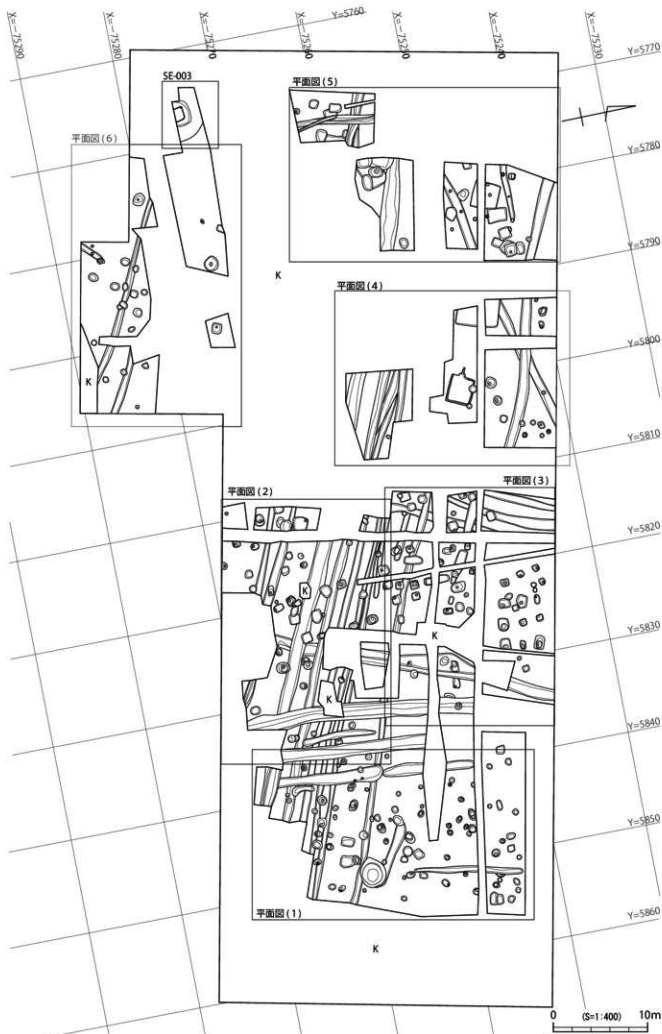
遺物 土師器3,745g、須恵器112g、支脚が出土した。土師器は坏・高坏・甕などが含まれる。

SI-002 (第20・28図、表12)

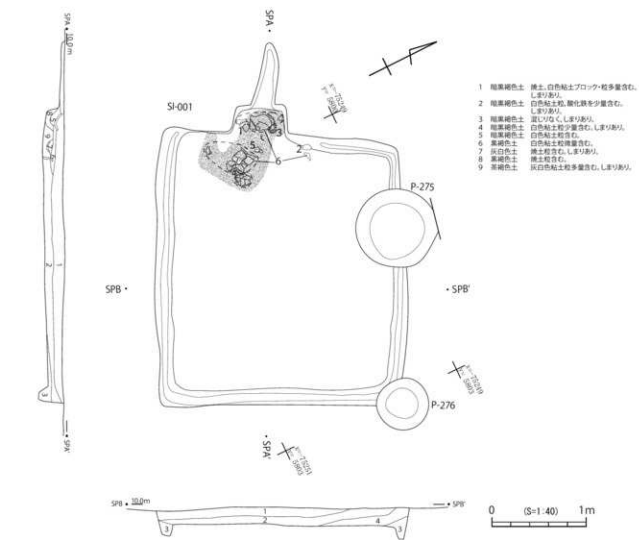
重複関係 なし

規模・形態・構造 検出部分の一辺4.5m、深さ0.08mである。遺構の西側及び中央は攪乱によって不明である。平面形は正方形が想定である。遺構上部は、大きく削平を受けている。確認できた壁はほぼ垂直に立ち上がる。壁溝は検出されなかった。床面は平坦で、硬化面は確認されなかった。カマド、貯蔵穴、柱穴は確認できなかった。焼土や粘土も検出されなかった。

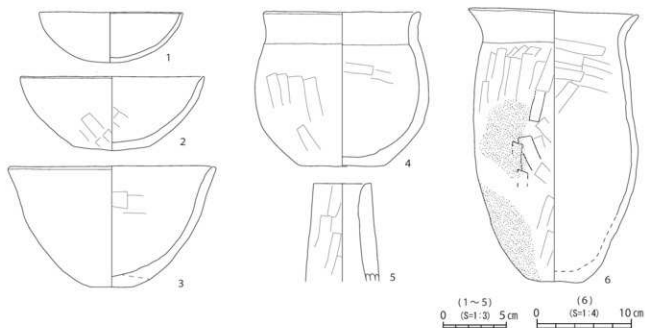
遺物 土師器、須恵器、土製品が出土した。土師器は坏・高坏などが含まれる。



第 18 图 D 区遗构平面图



- 1 暗黒褐色土 漆土、白色粘土ブロック・粒多量含む。しまりあり。
- 2 暗黒褐色土 白色粘土粒、酸化鉄を少量含む。しまりあり。
- 3 暗黒褐色土 遺しなく、しまりあり。
- 4 暗黒褐色土 白色粘土粒少量含む。しまりあり。
- 5 暗黒褐色土 白色粘土粒含む。
- 6 黒褐色土 白色粘土粒微量含む。
- 7 灰白色土 漆土粒含む。しまりあり。
- 8 黒褐色土 漆土粒含む。
- 9 茶褐色土 灰白色粘土粒多量含む。しまりあり。



第19図 SI-001 実測図

NO	遺物・種類	遺物番号	大きさ (mm, g)	特徴	構成	色調	出土
1	土師器片	口縁部～底面1/3	口 11.2 高 6.9	内外面ともにヘラケズリ。	中や良好	黄褐色	瓶い・中色粒、小粒
2	土師器片	口縁部～底面1/4	口 直径 14.3 高 16.3 底 5.3	内面ヘラケズリ、外面ヘラケズリ。	中や不良	褐色	細い・中粒、石炭
3	土師器片	口縁部～底面1/3	口 径 14.2 高 13.4 底 6.6	内面ヘラケズリ、摩耗激しく調整有り。	中や不良	褐色	砂粒、小石
4	土師器片断片	口縁部～底面1/5	口 12.4 高 6.5 底 12.3	口縁部コシケテ、内面ヘラケズリ、外面ヘラケズリ。	良好	褐色	砂粒、石炭
5	土師	7方底欠損	最大幅 5.7 高 17.7 重 140	粘土胎骨多き、外面ヘラケズリ。	中や良好	にがい・黄褐色	細い・中粒、赤色粒
6	土師器片断片	ほぼ完整	口 18.9 高 4.7 底 20.6	口縁部コシケテ、内面ヘラケズリ、外面ヘラケズリ、スス付着。	良好	黄褐色	砂粒、細い・中色粒

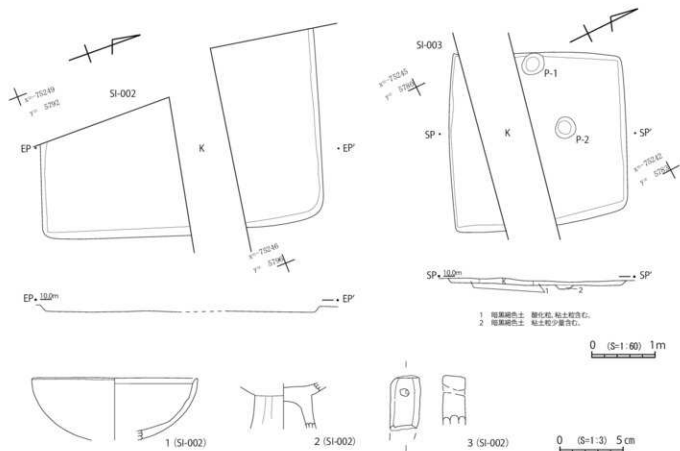
表 11 SI-001 出土遺物観察表

SI-003 (第 20・29 図)

重複関係 SK-112 → SI-003

規模・形態・構造 一辺 2.7～2.8 m、深さ 0.07 m である。平面形は正方形である。遺構上部は、大きく削平を受けている。確認できた壁はほぼ垂直に立ち上がる。壁溝は検出されなかった。床面は平坦で、硬化面は確認されなかった。柱穴は P-1・2 を検出した。P-1 は直径 0.3 m、深さ 0.15 m。P-2 は直径 0.3 m、深さ 0.1 m。カマド、貯蔵穴は確認できなかった。

遺物 土師器、須恵器、鉄滓 8 g が出土した。土師器は坏などが含まれるが、小片のため図示し得るものはない。



第 20 図 SI-002・003 実測図

No	遺構・種類	遺存率	大きさ (m, 径)	特徴	構成	色調	出土
1	土師器片	口縁部～底面1/4	口 (径)12.9 高 5.9	磨料磨しく調整不明。	中や不良	にがい淡褐色	砂粒、小礫、雲母
2	土師器片	口縁部～底面1/4	高 5.9	内面ヘラツブテ、外面ヘラツブテ。	良好	褐色	細い砂粒、小片、赤色粒
3	土師土製品	7方型穴眼	最大径 2.9 最小径 3.9 厚 0.2	粘土層の上部に高麗瓦あり。	良好	灰褐色	赤色粒、砂粒、雲母

表 12 SI-002 出土遺物観察表

掘立柱建物跡

SB-001 (第 21・24 図)

重複関係 SB-001 → SB-002

規模・形態・構造 桁行 3 間、梁行 2 間。柱間は桁行で 0.8 ～ 1.0 m、梁行で 1.0 ～ 1.1 m である。桁行を基準に主軸は、N - 77° - E である。柱穴の平面形は方形である。確認した柱痕から直径 20 ～ 30 cm 程の柱を想定できる。

遺物 土師器、須恵器が出土したが、小片のため図示し得るものはない。

SB-002 (第 21・24 図、表 13)

重複関係 SB-001 → SB-002

規模・形態・構造 桁行 2 間、梁行 2 間。柱間は桁行で 0.8 ～ 1.5 m、梁行で 0.7 ～ 1.1 m である。桁行を基準に主軸は、N - 80° - W である。柱穴の平面形は楕円形及び方形である。確認した柱痕から直径 20 ～ 30 cm 程の柱を想定できる。P-10 では、柱痕跡を確認した。

遺物 土師器、須恵器が出土した。土師器は坏、須恵器は甕などが含まれる。

No	遺構・種類	遺存率	大きさ (m, 径)	特徴	構成	色調	出土
1	須恵器片	胴部穴		外面平打ちタタキ。	良好	内面灰白色、外面灰褐色	砂粒、白色粒、黒色粒
2	須恵器片	胴部穴		外面平打ちタタキ。	良好	灰白色	白色粒、黒色粒、小礫
3	須恵器片	胴部穴		内面灰褐色、外面粒が散見、平打ちタタキ。	良好	内面灰褐色、外面灰白色	白色粒、小礫
4	土師器片	口縁部～底面1/4	口 (径)11.5 径 (肩)12.8 高 4.4	磨料磨しく調整不明。	不良	褐色	砂粒、白色粒
5	須恵器片	胴部穴		内面粒が散見、外面平打ちタタキ。	良好	灰白色	白色粒

表 13 SB-002 出土遺物観察表

溝跡

SD-042 (第 22 図)

重複関係 P-211 → SD-042

規模・形態・構造 幅 0.4 ～ 0.7 m、深さ 0.2 m、長さは 11.5 m。南～北東方向に走る溝で、断面形は皿状である。

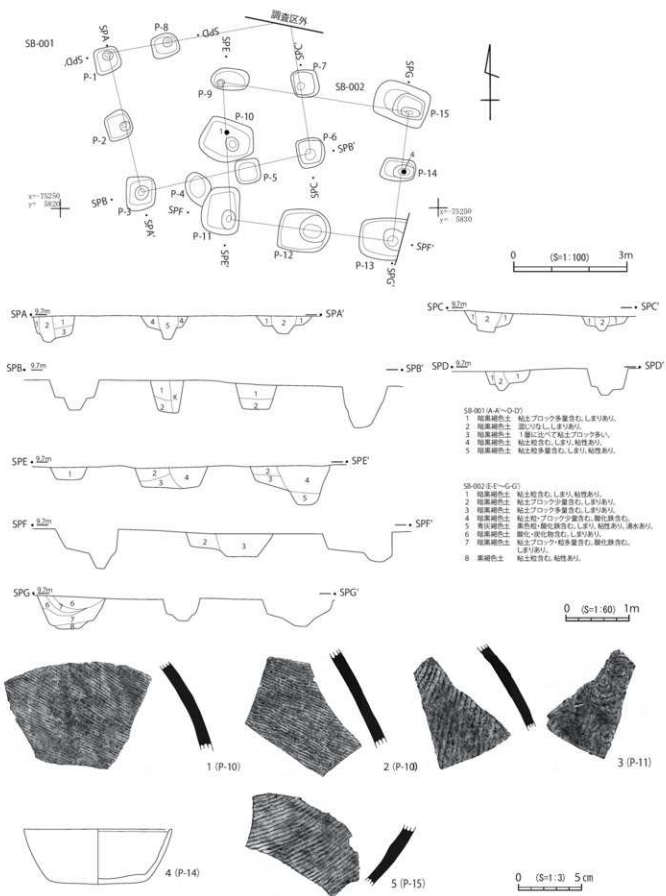
遺物 土師器、須恵器、陶器、鉄滓 28g が出土した。小片のため図示し得るものはない。

SD-043 (第 22 ～ 24 図)

重複関係 SD-070 → SD-043 → SD-045・046・048、SK-092・099・116・117、SE-002、P-224・233・277

規模・形態・構造 幅 0.6 ～ 0.9 m、深さ 0.6 m、検出部分の長さは 44.2 m。南東～北西方向に走る溝で、断面形は箱状である。

遺物 土師器が出土した。小片のため図示し得るものはない。



第21図 SB-001・002実測図

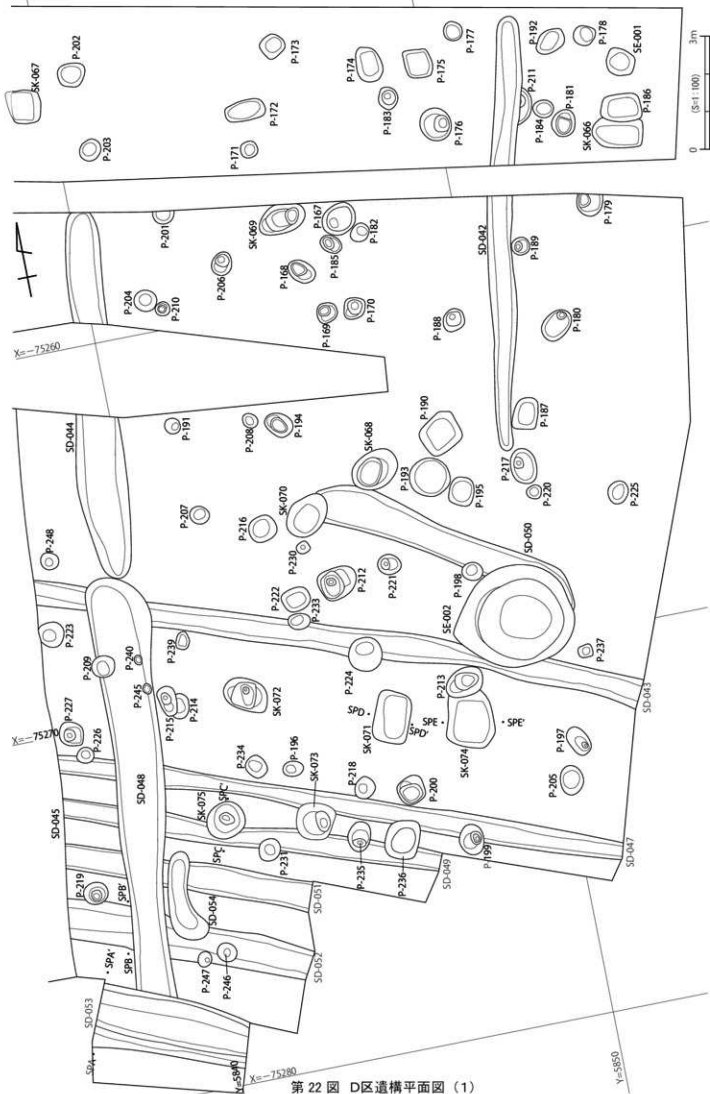
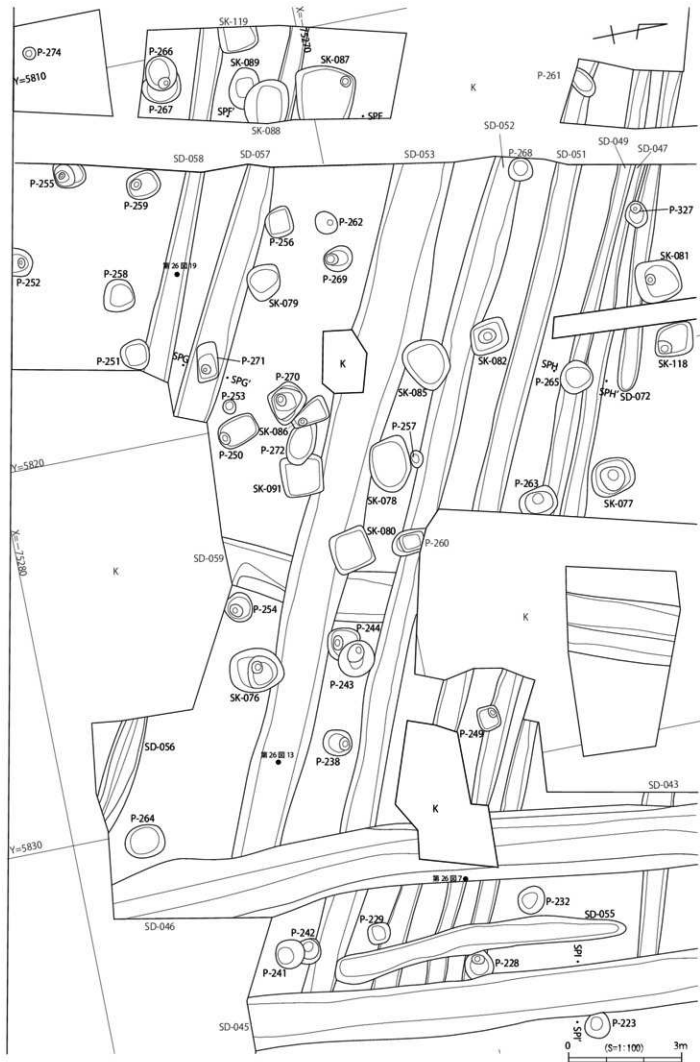
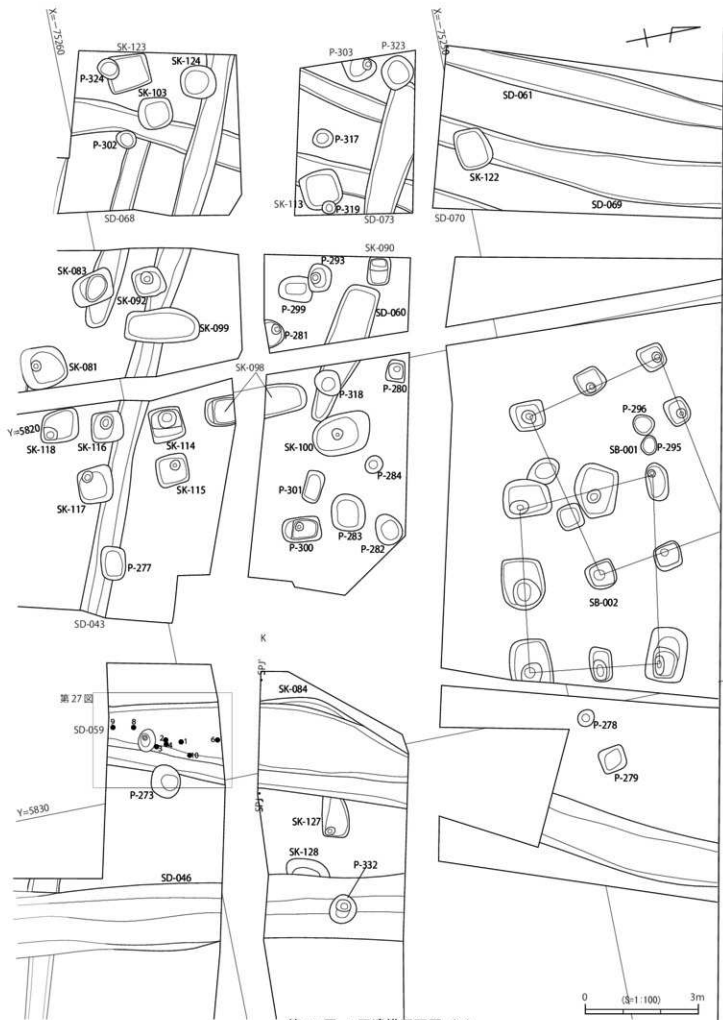


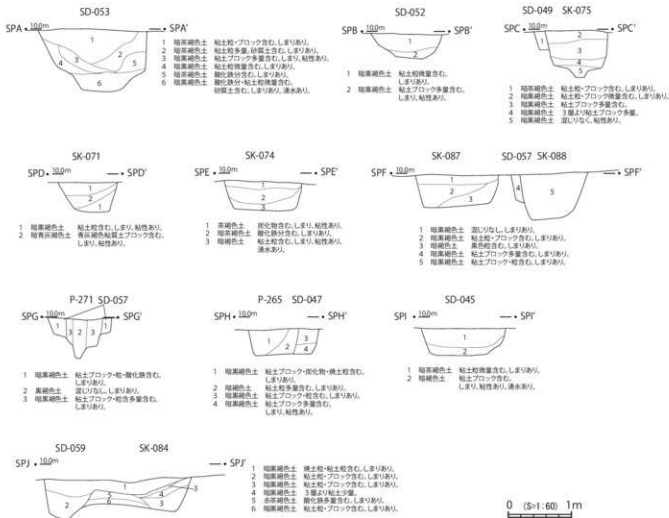
图 22 图 D 区总平面图 (1)



第 23 图 D区遗构平面图 (2)



第24图 D区遺構平面図(3)



第25図 D区遺構断面図(1)

SD-044 (第22図)

重複関係 なし

規模・形態・構造 幅0.7～1.2m、深さ0.3m、検出部分の長さは9.6m。南一北方向に走る溝で、断面形はU字状である。

遺物 土師器、陶器が出土した。小片のため図示し得るものはない。

SD-045 (第23・25・26図、表14)

重複関係 SD-043・047・049・051・052、P-223・228→SD-045

規模・形態・構造 幅1.3m、深さ0.3～0.4m、検出部分の長さは15.0m。南西一北方向に走る溝で、断面形は逆台形状である。

遺物 土師器、須恵器、陶器、古銭が出土した。

SD-046 (第23・24・26図、表14)

重複関係 SD-043・047・049・051～053、SK-128→SD-046→P-332

規模・形態・構造 幅1.6～1.8m、深さ0.3～0.5m、検出部分の長さは24.2m。南西一北方向に走る溝で、断面形は両側にテラスをもち、底面は平坦である。

遺物 土師器 1,217g、須恵器 1,192g、羽口片 25g、鉄滓 333g が出土した。土師器の坏、須恵器の甕などが含まれる。

SD-047 (第 22・23・26 図、表 14)

重複関係 SD-047 → SD-045・046・048・049・055・059、SK-073、P-199・218・226・228・236・265・327

規模・形態・構造 幅 0.4～0.7 m、深さ 0.4 m、検出部分の長さは 38.5 m。南東-北西方向に走る溝で、断面形は箱状である。

遺物 土師器、須恵器が出土した。土師器の坏、須恵器の甕などが含まれる。

SD-048 (第 22 図)

重複関係 SD-043・047・049・051・052 → SD-048 → SD-053、P-209・240・245

規模・形態・構造 幅 0.9～1.6 m、深さ 0.4 m、検出部分の長さは 11.0 m。南西-北方向に走る溝で、断面形は逆台形状である。

遺物 土師器、須恵器、鉄滓 18g が出土した。小片のため図示し得るものはない。

SD-049 (第 22・23 図)

重複関係 SD-047 → SD-049 → SD-045・046・048・055、SK-073・075、P-231・235・236・249・263・265

規模・形態・構造 幅 0.4～0.7 m、深さ 0.4 m、検出部分の長さは 36.2 m。南東-北西方向に走る溝で、断面形は箱状である。

SD-050 (第 22・35 図)

重複関係 SD-050 → SK-068・070、SE-002、P-198

規模・形態・構造 幅 0.8～1.1 m、深さ 0.2 m、検出部分の長さは 7.4 m。南東-北西方向に走る溝で、断面形は皿状である。

遺物 土師器、須恵器が出土した。小片のため図示し得るものはない。

SD-051 (第 22・23・28 図)

重複関係 SD-051 → SD-045・046・048・054・055・071、P-229・261

規模・形態・構造 幅 0.5～0.8 m、深さ 0.07～0.1 m、検出部分の長さは 46.2 m。南東-北西方向に走る溝で、断面形は皿状である。

遺物 土師器、須恵器、鉄滓 18g が出土した。小片のため図示し得るものはない。

SD-052 (第 22・23・25・26・28・31 図、表 14)

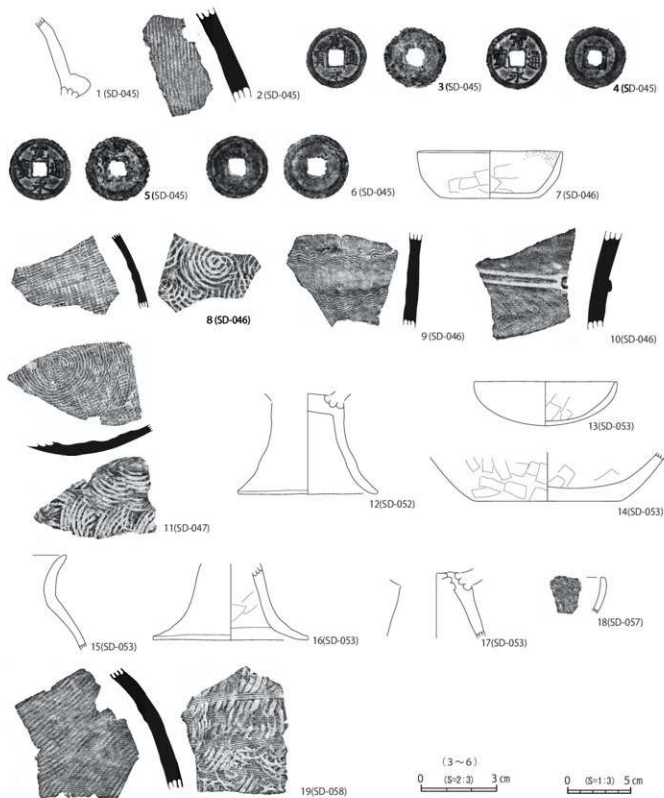
重複関係 SD-059・071 → SD-052 → SD-045・046・048・049・054・055、SK-082・085、P-219・242・243・246・247・257・260・268

規模・形態・構造 幅 0.8～1.1 m、深さ 0.3～0.6 m、検出部分の長さは 48.5 m。南東-北西方向に走る溝で、断面形は箱状である。

遺物 土師器、須恵器、羽口片 21g、鉄滓 5g が出土した。土師器は高坏などが含まれる。

SD-053 (第 22・23・25・26・28・29・31 図、表 14)

重複関係 SD-048・059 → SD-053 → SD-046、SK-076・078・080・085・091・130・131、P-244



第 26 図 SD-045 ~ 047・052・053・057・058 出土遺物実測図

規模・形態・構造 幅 1.1 ~ 1.9 m、深さ 0.7 ~ 1.1 m、検出部分の長さは 69.8 m。南東-北西方向に走る溝で、断面形は逆台形状である。南東側にはテラスをもつ部分もある。

遺物 土師器 4,697g、須恵器 323g、鉄滓 643g が出土した。土師器は高坏・坏・甕などが含まれる。

SD-054 (第 22 図)

重複関係 SD-051・052 → SD-054

規模・形態・構造 幅 0.5～0.8 m、深さ 0.3 m、長さ 2.4 m。南東—北方向に弧状に走る溝で、断面形は皿状である。

SD-055 (第 23・35 図)

重複関係 SD-047・049・051・052、P-228 → SD-055

規模・形態・構造 幅 0.6～0.8 m、深さ 0.1 m、検出部分の長さは 7.6 m。南—北方向に走る溝で、断面形は皿状である。

遺物 土師器、陶器が出土した。小片のため図示し得るものはない。

SD-056 (第 23 図)

重複関係 なし

規模・形態・構造 幅 0.6～0.8 m、深さ 0.6 m、検出部分の長さは 2.8 m。南東—北西方向に走る溝で、両側にテラスをもち、底面は平坦である。

遺物 土師器、鉄滓 157g が出土した。小片のため図示し得るものはない。

SD-057 (第 23・25・26 図、表 14)

重複関係 SD-057 → SK-079・087・088、P-256・271

規模・形態・構造 幅 0.5～1.0 m、深さ 0.3 m、検出部分の長さは 10.8 m。南東—北西方向に走る溝で、断面形は逆台形状である。

遺物 弥生土器、土師器、須恵器が出土した。

SD-058 (第 23・26 図、表 14)

重複関係 SD-058 → SK-119、P-251

規模・形態・構造 幅 0.5～0.8 m、深さ 0.37～0.7 m、検出部分の長さは 9.4 m。南東—北西方向に走る溝で、断面形は逆台形状である。

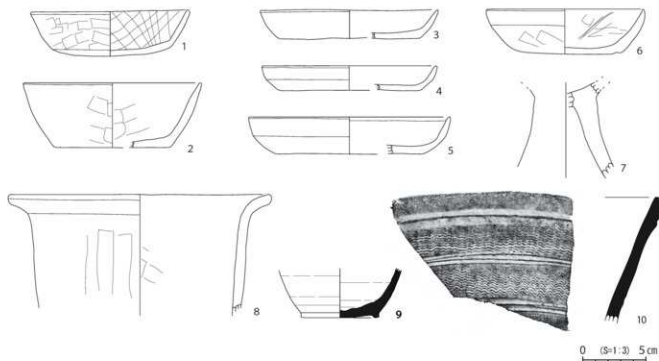
遺物 須恵器が出土した。須恵器は甕が含まれる。

No	遺物・種類	遺存品	大きさ (cm, g)	特徴	焼成	色調	粘土
1	陶器破片 SD-045	陶器片		ロタロ成形、内面に輪状打痕、外面に白漆喰のワザキがつく。土間に白色の粉、ススが付着。	良好	内面に濃い褐色、外面明瞭褐色	砂質、中硬
2	赤土器片 SD-045	陶器片		外面輪状打痕、平行タタキ。	良好	灰白色	白色粒、中硬
3	土瓦 SD-045		底 2.45 孔 0.43 厚 2.43	裏面焼成			
4	土瓦 SD-045		底 2.5 孔 0.53 厚 2.53	裏面焼成			
5	土瓦 SD-045		底 2.45 孔 0.53 厚 2.29	裏面焼成			
6	土瓦 SD-045		底 2.5 孔 0.45 厚 1.94	裏面焼成			
7	土師器片 SD-046	土師片	口 14.3 底 2.2 厚 3.7*	内面ヘラタテ、土間にスス付着、外面ヘラタテ。	良好	濃い濃褐色	砂質、赤褐色、中硬
8	赤土器破片 SD-046	陶器片		内面灰白色、外面格子状タタキのちヘラタテで平打。	良好	灰色	白色粒、中硬
9	赤土器破片 SD-046	陶器片		ロタロ成形、土間に濃褐色スス。	良好	灰色	砂質、白色粒
10	赤土器破片 SD-046	陶器片		外面断面に 2 本の沈線を通し、沈線上に粘土がつく。その下層にヘラタテ瓦を埋込に平打。	良好	灰白色	砂質、白色粒
11	赤土器破片 SD-047	陶器片		内面灰白色、外面平行タタキのちヘラタテで平打。	良好	灰色	砂質、白色粒、中硬

表 14 SD-045～047・052・053・057・058 出土遺物観察表 (1)

12	土師器高杯 群-052	胴部 1/5	高 16.9 口 13.4 底 2.5	原料産し調整不明。	不具	褐色	赤鉄、白色鉄、赤色鉄
13	土師器片 群-054	1/2		内面ヘラナダ。外面原料産し調整不明。	中々半具	内面黄褐色、外面褐色	赤鉄、赤色鉄
14	土師器甕 群-053	胴部 1/4	高 11.8 底 (口) 13.5	内面ヘラナダ。外面ヘラナダ。	瓦財	内面赤い褐色、外面黄褐色	赤鉄、白色鉄、赤色鉄
15	土師器甕 群-053	口縁部		原料産し調整不明。	中々半具	褐色	赤色鉄、赤鉄、小鉄
16	土師器高杯 群-053	胴部 1/3	高 (口) 12.2 高 (底) 16.9	内面ヘラナダ。外面原料産し調整不明。	中々半具	赤い褐色	赤鉄、赤鉄、赤色鉄
17	土師器高杯 群-053	胴部 1/4	高 (口) 15.2	原料産し調整不明。	不具	褐色	赤鉄、赤色鉄、小鉄
18	灰土器 群-057	口縁部片		外面産石調文を2線施す。	中々半具	灰褐色	赤鉄、赤鉄
19	菅土器 群-058	胴部片		内面にて具後。外面平行タタキ後。縄目を施す。	瓦財	灰色	赤鉄、白色鉄、赤色鉄

表 14 SD-045 ~ 047・052・053・057・058 出土遺物観察表 (2)



第 27 図 SD-059 出土遺物実測図

SD-059 (第 23 ~ 25・27 図、表 15)

重複関係 SK-084・127 → SD-059 → SD-047・049・051 ~ 053・P-273 → SK-080

規模・形態・構造 幅 1.2 ~ 2.3 m、深さ 0.3 ~ 0.6 m、検出部分の長さは 30.0 m。南西-北東方向に走る溝で、西側に幅が広いテラスをもち、ピット状の掘り込みがある。底面は平坦である。

遺物 土師器 3,741g、須恵器 1,191g、羽口片 156g、鉄滓 1,317g が出土した。土師器は坏・甕・高坏、須恵器は甕・壺などが含まれる。鉄滓や羽口などが多く出土しているが、SK-084 の流れ込みと考える。

SD-060 (第 24 図)

重複関係 SD-060 → P-318

規模・形態・構造 幅 0.5 ~ 1.0 m、深さ 0.15 m、長さは 3.7 m。南東-北西方向に走る溝で、断面形は皿状である。

SD-061 (第 24 図)

重複関係 なし

No	遺物・種類	遺存率	大きさ (mm, g)	特徴	素材	色調	加工
1	土師器片	完形	口 12.5 底 6.5 高 5.0	内面磨き残しあり、外面ヘラケズリ。	土質	褐色	砂粒、白色灰、小礫、石英
2	土師器片	1/4	口 (寛) 112.9 底 (寛) 76.9 高 5.0	内面ナデ、外面ヘラケズリ。	中々不良	褐色	砂粒、白色灰、小礫、雲母
3	土師器片	1/4	口 (寛) 114.0 底 (寛) 111.2 高 5.2	磨料磨しく調整不明。	中々不良	褐色	砂粒、赤色灰、小礫
4	土師器片	1/2	口 (寛) 113.0 底 (寛) 111.2 高 5.0	磨料磨しく調整不明。	中々不良	褐色	砂粒、白色灰、小礫
5	土師器片	1/2	口 (寛) 116.0 底 (寛) 111.6 高 5.9	磨料磨しく調整不明。	不良	褐色	砂粒、小礫
6	土師器片	完形	口 12.5 底 6.7 高 5.2	内面ナデ、外面ヘラケズリ。	中々不良	褐色	砂粒、白色灰、小礫、雲母
7	土師器片	断面 1/4	高 (深) 17.5	磨料磨しく調整不明。	不良	褐色	砂粒、赤色灰、小礫
8	土師器片	口縁部+断面 1/4	口 (寛) 120.8 高 (深) 18.8	口縁部リコナデ、内面ヘラケズリ、外面ヘラケズリ。	良好	褐色	砂粒、石英、小礫
9	須恵器	断面のみ	底 6.4 高 (深) 13.8	リコナ成形。	良好	灰色	白色灰、小礫
10	須恵器	口縁部片		口縁部外面に灰層、その下部に磨料を、底面を2重に2段階で削ぎ加工。	良好	灰色	白色灰、小礫、石英

表 15 SD-059 出土遺物観察表

規模・形態・構造 幅 0.6～0.8 m、深さ 0.56 m、検出部分の長さは 7.5 m。南東―北西方向に走る溝で、断面形は逆台形状である。

遺物 土師器、鉄滓 177g が出土した。小片のため図示し得るものはない。

SD-062 (第 28・29・31 図)

重複関係 SD-063 → SD-062 → P-305・307

規模・形態・構造 幅 0.9～1.3 m、深さ 0.2～0.3 m、検出部分の長さは 28.2 m。南東―北西方向に走る溝で、断面形は逆台形状である。

遺物 土師器、須恵器が出土した。小片のため図示し得るものはない。

SD-063 (第 28・29・31 図)

重複関係 SD-063 → SI-002、SD-062、SK-102・126、P-306・330・331

規模・形態・構造 幅 0.8～1.0 m、深さ 0.2～0.3 m、検出部分の長さは 27.9 m。南西―北東方向に走る溝で、断面形は逆台形状である。

遺物 土師器、須恵器、羽口片 78g が出土した。須恵器は蓋などが含まれるが、小片のため図示し得るものはない。

SD-064 (第 29 図)

重複関係 SD-064 → SD-065

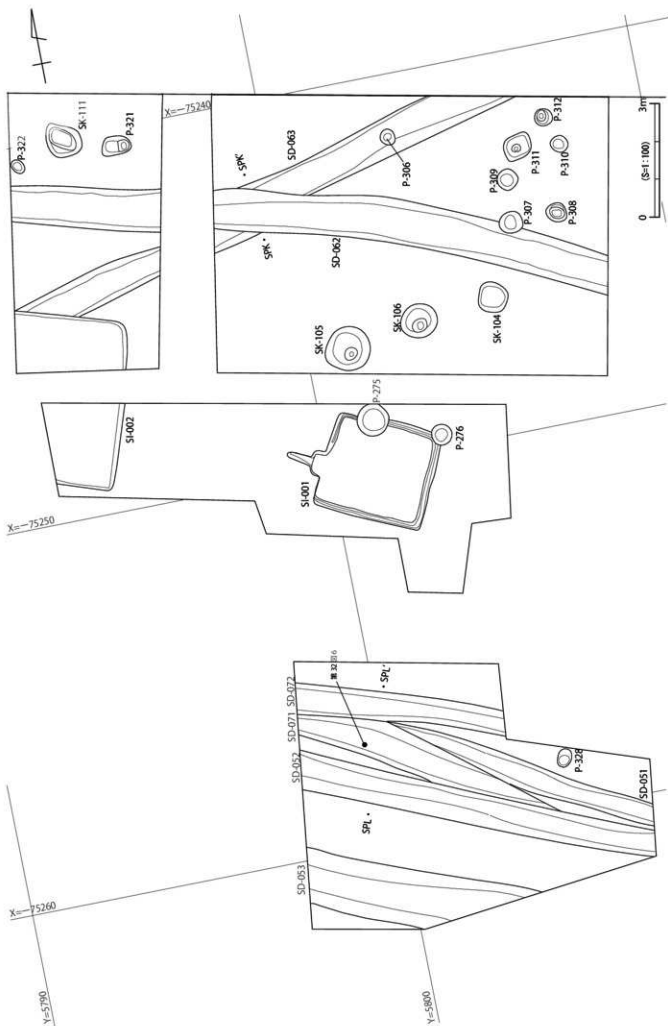
規模・形態・構造 幅 0.4～0.7 m、深さ 0.5～0.6 m、検出部分の長さは 2.0 m。南東―北西方向に走る溝で、断面形は U 字状である。

遺物 土師器が出土した。小片のため図示し得るものはない。

SD-065 (第 29 図)

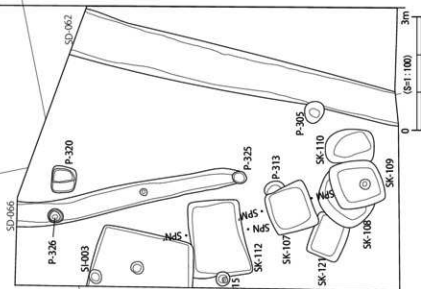
重複関係 SD-064 → SD-065 → SD-067

規模・形態・構造 幅 0.8～1.2 m、深さ 0.5～0.7 m、検出部分の長さは 5.7 m。南東―北西方向に走る溝で、南側にテラスをもち、底面は平坦である。

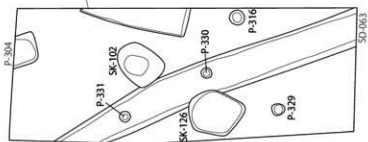


第 28 图 D区遺構平面図(4)

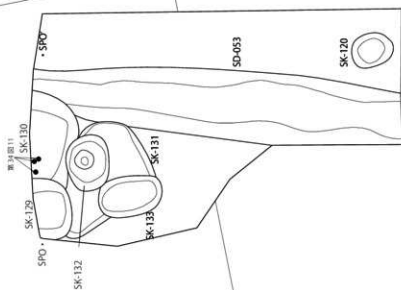
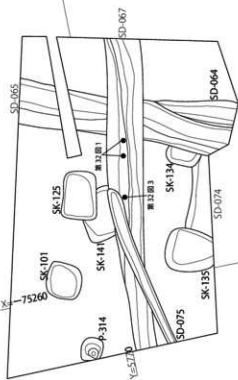
X=75240



X=75250



X=75260



Y=5780

第 29 图 D区遗構平面图 (5)

遺物 土師器が出土した。小片のため図示し得るものはない。

SD-066 (第 29 図)

重複関係 SD-066 → P-325・326

規模・形態・構造 幅 0.4～0.7 m、深さ 0.2 m、検出部分の長さは 5.9 m。東-西方向に走る溝で、断面形は逆台形状である。

遺物 土師器、須恵器が出土した。小片のため図示し得るものはない。

SD-067 (第 29・32 図、表 16)

重複関係 SD-065、SK-141 → SD-067 → SD-075

規模・形態・構造 幅 0.6～1.0 m、深さ 0.37～0.7 m、検出部分の長さは 8.2 m。南-北東方向に走る溝で、西側にテラスをもち、底面は平坦である。

遺物 土師器、須恵器、羽口片 48g、鉄滓 1,432g が出土した。土師器は坏・碗・高坏、須恵器は壺などが含まれる。

SD-068 (第 24 図)

重複関係 SD-068 → SD-070、SK-083 → P-302

規模・形態・構造 幅 0.6～0.8 m、深さ 0.6 m、検出部分の長さは 5.1 m。南東-北西方向に走る溝で、断面形は逆台形状である。

SD-069 (第 24 図)

重複関係 SD-069 → SD-073、SK-122

規模・形態・構造 幅 0.5～1.2 m、深さ 0.7 m、検出部分の長さは 11.6 m。南西-北東方向に走る溝で、断面形は逆台形状である。

遺物 土師器が出土した。土師器は甕などが含まれるが、小片のため図示し得るものはない。

SD-070 (第 24・32 図、表 16)

重複関係 SD-068 → SD-070 → SD-055・073、SK-103・113、P-302

規模・形態・構造 幅 0.6～1.0 m、深さ 0.37～0.7 m、検出部分の長さは 11.0 m。南西-北東方向に走る溝で、断面形は逆台形状である。

遺物 土師器、須恵器、鉄滓 239g が出土した。須恵器は甕などが含まれる。

SD-071 (第 28・31・32 図、表 16)

重複関係 SD-051 → SD-071 → SD-052・072

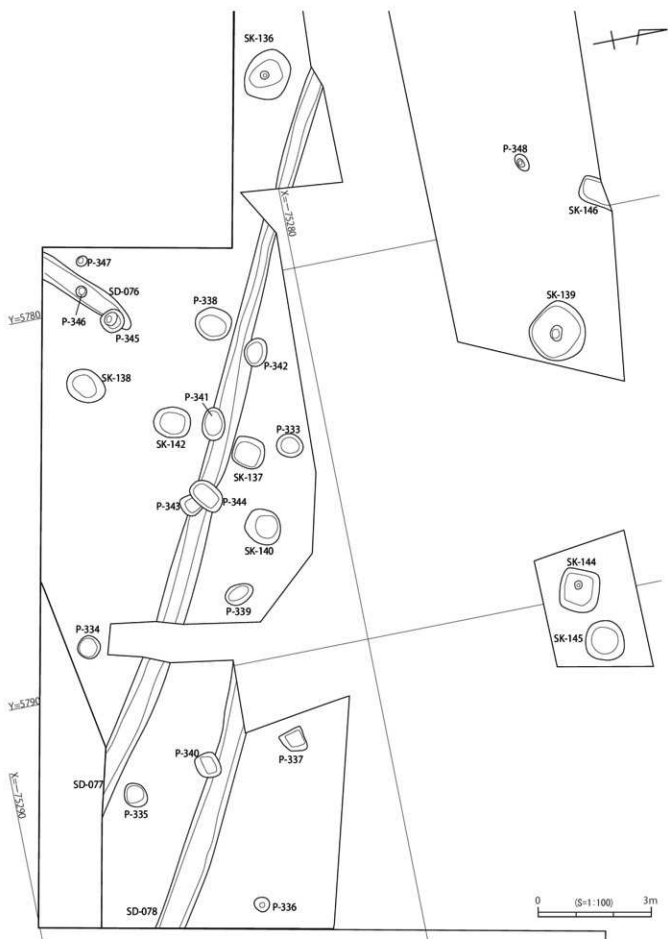
規模・形態・構造 幅 1.0 m、深さ 0.76 m、検出部分の長さは 7.3 m。南東-北西方向に走る溝で、断面形は逆台形状である。

遺物 土師器、須恵器が出土した。土師器は坏・甕、須恵器は甕などが含まれる。

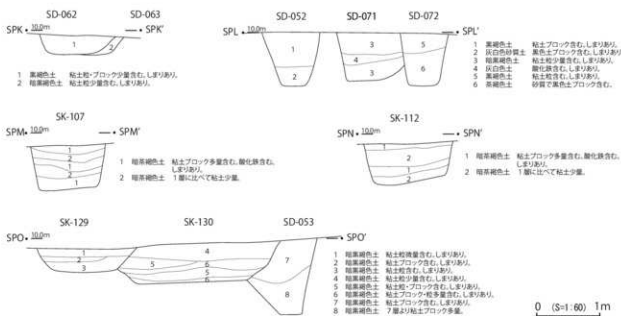
SD-072 (第 23・28・31 図)

重複関係 SD-071 → SD-072 → SK-081、P-327

規模・形態・構造 幅 0.4～0.9 m、深さ 0.4 m、検出部分の長さは 24.3 m。南東-北西方向に走る溝で、断面形は逆台形状である。



第30图 D区遗构平面图(6)



第 31 図 D区遺構断面図 (2)

SD-073 (第 24・32 図、表 16)

重複関係 SD-069・070 → SD-073 → P-323

規模・形態・構造 幅 0.8 ～ 1.0 m、深さ 0.2 m、検出部分の長さは 3.5 m。南東—北西方向に走る溝で、断面形は皿状である。

遺物 土師器が出土した。土師器は坏・高坏などが含まれる。

SD-074 (第 29 図)

重複関係 SD-074 → SD-065、SK-134・135

規模・形態・構造 検出部分の幅 0.5 ～ 0.7 m、深さ 0.3 m、検出部分の長さは 2.0 m。南西—北方向に走る溝で、断面形は逆台形状が想定できる。

SD-075 (第 29・32 図、表 16)

重複関係 SK-141 → SD-067 → SD-075

規模・形態・構造 幅 0.2 ～ 0.4 m、深さ 0.28 m、検出部分の長さは 4.4 m。南東—北方向に走る溝で、断面形は逆台形状である。

遺物 土師器、羽口片 193g、鉄滓 401g が出土した。

SD-076 (第 30 図)

重複関係 SD-076 → P-345・346

規模・形態・構造 幅 0.7 m、深さ 0.1 m、検出部分の長さは 2.8 m。南西—北東方向に走る溝で、断面形は皿状である。

遺物 土師器が出土した。土師器は甕などが含まれるが、小片のため図示し得るものはない。

SD-077 (第 30 図)

重複関係 SD-077 → P-343 → P-341・342・344

規模・形態・構造 幅 0.5 ～ 0.8 m、深さ 0.4 m、検出部分の長さは 19.8 m。南東—北西方向に走る溝で、

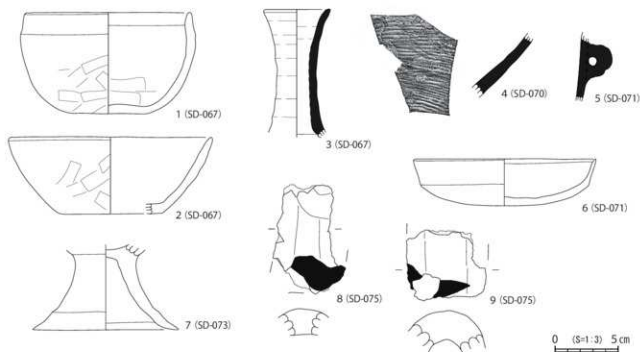
断面形は逆台形状である。

遺物 土師器が出土した。小片のため図示し得るものはない。

SD-078 (第30図)

重複関係 SD-078 → P-340

規模・形態・構造 幅 0.6～0.8 m、深さ 0.2 m、検出部分の長さは 7.2 m。南東-北西方向に走る溝で、断面形は皿状である。



第32図 SD-067・070・071・073・075 出土遺物実測図

順	名称・種類	遺存率	大きさ (mm, g)	特徴	構成	色調	胎土
1	土師器碗 SD-067	口縁部～底面5/8	口 13.0 底 8.4 高 7.9	口縁部リコナダ、内面ナダ、外面ヘラナズリ。	中～目好	浅黄褐色	砂粒、赤瓦、赤礫
2	土師器鉢 SD-067	口縁部～底面1/2	口 15.9 底 10.8、11.1 高 6.9	内面厚削磨して調整ナダ、外面ヘラナズリ。	中～目好	浅黄褐色	砂粒、赤色粒
3	土師器表裏片 SD-067	表裏面ほぼ完全	口 1 底 10.3 高 1 底 10.3	口リが成形、胎が散見。	目好	灰白色	砂粒、黒色粒
4	土師器底片 SD-070	底面片		内面胎が散見、外面平行ナダナ。	目好	灰色	黒色粒、砂粒
5	土師器底片 SD-071	底面片		口リが成形、外面平行ナダナ。器孔のあるツマで編り付け。	目好	灰白色	黒色粒、白色粒、砂粒
6	土師器片 SD-071	口縁部一部欠損	口 14.3 底 3.9	厚削磨して調整ナダ。	目好	褐色	黒色・赤色粒、赤色粒
7	土師器高片 SD-073	断面1/5	口 11.5 底 1 底 16.7	断面削磨のため調整ナダ。	目好	濃い黄褐色	砂粒、赤礫、赤瓦
8	目好 SD-075	土師器片	最大幅 4.9 最大高 4.6 最大厚 2.3 重 94.9	ガラス片付着。	目好	内面褐色、外面灰色	砂粒、白色粒
9	目好 SD-075	土師器片	最大幅 6.1 最大高 3.4 最大厚 2.2 重 97.1	ガラス片付着。	目好	内面褐色、外面灰色	砂粒、白色粒

表 16 SD-067・070・071・073・075 出土遺物観察表

土坑

SK-068 (第 22・34 図、表 18)

重複関係 SD-050 → SK-068

規模・形態・構造 長軸 1.3 m、短軸 1.0 m、深さ 0.55 m。平面形は楕円形で、断面形はU字状である。北東方向にテラスをもつ。

遺物 土師器が出土した。土師器は坏などが含まれる。

SK-079 (第 23・34 図、表 18)

重複関係 SD-057 → SK-079

規模・形態・構造 一辺 0.7 m、深さ 0.36 m。平面形は不整な方形で、断面形はU字状である。

遺物 土師器、瓦が出土した。

SK-082 (第 23・34 図、表 18)

重複関係 SD-052 → SK-082

規模・形態・構造 一辺 0.9 ~ 1.0 m、深さ 0.65 m。平面形は方形で、断面形は逆台形状である。中央底面にビット状の掘り込みをもつ。

遺物 土師器、須恵器が出土した。土師器は坏、須恵器は蓋などが含まれる。

SK-084 (第 24・25・33 図、表 17)

重複関係 SK-084 → SD-059

規模・形態・構造 検出部分の長軸 2.8 m、短軸 2.3 m、深さ 0.36 m。平面形は楕円形で、断面形は皿状である。底面にビット状の掘り込みがある。覆土に焼土及び酸化鉄を多量に含む範囲がある。

遺物 土師器 1,638g、須恵器 242g、羽口片 569g、鉄滓 6,082g が出土した。土師器は坏・高坏・甕、須恵器は坏・蓋などが含まれる。

SK-085 (第 23・34 図、表 18)

重複関係 SD-052・053 → SK-085

規模・形態・構造 長軸 1.3 m、短軸 1.1 m、深さ 0.3 m。平面形は不整な長方形で、断面形は逆台形状である。

遺物 土師器、須恵器が出土した。土師器は坏などが含まれる。

SK-086 (第 23・34 図、表 18)

重複関係 P-272 → SK-086 → P-270

規模・形態・構造 長軸 1.0 m、短軸 0.6 m、深さ 0.64 m。平面形は長方形で、断面形は逆台形状である。底面にビット状に掘り込みをもつ。

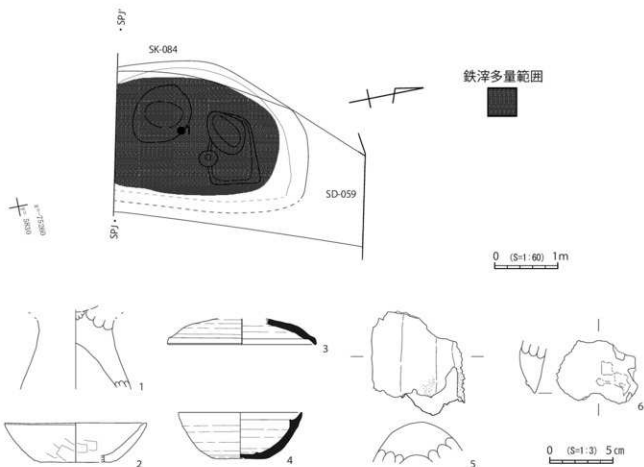
遺物 土師器、瓦、鉄滓 176g が出土した。

SK-092 (第 24・34 図、表 18)

重複関係 SD-043 → SK-092

規模・形態・構造 一辺 0.8 m、深さ 0.8 m。平面形は方形で、断面形は逆台形状である。底面にビット状の掘り込みをもつ。

遺物 土師器、須恵器が出土した。土師器は坏・甕などが含まれる。



第 33 図 SK-084 実測図

順	名称・種類	遺存率	大きさ (cm, g)	特徴	構成	色調	粘土
1	土師器高杯	断面 1/3	高 (口縁) 6.3	縁割れなく(調整不明)	中々不灰	褐色	赤粘、中硬
2	土師器鉢	口縁部～底面 1/2	口 (口縁) 11.1 底 (口縁) 15.7 高 5.1	内面ヘラナク。外面ヘラナク。	中々不灰	黄褐色	赤粘、赤粘質、黄緑
3	須恵器蓋	口縁部～体部 1/3	口 (口縁) 11.7 底 (口縁) 12.6	口マロ成形。	良好	灰白色	硬い赤粘質
4	須恵器鉢	1/4	口 (口縁) 18.7 底 4.9 高 5.7	口マロ成形。	良好	灰色	赤粘、白粘質
5	目口片		最大幅 7.2 高 (口縁) 16.2 重 149.6		良好	褐色	硬い赤粘質
6	目口片		最大幅 6.1 高 (口縁) 14.2 重 36.2	ガラス付付着。	良好	内面褐色、外面灰色・オリーブ褐色	硬い赤粘質、白粘質

表 17 SK-084 出土遺物観察表

SK-107 (第 29・31・34 図、表 18)

重複関係 SK-121、P-313 → SK-107

規模・形態・構造 一辺 1.0 ～ 1.2 m、深さ 0.6 m。平面形は方形で、断面形は箱状である。西側にある SK-112 と覆土が類似しており、同時期の遺構と考える。また、堆積状況から人為堆積の可能性がある。

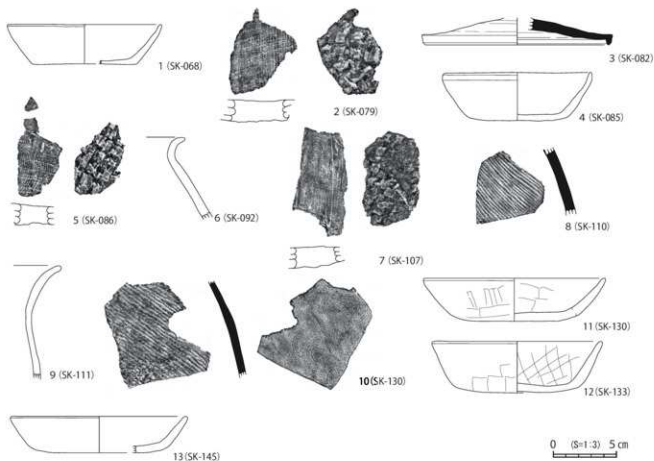
遺物 土師器、須恵器、瓦、鉄滓 10g が出土した。

SK-110 (第 29・34 図、表 18)

重複関係 SK-110 → SK-109

規模・形態・構造 長軸 1.3 m、短軸 0.8 m、深さ 0.43 m。平面形は楕円形で、断面形は逆台形状である。

遺物 土師器、須恵器、鉄滓 228g、軽石 8g が出土した。土師器は坏・須恵器は甕などが含まれる。



第 34 図 D区土坑出土遺物実測図

順	形状・種類	遺存率	大きさ (mm, g)	特徴	傷痕	色調	出土
1	土師器片 SK-088	口縁部～胴部 1/4	口 (縦) 12.2 底 (縦) 16.3 高 3.1	摩耗面して調整不明。	平白	内面黄褐色。外面に赤い黄鉄	砂鉄、白色粒、雲母
2	平瓦 SK-079		厚 3.0～3.8 重 23.5	両面赤黄色。凸面種子状突起。	瓦跡	両面赤褐色。凸面に赤い黄鉄	砂鉄、赤黄
3	埴形器片 SK-087	口縁部～胴部 1/3	口 (縦) 11.4 底 (縦) 12.1 高 3.7	コテノ成形。	瓦跡	灰色	白色粒、砂鉄
4	土師器片 SK-085	1/3	口 (縦) 11.5 底 (縦) 17.3 高 3.7	摩耗面して調整不明。	中～平白	明赤褐色	砂鉄、小礫、樹皮包砂鉄
5	平瓦 SK-086		厚 3.4～3.7 重 27.0	両面赤黄色。凸面種子状突起。	瓦跡	灰白色	砂鉄、黒色粒
6	土師器片 SK-092	口縁部～胴部片		内面ヘラナズ。外面口縁部ナズ。肩部ヘラナズ。	瓦跡	褐色	砂鉄、赤黄、小石
7	平瓦 SK-107		厚 3.1～3.8 重 65.9	両面赤黄色。凸面種子状突起。	平白	黄灰色	砂鉄、黒色粒
8	埴形器片 SK-110	胴部片		内面平行ナズ。	瓦跡	灰白色	砂鉄、白色粒
9	土師器片 SK-111	口縁部～胴部片		内面ヘラナズ。外面口縁部ナズ。ヘラナズ。	瓦跡	明赤褐色	砂鉄、赤黄、赤色粒
10	埴形器片 SK-130	胴部片		内面赤黄色。外面平行ナズ。	瓦跡	灰白色	白色粒、小礫
11	土師器片 SK-130	一部欠損	口 (縦) 11.3 底 (縦) 19.8 高 3.4	内面ヘラナズ。外面ヘラナズ。	中～平白	褐色	砂鉄、白色粒、小礫、雲母
12	土師器片 SK-123	口縁部～胴部 1/2	口 (縦) 11.3 底 (縦) 19.6 高 4.0	内面種子状突起。外面摩耗面して調整不明。	中～平白	褐色	砂鉄、赤黄
13	土師器片 SK-145	口縁部～胴部 1/3	口 (縦) 11.0 底 (縦) 18.9 高 2.9	摩耗面して調整不明。	平白	内面褐色。外面黄褐色	砂鉄、赤色粒、雲母

表 18 D区土坑出土遺物観察表

SK-111 (第28・34図、表18)

重複関係 なし

規模・形態・構造 長軸0.9m、短軸0.7～0.9m、深さ0.36m。平面形は不整な長方形で、南側にテラスをもち、底面は平坦である。

遺物 土師器、須恵器、鉄滓18g、羽口片121gが出土した。土師器は甕などが含まれる。

SK-130 (第29・31・34図、表18)

重複関係 SD-053→SK-130→SK-129

規模・形態・構造 検出部分の長軸2.2m、検出部分の短軸1.2m、深さ0.58m。平面形は楕円形、断面形は逆台形状が想定される。

遺物 土師器、須恵器が出土した。土師器は坏、須恵器は甕などが含まれる。

SK-133 (第29・34図、表18)

重複関係 SK-131→SK-133→SK-132

規模・形態・構造 長軸1.7m、短軸1.1m、深さ0.3m。平面形は楕円形で、断面形はU字状である。

遺物 土師器、須恵器、鉄滓305gが出土した。土師器は坏・甕、須恵器は甕などが含まれる。

SK-145 (第30・34図、表18)

重複関係 なし

規模・形態・構造 直径1.0m、深さ0.35m。平面形は円形で、断面形はU字状である。

遺物 土師器、須恵器、鉄滓132gが出土した。土師器は坏・甕、須恵器は甕などが含まれる。

その他土坑

下記のとおり一覧表にまとめた。

遺構	重複関係		平面形	断面形	出土遺物	備考
SK-066	SK-066→SK-196	長軸1.3m、短軸0.9m、深さ0.4m	長方形	逆台形	土師器の坏を含む、須恵器	第22図
SK-067	なし	一切0.9m、深さ0.3m	方形	逆台形	土師器の坏・甕を含む	第22図
SK-069	なし	長軸1.3m、短軸0.9m、深さ0.40m、西側にテラス、東側にビレット状の盛り込みをもつ	楕円形	逆台形	土師器の坏を含む	第22図
SK-070	SK-056→SK-079	長軸1.3m、短軸0.9m、深さ0.4m	楕円形	U字状	土師器の坏を含む	第22図
SK-071	なし	長軸1.3m、短軸1.0m、深さ0.4m	長方形	逆台形	土師器の甕を含む、鉄滓2g	第23・25図
SK-072	なし	長軸1.2m、短軸0.8m、深さ0.44m、西側にテラス、中央にビレット状の盛り込みをもつ	楕円形	逆台形	土師器	第22図
SK-073	SK-074→SK-073	直径1.0m、深さ0.6m、東側にビレット状の盛り込みをもつ	不整な正方形	逆台形	土師器	第22図
SK-074	SK-074→SK-213	長軸1.5m、短軸1.2m、深さ0.46m	不整な長方形	逆台形	土師器の坏を含む、須恵器、鉄滓5g	第23・25図
SK-075	SK-040→SK-075	直径0.9～1.0m、深さ0.7m、中央にビレット状の盛り込みをもつ	円形	U字状	土師器、須恵器	第23・25図
SK-076	SK-053→SK-076	長軸1.4m、短軸1.2m、深さ0.9m、西側にテラス、中央にビレット状の盛り込みをもつ	楕円形	U字状	土師器の坏、須恵器の甕を含む	第23図
SK-077	なし	長軸1.2m、短軸0.9～1.0m、深さ0.46m、中央にビレット状の盛り込みをもつ	楕円形	逆台形	土師器の坏を含む、鉄滓1kg	第23図
SK-078	SK-053→SK-078	長軸1.4m、短軸1.1m、深さ0.2m	楕円形	U字状	土師器の坏を含む	第23図
SK-080	SK-053→SK-080	一切1.0～1.3m、深さ0.27m	方形	逆台形	土師器の坏を含む、須恵器	第23図
SK-081	SK-072→SK-081	一切1.0～1.2m、深さ0.0m、東側にビレット状の盛り込みをもつ	方形	逆台形	土師器の坏を含む	第23図
SK-083	SK-066→SK-083	長軸1.3m、短軸0.8m、深さ0.54m、西側にテラスをもつ	長方形	逆台形	鉄滓17g	第24図
SK-087	SK-077→SK-087	一切1.4～1.6m、深さ0.45m、東側にビレット状の盛り込みをもつ	方形	逆台形	土師器、須恵器	第23・25図
SK-088	SK-075、SK-089→SK-088	楕円形分の長軸1.1m、短軸1.1m、深さ0.3m	楕円形	U字状	なし	第23・25図
SK-089	SK-089→SK-089	長軸1.4m、短軸0.8m、深さ0.53m	楕円形	U字状	土師器	第23図
SK-090	なし	楕円形分の長軸0.8m、短軸0.4m、深さ0.36m、東側にテラスをもつ	長方形	逆台形	土師器、鉄滓1kg	第24図
SK-091	SK-053→SK-091→SK-272	一切1.1m、深さ0.34m	方形	逆台形	なし	第23図
SK-096	なし	長軸1.7m、短軸0.8m、深さ0.66m、西側にテラスをもつ	長方形	逆台形	土師器の坏を含む、鉄滓4g	第24図
SK-099	SK-043→SK-099	長軸1.9m、短軸0.8～0.9m、深さ0.49m	楕円形	逆台形	土師器	第24図

表19 D区土坑観察表(1)

SK-100	なし	長軸1.5m、初期1.8m、深さ6.5～6.8m中央にビッド状の盛り込みをもつ	不整な楕円形	U字状	土師器の片・甕を含む	第24層
SK-101	なし	一辺6.9m、深さ6.3m	方形	礎台形	土師器	第29層
SK-102	SK-063→SK-102	長軸1.2m、初期0.9m、深さ0.33m	楕円形	U字状	土師器	第29層
SK-103	SK-078→SK-103	一辺6.8～6.9m、深さ6.35m	方形	礎台形	土師器	第24層
SK-104	なし	深径6.9m、深さ6.43m	不整な円形	U字状	土師器	第28層
SK-105	なし	深径6.9～1.0m、深さ6.36m、ビッド状の盛り込みをもつ	円形	U字状	土師器	第28層
SK-106	なし	深径1.1～1.2m、深さ6.5m、ビッド状の盛り込みをもつ	円形	U字状	土師器	第28層
SK-108	SK-123→SK-108→SK-109	長軸1.5m、軸山部分の初期0.8m、深さ6.28m	楕円形	U字状	土師器の片を含む、鉄滓6g	第29層
SK-109	SK-108→110→SK-109	一辺1.2～1.3m、深さ82cm、中央にビッド状の盛り込み	方形	礎台形	土師器の片・灰土器の片を含む、鉄滓14g、軽石15g	第29層
SK-112	SK-112→111-002→P-245	長軸1.05m、初期1.1m、深さ6.55m、SK-107と同層位と推定	長方形	礎状	土師器の片を含む、灰土器、鉄滓19g	第29・31層
SK-113	SK-070→SK-113→P-219	一辺7.0m、深さ6.47m	方形	礎台形	なし	第28層
SK-114	なし	一辺6.9m、深さ6.53m、東側にヤマス、西側にビッド状の盛り込みをもつ	方形	礎台形	土師器、鉄滓147g、軽石14g	第24層
SK-115	なし	一辺6.8～6.9m、深さ6.36m、西側にビッド状の盛り込みをもつ	方形	礎台形	土師器、灰土器、鉄滓121g	第24層
SK-116	SK-043→SK-116	一辺6.8m、深さ6.6m、中央にビッド状の盛り込みをもつ	方形	礎台形	土師器、灰土器、軽石13g	第24層
SK-117	SK-043→SK-117	一辺6.9m、深さ6.6m、西側にビッド状の盛り込みをもつ	方形	礎台形	土師器、灰土器、鉄滓10g、軽石13g	第24層
SK-118	なし	長軸1.9m、初期0.8m、深さ6.61m、西側にビッド状の盛り込みをもつ	長方形	礎台形	土師器	第24層
SK-119	SK-058→SK-119	軸山部分の長軸6.7m、初期1.0m、深さ6.74m	長方形を確定	U字状	なし	第24層
SK-120	なし	長軸1.13m、初期0.9m、深さ1.04m	楕円形	U字状	土師器、灰土器	第29層
SK-121	SK-125→SK-107→108	長軸1.2m、初期0.95m、深さ6.37m	長方形	礎台形	土師器	第29層
SK-122	SK-080→SK-122	長軸1.1m、初期0.8～1.0m、深さ6.37m	長方形	礎台形	土師器の片を含む、鉄滓6g	第24層
SK-123	SK-122→P-224	長軸1.3m、初期0.9m、深さ6.4m	長方形	礎台形	土師器、鉄滓2g	第24層
SK-124	SK-043→SK-124	深径6.9～1.0m、深さ6.5m	円形	U字状	なし	第24層
SK-125	SK-141→SK-125	長軸1.3m、初期0.9m、深さ0.35m	長方形	礎台形	土師器	第29層
SK-126	SK-063→SK-126	長軸1.8m、初期1.7m、深さ6.13m	不整な楕円形	礎状	土師器、鉄滓2g	第29層
SK-127	SK-127→SK-059	軸山部分の長軸1.05m、初期0.7m、深さ9.47m、東側にビッド状の盛り込みをもつ	長方形	U字状	土師器、灰土器	第24層
SK-128	SK-128→SK-046	長軸1.2m、軸山部分の初期0.45m、深さ6.25m	楕円形	礎状	土師器	第24層
SK-129	SK-131→SK-130→SK-129	軸山部分の長軸1.5m、軸山部分の初期1.1m、深さ6.4m	楕円形を確定	U字状	なし	第29・31層
SK-131	SK-053→SK-131→SK-130→132→SK-129→132	長軸2.8m、軸山部分の初期1.4m、深さ6.3m	長方形	礎状	土師器の片・甕を含む、灰土器	第29層
SK-132	SK-131→SK-130→132→SK-132	長軸1.5m、初期1.2m、深さ6.76m、中央にビッド状の盛り込みをもつ	楕円形	U字状	なし	第29層
SK-134	SK-074→SK-134→SK-065	長軸1.9m、軸山部分の初期0.45m、深さ6.45m	楕円形	U字状	なし	第29層
SK-135	SK-074→SK-135	軸山部分の長軸1.3m、初期1.1～1.2m、深さ6.4m	不整な長方形	U字状	土師器、灰土器、鉄滓20g、軽石80g	第29層
SK-136	なし	長軸1.4m、初期1.1m、深さ6.5m、中央にビッド状の盛り込みをもつ	楕円形	U字状	なし	第30層
SK-137	なし	一辺6.8m、深さ6.53m	方形	U字状	なし	第30層
SK-138	なし	長軸1.0m、初期0.8m、深さ6.55m	楕円形	U字状	なし	第30層
SK-139	なし	深径1.5m、深さ6.47m、中央にビッド状の盛り込みをもつ	不整な円形	U字状	なし	第30層
SK-140	なし	深径6.9～1.0m、深さ6.5m	円形	U字状	なし	第30層
SK-141	SK-141→SK-067→SK-073、SK-105	長軸1.4m、軸山部分の初期0.9m、深さ6.4m	長方形	U字状	土師器の片を含む、灰土器	第29層
SK-142	なし	長軸1.9m、初期0.8m、深さ6.36m	楕円形	礎台形	土師器	第30層
SK-144	なし	一辺1.1m、深さ6.45m	方形	礎台形	土師器	第30層
SK-146	なし	軸山部分の長軸1.6m、初期0.7m、深さ6.61m	長方形	礎台形	土師器	第30層

表 19 D区土坑観察表(2)

井戸

SE-001 (第22図)

重複関係 なし

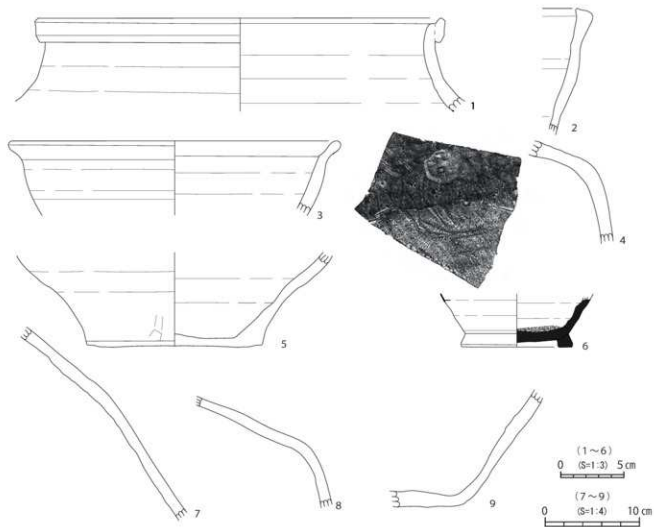
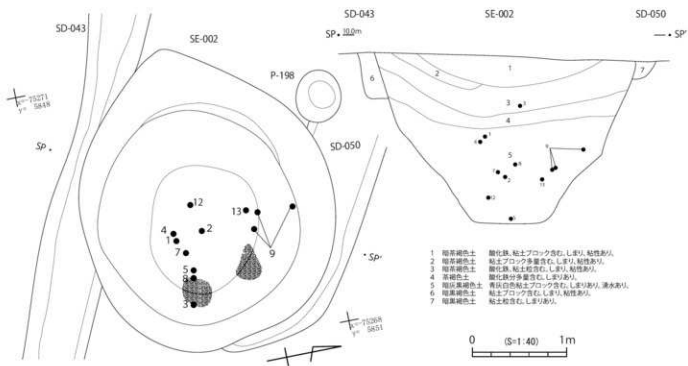
規模・形態・構造 直径0.7～0.8m、調査した深さは、0.76m。確認面から0.5m掘削したところで湧水を確認し、安全面を考慮し調査を終了した。平面形は円形で、断面形は箱状である。

遺物 土師器が出土した。小片のため図示し得るものはない。

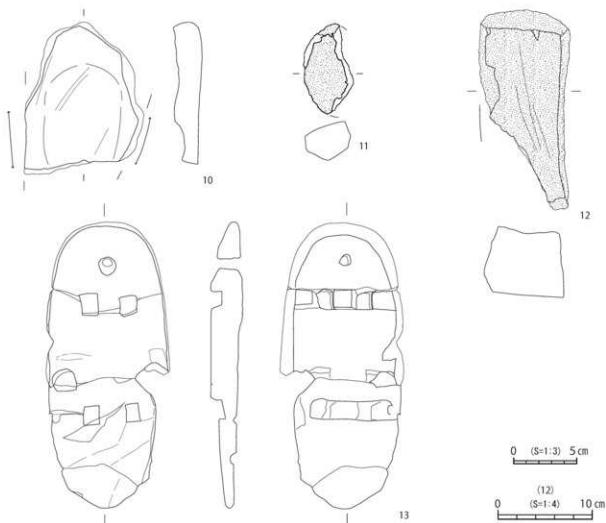
SE-002 (第22・35・36図、表20、第4章)

重複関係 SD-043・050→SE-002

規模・形態・構造 直径2.7～2.9m、調査した深さは、1.8～2m。確認面から1.0m掘り下げた地点で湧水を確認し、安全面を考慮して確認面から2.0m掘削して調査を終了した。平面形は不整な円形で、



第35図 SE-002 実測図



第36図 SE-002 出土遺物実測図

順	発掘・種類	遺存率	大きさ (cm, g)	特徴	構成	色調	出土
1	瓦片葉	口縁部～胴部1/4	口 (長) 22.9 高 (全) 16.7	口テの成形。	瓦葺	にがい(中)褐色。胴部底面オリーブ色	焼物、小破。右表
2	陶器鉢	口縁部片		口テの成形。	瓦葺	内面褐色。外表面白色。	焼物、小破
3	陶器片縁部	口縁部1/3	口 (全) 25.8 高 (全) 15.7	口テの成形。内外面ともに同軸を施す。	瓦葺	灰白色	焼物
4	瓦片葉	胴部片		口テの成形。外表面部にスタンプ状のものも押印(東北系?)。	瓦葺	にがい(中)褐色。胴部底面オリーブ色	焼物、小破。右表
5	瓦片葉	胴部1/2	底 (長) 13.8 高 (全) 17.3	口テの成形。外周下方へラケズリ。	瓦葺	内面褐色。外周ににがい(中)褐色	焼物、小破
6	陶器器壁片破	底部の5cm	底 (長) 18.7 高 (全) 14.2	口テの成形。	瓦葺	灰色	焼物
7	瓦片大葉	胴部片		口テの成形。外周へラケズリ。	瓦葺	にがい(中)褐色	焼物、小破
8	瓦片大葉	胴部片		口テの成形。	瓦葺	にがい(中)褐色。胴部底面白色	焼物、小破
9	瓦片大葉	胴部～底部片		口テの成形。	瓦葺	にがい(中)褐色	焼物、小破
10	破片	上下部大破	最大長 18.8 最大幅 8.9 最大厚 2.1 重 209.7	3面に縦折面をもつ。砂岩。			
11	破片	一部欠損	最大長 7.0 最大幅 3.4 最大厚 2.0 重 71.4	平断面に縦折面を受けた面あり。燧石。			
12	破片	一部欠損	最大長 17.9 最大幅 8.0 最大厚 9.2 重 3,023.7	平断面に縦折面をもつ。全面に縦折面を受けている。			
13	木製山下駄		最大長 22.5 最大幅 9.8 最大厚 2.5	断面はキレン面。本取り板目			

表 20 SE-002 出土遺物観察表

断面形は逆台形状である。覆土に粘土が含まれる箇所があったが、遺構に伴うものではなく、混入の可能性が高い。

遺物 土師器 1,764g、須恵器 1,640g、陶器 14,166g、木製品が出土した。土師器は高坏・坏、須恵器は壺・甕、陶器は常滑の甕などが含まれる。また、覆土中に貝も含まれるが、いずれも碎片のため同定はできなかった。

SE-003 (第 18・37～42 図、表 21、第 4 章)

重複関係 なし

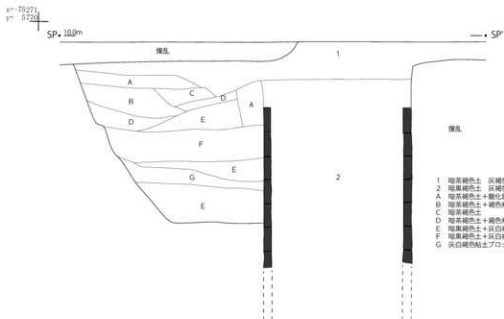
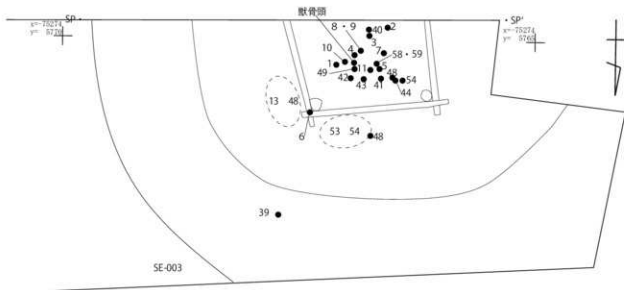
規模・形態・構造 方形の木製井戸枠を伴う井戸で、検出部分の長軸 5.0 m、検出部分の短軸 2.8 m、調査した深さ 2.3 m、2.2 m の高さで湧水を確認した。井戸の南側及び西側、北側の一部は攪乱を受けており、確認できた部分は北側の木組みと東側の掘方部分のみである。可能な限り人力で調査を実施したが、深度が深く、湧水があったため、小型重機等で可能な範囲まで調査した。井戸は、長さ約 1.8 m、幅約 0.3 m、厚み約 0.04 m の板を組み合わせており、掘り始めから木組みまで約 2.0 m、木組みの内径が約 1.4 m である。確認できた板材は 7 段分でその下にも続いていく可能性が高い。井戸の内側に木杭が打っており、木杭に合わせて板材を配置している。木杭についても調査した深さから下に続いていく可能性が高い。安全面を考慮して確認面から 2.3 m まで掘削し調査を終了した。

遺物 土師器 22,795g、須恵器 8,491g、瓦 1,741g、木製品、鉄滓 1,545g、羽口片 190g が出土した。土師器は坏が最も多く確実に判別できるもので 21,339g あった。他には甕・高坏、須恵器は甕・壺、木製品は曲物・番串などが含まれる。遺物の出土地点は、井戸（木組み内側）の中から出土したもの、井戸（木組み外側）の外から出土したものの大きく 2 つに分けられる。多くは、井戸の内側から出土したものである。**6・13・48・53・54** は、井戸の外から出土したもので、板材を組み合わせる際にできた隙間を埋めるための裏込めとして使用したものであると考えられる。

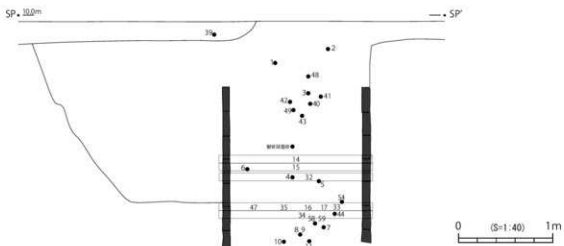
取り上げた板材は北側の上段から 4 段目までと東側の 3 段目の一部である。検出した板材の両端には、組み合わせやすいように加工してある。取り上げた板材は樹種同定をした結果、いずれもモミ属であることがわかった。各板材の計測値は以下のとおりである。なお右端、左端は加工痕から板材の端までを計測した。

- ① 1 段目 (第 4 章 試料 NO. 1-1) 幅 175.5cm、高さ 21.0cm、厚さ 2.5cm、右端 20.0cm、左端 20.0cm
- ② 2 段目 (第 4 章 試料 NO. 1-2) 幅 180.5cm、高さ 23.0cm、厚さ 3.5cm、右端 19.5cm、左端 21.0cm
- ③ 3 段目 (第 4 章 試料 NO. 1-3) 幅 180.5cm、高さ 31.0cm、厚さ 4.0cm、右端 22.0cm、左端 23.0cm
- ④ 4 段目 (第 4 章 試料 NO. 1-4) 幅 176.0cm、高さ 31cm、厚さ 4.5cm、右端 17.5cm、左端 17.5cm

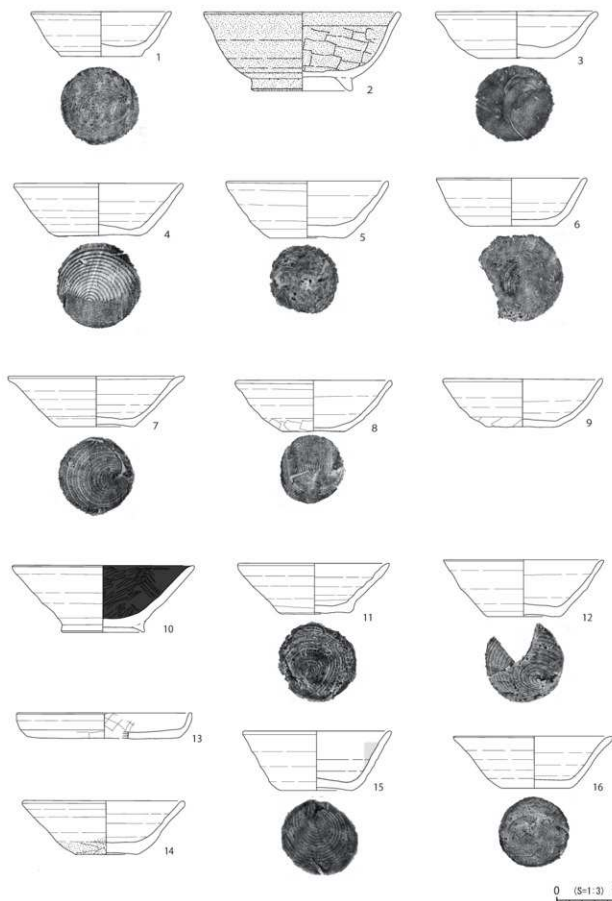
井戸内にあった木杭については、サンプリングして樹種同定を実施した。その結果、板材とは樹種が異なり、クスノキであることがわかった。



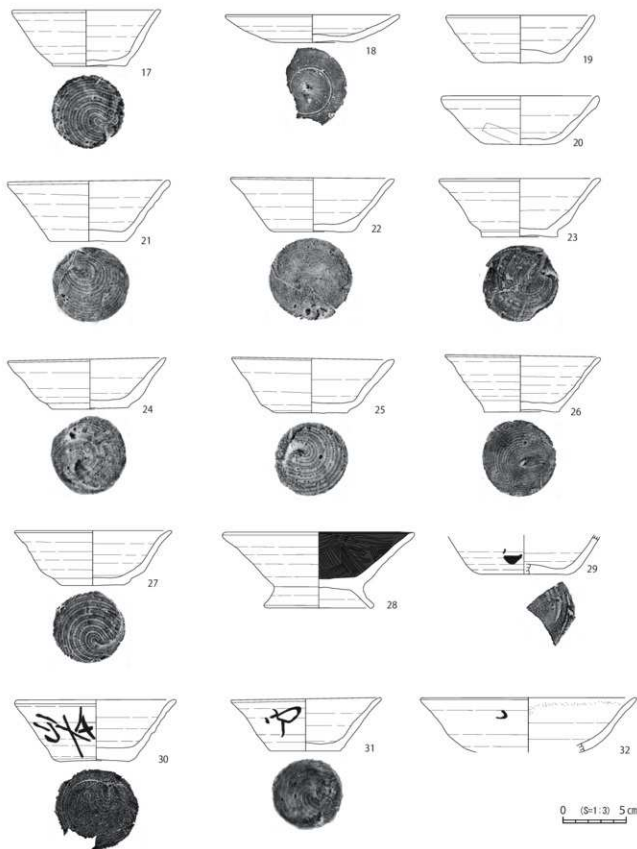
【遺物出土レベル図】



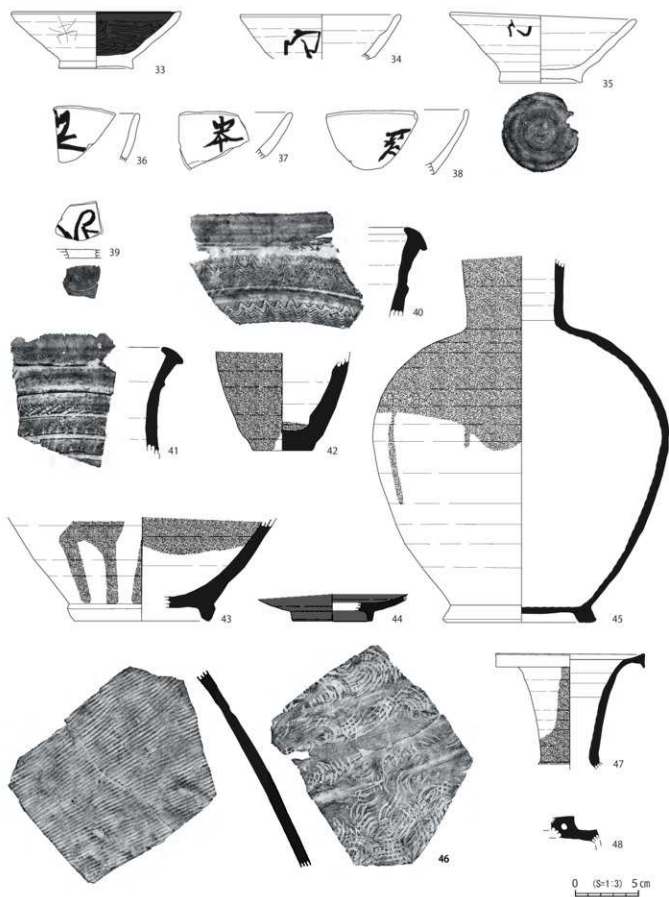
第 37 図 SE-003 遺構実測図



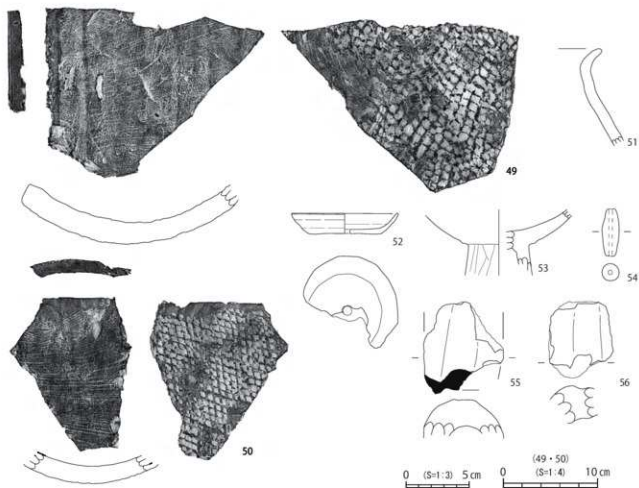
第 38 图 SE-003 出土遗物实测图 (1)



第 39 图 SE-003 出土遺物実測図 (2)



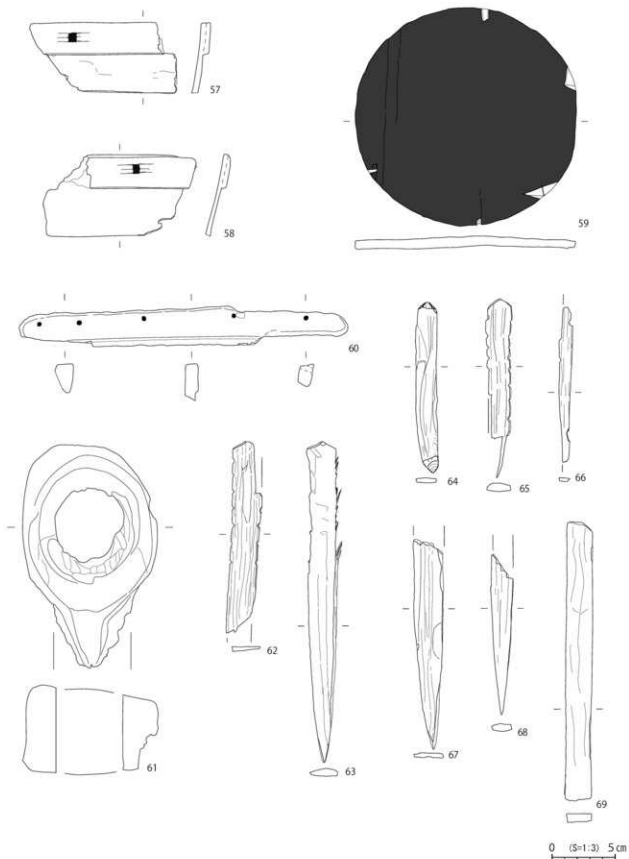
第 40 图 SE-003 出土遺物実測図 (3)



第 41 図 SE-003 出土遺物実測図 (4)

順	器種・種類	遺存部	寸法 (mm, g)	特徴	備成	色調	出土
1	土師器片	口縁部の内一周欠部	口 11.1 底 6.4 高 3.5	口口の成形, 外面底部凹陥未切り残。	中や中良	江戸白褐色	赤釉, 白色釉, 赤色釉, 黄緑
2	土師器高台付片	口縁部~底面 3/4	口 15.4 底 7.9 高 6.7	口口の成形, 内面へツエ付。	中や良好	内面黄赤, 外面白褐色	赤釉, 白色釉, 赤色釉, 赤黄, 黄緑, 黄赤
3	土師器片	口縁部~底面 1/5	口 1 度 11.8 底 6.0 高 3.9	口口の成形, 外面体部下方へツエ付, 底面へツエ付。	中や中良	江戸白褐色	赤釉, 赤色釉
4	土師器片	口縁部~底面 1/4	口 1 度 13.3 底 6.9 高 5.7	口口の成形, 外面底部凹陥未切り残。	良好	明赤褐色	赤釉, 白色釉
5	土師器片	口縁部~底面 1/4	口 1 度 9 底 5.9 高 5.5	口口の成形, 外面底部凹陥未切り残。	良好	江戸白褐色	赤釉, 赤色釉
6	土師器片	口縁部~底面 1/2	口 1 度 12.6 底 7.0 高 5.9	口口の成形, 外面底部凹陥未切り残。	良好	褐色	赤釉, 赤黄
7	土師器片	口縁部~底面 3/4	口 1 度 13.9 底 6.0 高 4.0	口口の成形, 外面底部凹陥未切り残。	良好	明赤褐色	赤釉, 白色釉, 黄緑
8	土師器片	口縁部の内一周欠部	口 12.4 底 5.8 高 3.0	口口の成形, 外面体部下方へツエ付, 外面底部凹陥未切り残。	良好	灰黄色	黒い砂粒, 赤色釉, 赤黄, 黄緑
9	土師器片	完整	口 12.6 底 5.9 高 5.9	口口の成形, 外面体部下方, 底面へツエ付。	良好	江戸白褐色	赤釉, 赤色釉, 小孔
10	土師器高台付片	口縁部~底面 1/4	口 1 度 14.4 底 6.4 高 5.3	口口の成形, 内面で内面ツエ付。	良好	内面黄赤, 外面白褐色	赤釉, 白色釉, 黄赤の黄緑
11	土師器片	完整	口 11.9 底 5.5 高 4.0	口口の成形, 外面体部へツエ付, 底面凹陥未切り残。	良好	江戸白褐色	赤釉, 赤色釉, 黄緑

表 21 SE-003 出土遺物観察表 (1)



第 42 図 SE-003 出土遺物実測図 (5)

12	土師器片	白磁焼～灰黒1/3	口 (横) 12.6 底 5.9 高 5.5	コラの成形、外面底面が陶土切り肌。	良好	灰オリーブ色	砂粒、白色粒、雲母
13	土師器片	白磁焼～灰黒1/4	口 (横) 12.8 底 (横) 12.1 高 5.2	コラの成形、内面粘土付。外面底面平下、底面ヘラツズリ。	良好	褐色	砂粒、白色粒
14	土師器片	灰黒	口 12.8 底 4.9 高 4.7	コラの成形、外面底面平下、底面ヘラツズリ、外面スリ付。	良好	内面オリーブ色、オリーブ黒色、外面灰黄色、黑色	砂粒、白色粒、雲母
15	土師器片	白磁焼～灰黒1/3	口 (横) 11.6 底 (横) 16.0 高 4.6	コラの成形、内面に紫色顔料付。外面底面が陶土切り肌。	良好	灰オリーブ色、内面紫顔料少量付時灰色	砂粒、雲母
16	土師器片	灰黒	口 12.5 底 5.5 高 4.1	コラの成形、外面底面が陶土切り肌。	良好	褐色	砂粒、赤色粒
17	土師器片	灰黒	口 11.9 底 5.9 高 4.4	コラの成形、外面底面が陶土切り肌。	良好	褐色、黒褐色	砂粒、白色粒
18	土師器片	白磁焼～灰黒1/4	口 (横) 12.8 底 (横) 16.1 高 2.3	コラの成形、外面底面が陶土切り肌。	良好	内面褐色、外面に白い黄ばみ	砂粒、赤色粒、白色粒、雲母
19	土師器片	白磁焼～灰黒1/3	口 (横) 11.7 底 (横) 16.1 高 3.8	コラの成形、磨耗面して表面は不明。	中々良好	褐色	砂粒、赤色粒、雲母
20	土師器片	白磁焼～灰黒1/4	口 (横) 12.3 底 5.5 高 3.8	コラの成形、外面底面平下ヘラツズリ、底面ヘラツズリ。	良好	オリーブ黒色	砂粒、赤黄
21	土師器片	白磁焼の丸～灰丸	口 12.8 底 4.9 高 4.4	コラの成形、外面底面が陶土切り肌。	良好	灰黄色	砂粒、白色粒
22	土師器片	白磁焼の丸～灰丸	口 12.8 底 4.5 高 4.3	コラの成形、外面底面が陶土切り肌。	良好	内面明赤褐色、外面に白い黄ばみ	砂粒、白色粒、赤色粒
23	土師器片	白磁焼～灰黒1/4	口 12.8 底 4.9 高 4.6	コラの成形、外面底面が陶土切り肌。	中々良好	褐色	砂粒、白色粒
24	土師器片	白磁焼の丸～灰丸	口 12.5 底 4.1 高 4.0	コラの成形、外面底面が陶土切り肌。	良好	に白い褐色	砂粒、赤色粒、赤黄
25	土師器片	灰黒	口 12.7 底 5.9 高 4.4	コラの成形、外面底面が陶土切り肌。	良好	に白い褐色	砂粒、赤色粒
26	土師器片	白磁焼～灰黒1/4	口 12.3 底 5.9 高 4.5	コラの成形、外面底面が陶土切り肌。	良好	褐色	砂粒、白色粒、雲母
27	土師器片	白磁焼～灰黒1/4	口 12.4 底 4.9 高 4.3	コラの成形、外面底面が陶土切り肌。	良好	内面褐色、外面灰黄褐色	砂粒、赤色粒、小礫
28	土師器片付伴	白磁焼～灰黒1/5	口 (横) 15.1 底 6.2 高 6.0	コラの成形、内面に内面ミナリ。	良好	内面黒色、外面灰黄色	砂粒、白色粒
29	土師器片	赤黒～灰黒1/4	口 (横) 17.0 底 (横) 13.0	コラの成形、外面に黒色あり、底面陶土付肌。	良好	褐色	砂粒、赤色粒
30	土師器片	白磁焼～灰黒1/3	口 12.3 底 5.9 高 4.9	コラの成形、外面底面が陶土切り肌、外面黒色「赤」。	良好	灰黄色、褐色	砂粒、白色粒、小礫
31	土師器片	灰黒	口 11.9 底 5.4 高 4.7	コラの成形、外面底面が陶土切り肌、外面黒色「赤」。	不良	に白い褐色	砂粒、赤色粒
32	土師器片	白磁焼～灰黒1/4	口 12.8 底 (横) 14.3	コラの成形、内面にスリ付。右側面として転用していたが、外面に不明な塗料あり。	良好	内面に白い褐色、外面灰黄褐色	砂粒、赤色粒
33	土師器片付伴	白磁焼～灰黒1/5	口 (横) 17.0 底 5.9 高 4.3	コラの成形、内面に内面ミナリ、外面底面黒色「赤」。	良好	内面黒色、外面灰オリーブ色	砂粒、赤色粒
34	土師器片	白磁焼～灰黒1/3	口 12.8 底 5.9 高 4.3	コラの成形、外面底面に黒色「赤」。	良好	に白い褐色	砂粒、白色粒、赤色粒
35	土師器片付伴	白磁焼の丸～灰丸	口 14.8 底 6.3 高 5.6	コラの成形、外面黒色「赤」。	良好	褐色	砂粒、白色粒、雲母
36	土師器片	白磁焼片	コラの成形、外面黒色あり。	良好	褐色	赤色粒、白色粒、雲母の黒粒	
37	土師器片	白磁焼片	コラの成形、外面黒色「赤」。	良好	に白い褐色	白色粒、雲母	
38	土師器片	白磁焼～灰黒片	コラの成形、外面黒色あり。	良好	に白い褐色	砂粒、雲母	
39	土師器片	灰黒片	外面黒色あり、外面底面が陶土切り肌。	良好	褐色	砂粒、白色粒	
40	灰赤磁器	白磁焼片	外面に上層の緑の土に還元状。	良好	灰白色	砂粒、白色粒、黒色粒	
41	灰赤磁器	白磁焼片	外面還元状態。	良好	灰色	白色粒、砂粒	
42	灰赤磁器	赤黒～灰黒1/4	底 4.7 底 (横) 17.7	コラの成形、内外面ともに自然釉の付家。	良好	内面灰色、外面に白い赤褐色	砂粒、白色粒
43	灰赤磁器	灰黒1/4	底 (横) 16.5 高 (横) 16.2	コラの成形、内外面ともに自然釉の付家。	良好	灰色	砂粒、白色粒、小礫

表 21 SE-003 出土遺物観察表 (2)

44	哲倉器群	磁器片	径 (横) 16.3 高 (厚) 12.7	コテの成形、内外面ともに自然釉付着。	良好	オリーブ灰色	粉粒
45	哲倉器長胴壺	土師器～須恵のみと 磁	径 12.7 高 (厚) 29.6	コテの成形、外面須恵土から製法自然釉付着。	良好	灰白色	粉粒、黒色粒
46	哲倉器壺	磁器片		内面にて長柄、外面平打ちタテキ。	良好	灰色	粉粒、白色粒
47	哲倉器長胴壺	土師器～須恵の土と 磁	口 (横) 13.8 高 (厚) 28.1	コテの成形、外面自然釉付着。	良好	灰白色	白色粒、黒色粒
48	哲倉器蓋小	土師のみ		コテの成形、上部に方形のフツムをつけ、横方向に穿孔。	良好	灰白色	粉粒、白色粒
49	平皿	厚 1.9～2.8 径 12.12 厚 1.8～2.8		須恵布目肌、凸面種子状オタキ、側面ヘラツクス、口内面とも 自然釉あり。底面地元の片足型がある。	良好	浅黄褐色	粉粒、赤色粒
50	平皿	厚 3.08.9		須恵布目肌、凸面種子状オタキ、側面ヘラツクス、口内面とも 自然釉あり。底面地元の片足型がある。	良好	灰白色	粉粒、白色粒
51	土師器壺	土師器～須恵片		内面ヘラツクス、外面ヘラツクス。	良好	褐色	粉粒、赤花、白色粒、赤色粒
52	土師器壺	土師器～須恵土と 磁	口 (横) 18.4 径 5.4 高 1.2	コテの成形、面貫穿孔。	不良	褐色	微い赤粒、赤色粒、雲母
53	土師器壺群	須恵片～須恵土と 磁	口 (横) 15.2	内面ヘラツクス、外面ヘラツクス。	良好	浅黄褐色	粉粒、微い赤色粒・白色粒
54	土師	定形	最大径 1.2 最大径 3.7 径 0.2 高 5.6		良好	濃い黄褐色	粉粒、雲母、白色粒
55	目口片	最大径 6.2 最大径 6.8 最大厚 2.2 厚 07.2		ガラス群付着。	良好	内面褐色、外面灰 白色	粉粒、小砂、雲母
56	目口片	最大径 4.9 最大径 4.8 最大厚 2.7 厚 72.9			良好	内面褐色、外面灰 白色	粉粒、小砂
57	木製品遺物			須恵器で榎材製成である。榎材はヒノキである。 [第4章 試料 50.5-1]			
58	木製品遺物			須恵器で榎材製成である。同定はしていないが、57と同様、ヒ ノキであると推定される。			
59	木製品遺物	直径 11.2 厚 0.9		断面と推定される。内面滑りや、榎材はヒノキである。 [第4章 試料 50.5-1]			
60	木製品不明部材	最大径 26.2 高 3.1 最大厚 1.9		上部に若干の削り跡とよんでいる。榎材はヒノキである。 [第4章 試料 50.5-1]			
61	木製品不明部材	最大径 10.6 最大径 18.4 径 0.2		中央に穿孔あり。榎材はヒノキである。 [第4章 試料 50.5-1]			
62	木製品遺物	土師欠損 最大径 2.2 長 15.2 厚 0.4		上部を三角状、両側に削り、榎材はヒノキである。 [第4章 試料 50.5-1]			
63	木製品遺物	定形 最大径 2.2 長 25.4 厚 0.6		上部を三角状、両側に削り、榎材はヒノキである。 [第4章 試料 50.5-1]			
64	木製品遺物	定形 最大径 1.6 長 13.4 厚 0.4		上部を三角状、一面削り、榎材はヒノキである。 [第4章 試料 50.5-1]			
65	木製品遺物	土師欠損 最大径 2.6 長 14.2 厚 0.7		上部を三角状、両側に削り、榎材はヒノキである。 [第4章 試料 50.5-1]			
66	木製品遺物	側面一部のみが 最大径 0.6 長 12.2 厚 0.2		側面部の残片と確認。			
67	木製品遺物	土師欠損 最大径 2.2 長 16.6 厚 0.4		榎材はヒノキである。 [第4章 試料 50.5-1]			
68	木製品遺物	土師欠損 最大径 1.9 長 12.6 厚 0.6					
69	木製品遺物	定形 最大径 2.4 長 22.0 厚 0.7					

表 21 SE-003 出土遺物観察表 (3)

古銭出土ピット

今回の調査で、古銭が出土したピットはP-239・240・245の3基である。遺構の分布状況及び出土した古銭から同一時期の遺構であると考えられる。古銭の取り上げについては、1単位と断定できるものについては単位ごと、単位が不明確なものについては一括で取り上げ本文中に記した。P-239・240から各500点強の古銭が出土しているが、1基では一貫には満たない。また、取り上げた1単位は52点から112点までと統一した点数ではないが、本報告では便宜上1単位を1縞と表記する。一覧表には、出土古銭を全点掲載している。掲載順については、1縞ごとに初鑄が古いものから並べた。そのうち状態がよいものを抽出して拓本を掲載した。拓本に付した番号は、一覧表と対応している。

P-239 (第22・43～51図、表22)

重複関係 なし

規模・形態・構造 長軸0.5m、短軸0.3m、深さ0.12m。平面形は不整な楕円形である。

遺物 古銭が出土した。詳細は一覧表にまとめた。出土状況から古銭を袋のようなものに入れてからピットの中に入れてられたと考えられる。古銭は、7縞出土し、1縞が52～64枚で繊維質の紐でまとめてあった。紐については遺存状態が悪く、詳細は不明である。上層のものについては一括で取り上げているため、確認したものより1縞の点数が多い可能性が高い。出土した古銭は全524点である。出土した古銭の点数の内訳は、以下のとおりである。

1	: 1	～	52	52点
2	: 53	～	112	60点
3	: 113	～	175	63点
4	: 176	～	232	57点
5	: 233	～	285	53点
6	: 286	～	349	64点
7	: 350	～	411	62点
一括	: 412	～	524	113点

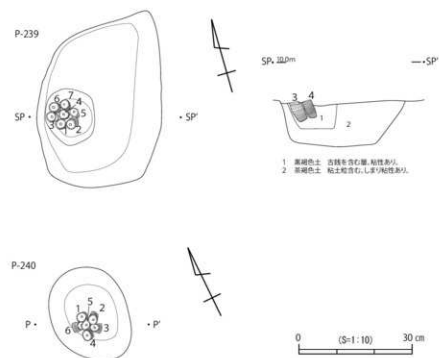
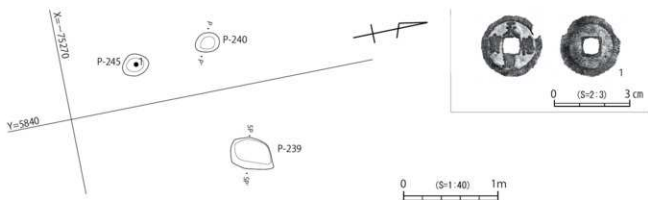
P-240 (第22・43・52～58図、表23)

重複関係 SD-048→P-240

規模・形態・構造 直径0.2～0.25m、深さ0.26m。平面形は円形である。

遺物 古銭が出土した。詳細は一覧表にまとめた。出土状況からP-239と同様で古銭を袋のようなものに入れてからピットの中に入れてられたと考えられる。古銭は、6縞出土し、1縞が67～112枚で繊維質の紐でまとめてあった。紐については遺存状態が悪く、詳細は不明である。出土した古銭は全562点である。出土した古銭の点数の内訳は、以下のとおりである。

1	: 1	～	67	67点
2	: 68	～	179	112点
3	: 180	～	280	101点
4	: 281	～	365	85点



第43図 古銭出土ピット遺構実測図及びP-245出土古銭

5 : 366 ~ 466 101点

6 : 467 ~ 551 85点

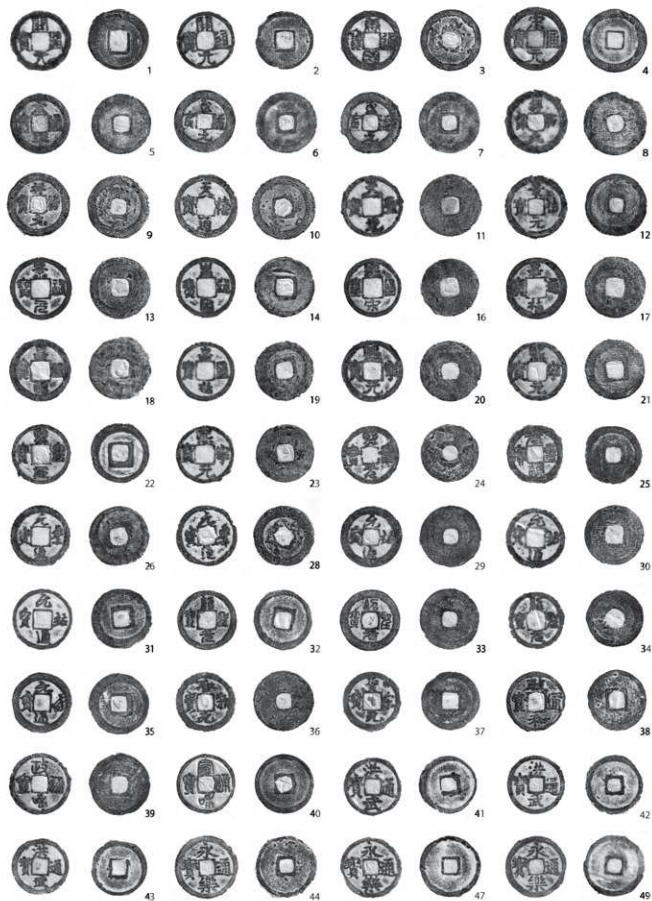
一括 : 552 ~ 562 11点

P-245 (22・43図)

重複関係 SD-048 → P-245

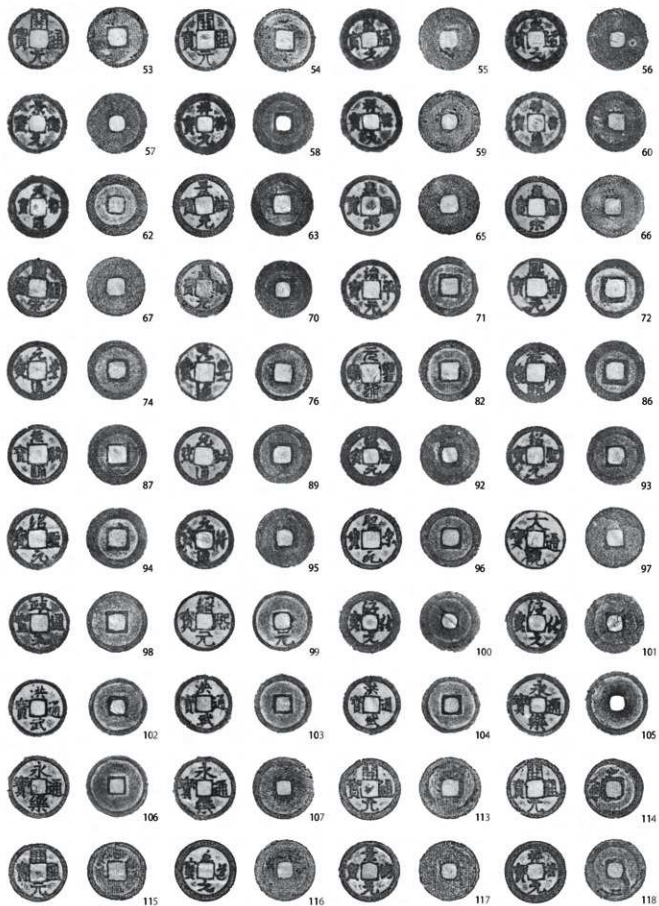
規模・形態・構造 直径0.2～0.25m、深さ0.26m。平面形は円形である。

遺物 古銭が出土した。出土した古銭は1点で、確認で出土した。1は天輪通室で、直径2.5cm、孔径0.6cm、重量2.26gである。



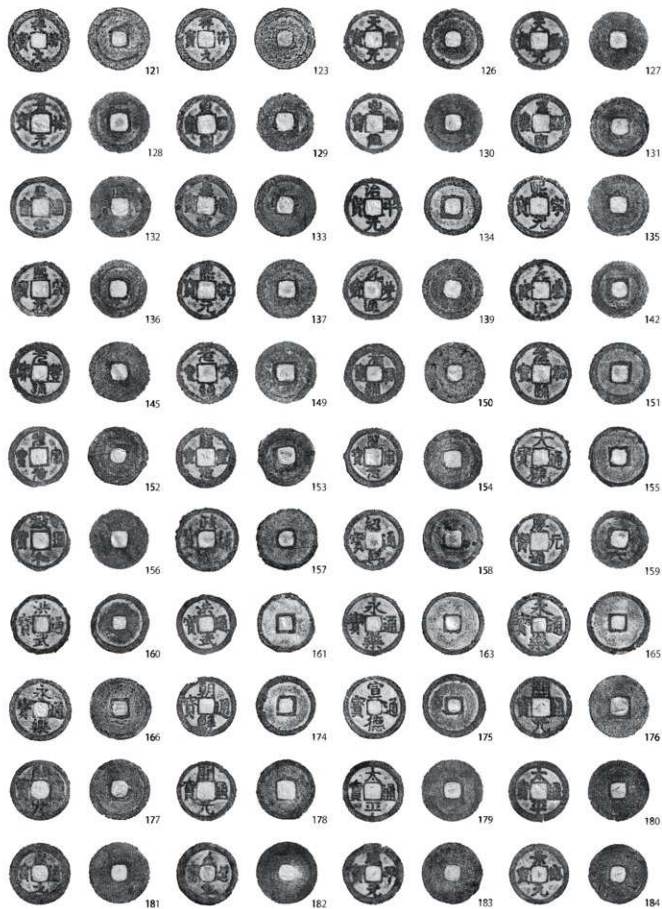
第 44 圖 P-239 出土古錢 (1)

0 (9=2.3) 3 cm



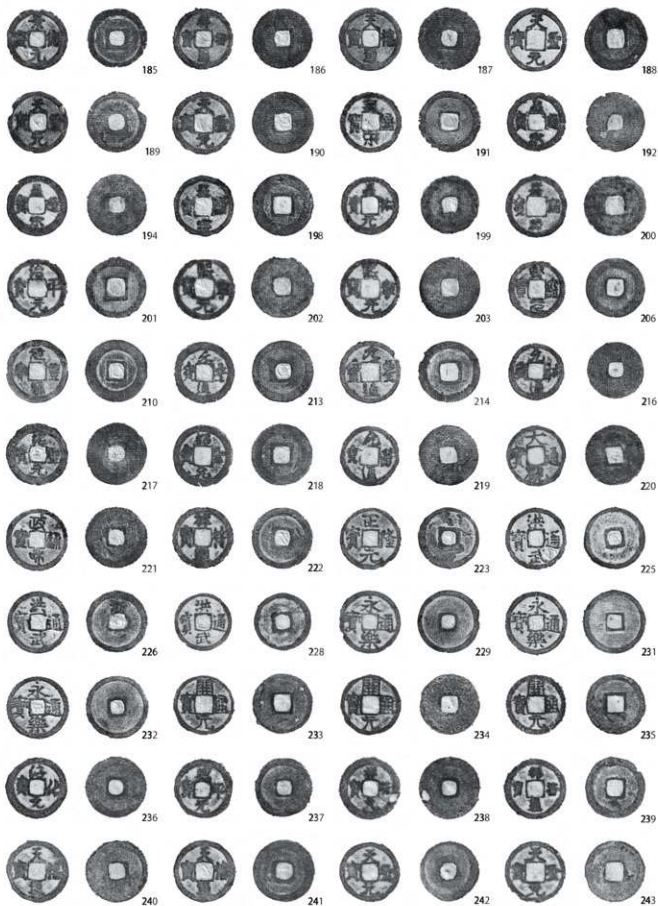
第 45 图 P-239 出土古钱 (2)

0 (5-2-3) 3 cm



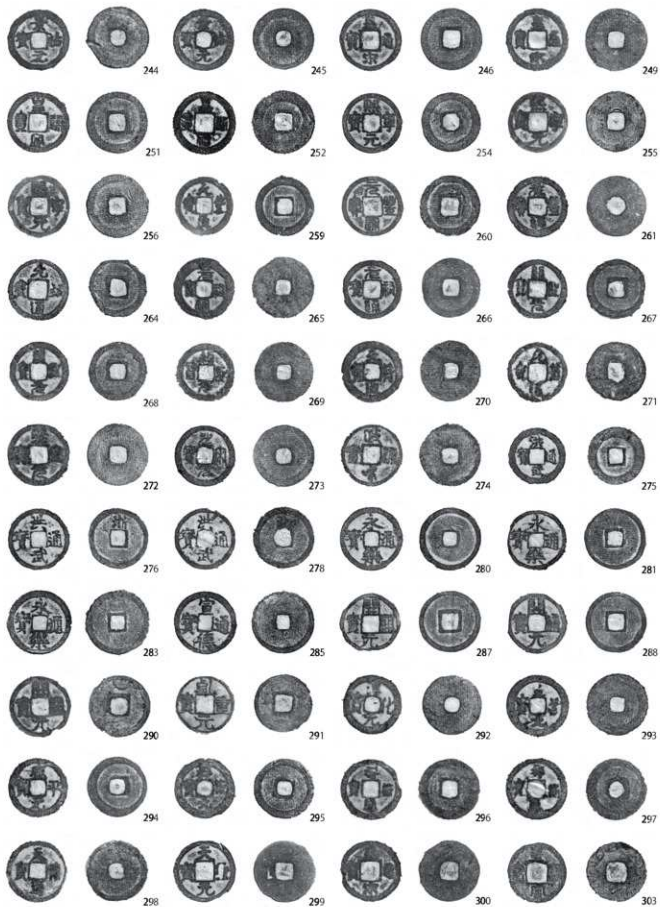
第 46 図 P-239 出土古銭 (3)

0 (S-2-3) 3 cm



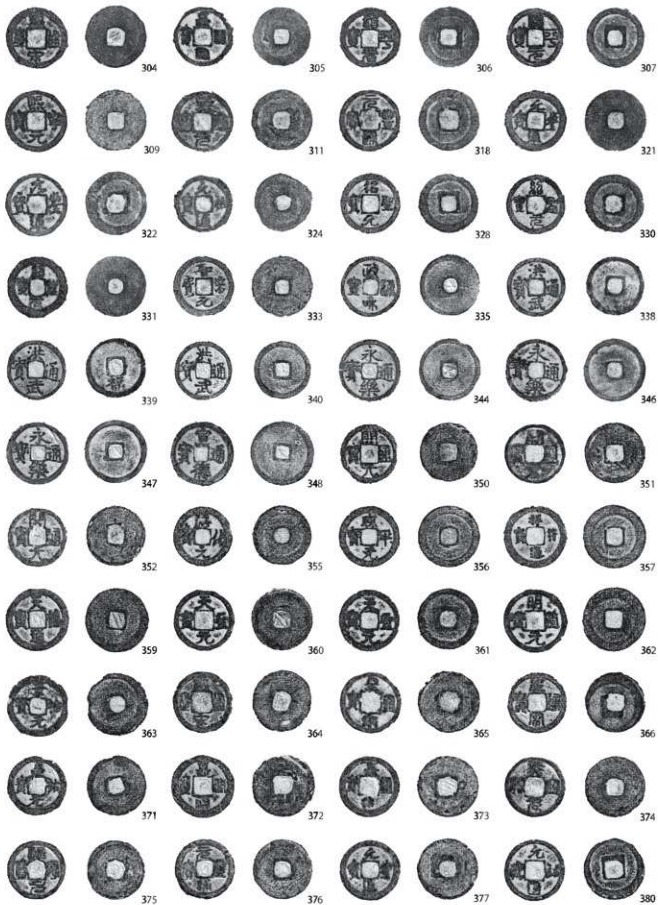
第 47 圖 P-239 出土古錢 (4)

0 (5-2.3) 3 cm



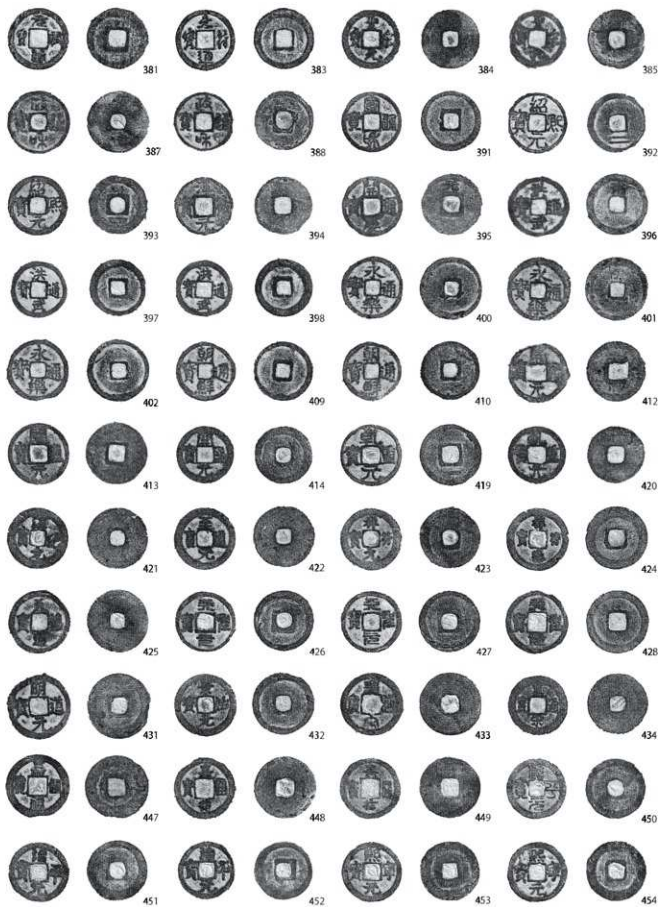
第 48 图 P-239 出土古钱 (5)

0 (5:2:3) 3 cm



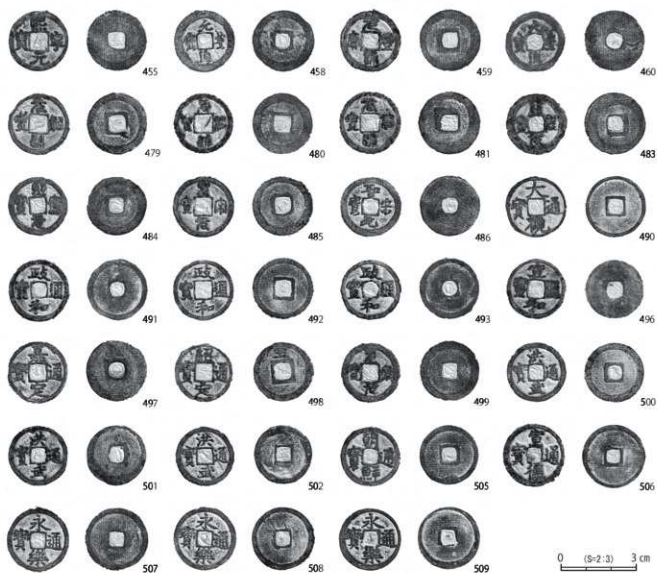
第 49 图 P-239 出土古钱 (6)

0 (5=2:3) 3 cm



0 (5=2.3) 3 cm

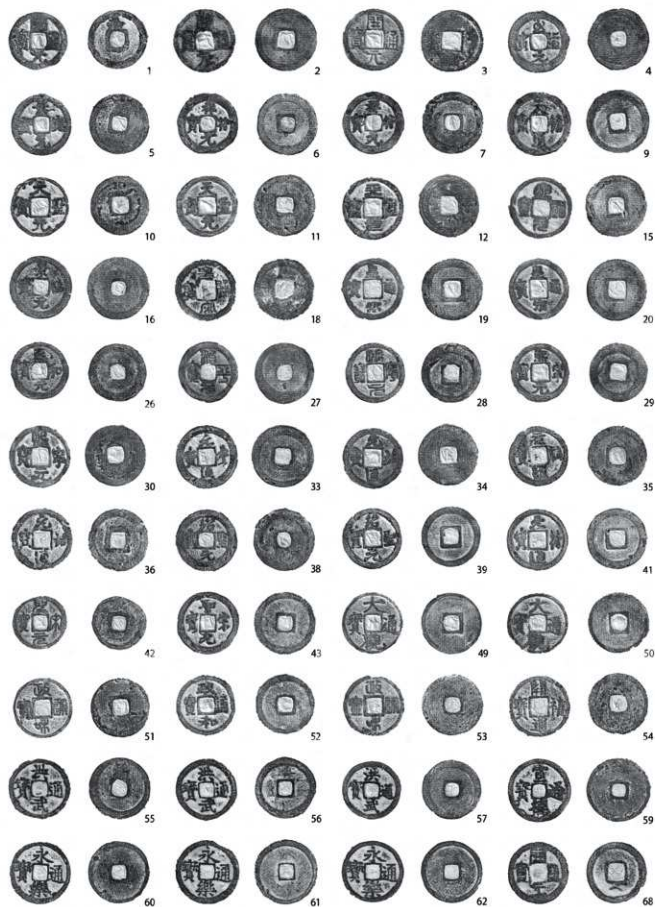
第 50 图 P-239 出土古钱 (7)



第 51 圖 P-239 出土古錢 (8)

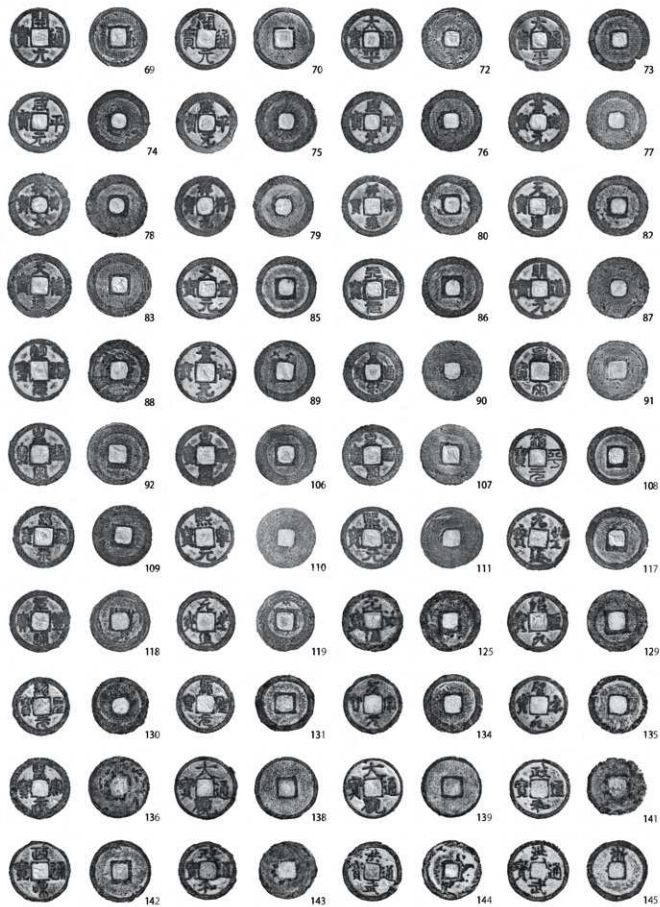
NO.	種類	直径 (mm)	孔径 (mm)	重量 (g)	鉛筆	写真	NO.	種類	直径 (mm)	孔径 (mm)	重量 (g)	鉛筆	写真	NO.	種類	直径 (mm)	孔径 (mm)	重量 (g)	鉛筆	写真
409	磨光通宝	2.4	0.5	2.43	○	○	447	磨光通宝	2.5	0.7	2.72	○	○	488	磨光通宝	2.4	0.5	2.8		
410	磨光通宝	2.4	0.5	2.79	○		448	磨光通宝	2.5	0.8	3.72	○		489	磨光通宝	2.4	0.7	2.74		
411	不明	2.5	0.5	2.72			450	淳平元宝	2.4	0.5	2.64	○	○	490	大福通宝	2.5	0.8	3.75	○	○
412	磨光通宝	2.4	0.6	3.09	○		451	淳平元宝	2.4	0.6	3.57	○	○	491	政和通宝	2.5	0.5	2.91	○	
413	磨光通宝	2.5	0.5	3.02	○		452	淳平元宝	2.4	0.5	3.75	○		492	政和通宝	2.5	0.6	3.21	○	○
414	磨光通宝	2.3	0.5	2.9	○	○	453	淳平元宝	2.4	0.5	3.29	○		493	政和通宝	2.4	0.6	3.22	○	
415	磨光通宝	2.5	0.5	2.45			454	淳平元宝	2.4	0.7	3.25	○	○	494	政和通宝	2.5	0.6	2.43		
416	磨光通宝	2.2	0.6	2.76			455	淳平元宝	2.4	0.6	3.19	○		495	政和通宝	2.3	0.6	3.26		
417	磨光通宝	2.5	0.5	3.28			456	淳平元宝	2.5	0.6	4.21			496	政和通宝	2.4	0.5	3.88	○	○
418	磨光通宝	2.4	0.6	2.72			457	淳平元宝	2.5	0.7	3.52			497	磨光通宝	2.5	0.7	3.56	○	○
419	鳳凰通宝	2.5	0.6	3.62	○	○	458	天啓通宝	2.5	0.5	4.02	○	○	498	磨光通宝	2.3	0.6	3.59	○	○
420	鳳凰通宝	2.4	0.6	3.12	○		459	天啓通宝	2.5	0.6	3.36	○		499	磨光通宝	2.5	0.5	4.25	○	○
421	淳化元宝	2.5	0.5	3.49	○	○	460	天啓通宝	2.4	0.6	3.5	○		500	淳化通宝	2.4	0.5	3.77	○	
422	磨光通宝	2.5	0.5	2.88	○		461	天啓通宝	2.4	0.6	4.1			501	淳化通宝	2.4	0.5	3.25	○	
423	祥符元宝	2.5	0.5	3.49	○	○	462	天啓通宝	2.5	0.6	2.76			502	淳化通宝	2.4	0.5	3.45	○	○
424	祥符元宝	2.5	0.5	3.99	○		463	天啓通宝	2.5	0.5	3.8			503	淳化通宝	2.5	0.6	3.88		
425	天祐通宝	2.4	0.5	3.42	○	○	464	天啓通宝	2.4	0.6	3.68			504	淳化通宝	2.3	0.5	3.96		
426	天啓元宝	2.4	0.5	3.53	○		465	天啓通宝	2.5	0.4	3.03			505	磨光通宝	2.4	0.5	3.49	○	○
427	天啓元宝	2.5	0.5	2.44	○	○	466	天啓通宝	2.5	0.8	3.6			506	磨光通宝	2.7	0.5	4.22	○	○
428	天啓元宝	2.5	0.6	4.14	○		467	天啓通宝	2.4	0.5	3.14			507	天啓通宝	2.5	0.5	3.22	○	○
429	天啓元宝	2.5	0.6	3.21			468	天啓通宝	2.5	0.6	2.41			508	天啓通宝	2.5	0.5	3.65	○	
430	天啓元宝	2.5	0.5	3.84			469	天啓通宝	2.5	0.6	3.46			509	天啓通宝	2.5	0.6	3.97	○	
431	磨光通宝	2.5	0.5	3.61	○	○	470	天啓通宝	2.5	0.6	3.22			510	天啓通宝	2.5	0.6	2.68		
432	磨光通宝	2.5	0.6	2.42	○	○	471	天啓通宝	2.4	0.6	3.62			511	天啓通宝	2.5	0.5	3.96		
433	磨光通宝	2.5	0.7	3.88	○	○	472	天啓通宝	2.5	0.6	4.03			512	天啓通宝	2.5	0.5	3.51		
434	磨光通宝	2.4	0.5	2.91	○		473	天啓通宝	2.5	0.5	3.42			513	天啓通宝	2.5	0.5	3.71		
435	磨光通宝	2.5	0.6	3.32			474	天啓通宝	2.4	0.7	3.04			514	天啓通宝	2.5	0.5	3.41		
436	磨光通宝	2.5	0.7	3.25			475	天啓通宝	2.5	0.6	2.95			515	天啓通宝	2.5	0.5	3.11		
437	磨光通宝	2.4	0.7	3.08			477	天啓通宝	2.6	0.6	3.25			516	天啓通宝	2.5	0.5	3.34		
438	磨光通宝	2.4	0.7	3.14			478	天啓通宝	2.5	0.6	3.08			517	天啓通宝	2.5	0.5	3.77		
439	磨光通宝	2.4	0.6	3.47			479	天啓通宝	2.5	0.6	3.18	○	○	518	天啓通宝	2.5	0.5	3.3		
440	磨光通宝	2.5	0.6	2.81			480	天祐通宝	2.5	0.6	3.4	○		519	天啓通宝	2.5	0.5	3.11		
441	磨光通宝	2.5	0.6	3.47			481	天祐通宝	2.5	0.6	3.89	○		520	天啓通宝	2.5	0.5	2.94		
442	磨光通宝	2.4	0.5	2.66			482	天祐通宝	2.5	0.65	3.99			521	天啓通宝	2.5	0.5	3.38		
443	磨光通宝	2.5	0.7	3.11			483	磨光通宝	2.5	0.5	3.79	○		522	天啓通宝	2.5	0.5	3.62		
444	磨光通宝	2.4	0.55	4.06			484	磨光通宝	2.4	0.5	3.51	○		523	天啓通宝	2.5	0.5	3.22		
445	磨光通宝	2.5	0.6	3.23			485	磨光通宝	2.4	0.6	2.83	○	○	524	中興	2.4	0.7	1.96		
446	磨光通宝	2.5	0.6	2.4			486	磨光通宝	2.5	0.6	3.05	○								
447	磨光通宝	2.5	0.6	3.19	○	○	487	磨光通宝	2.5	0.5	2.91									

表 22 P-239 出土古銭観察表 (3)



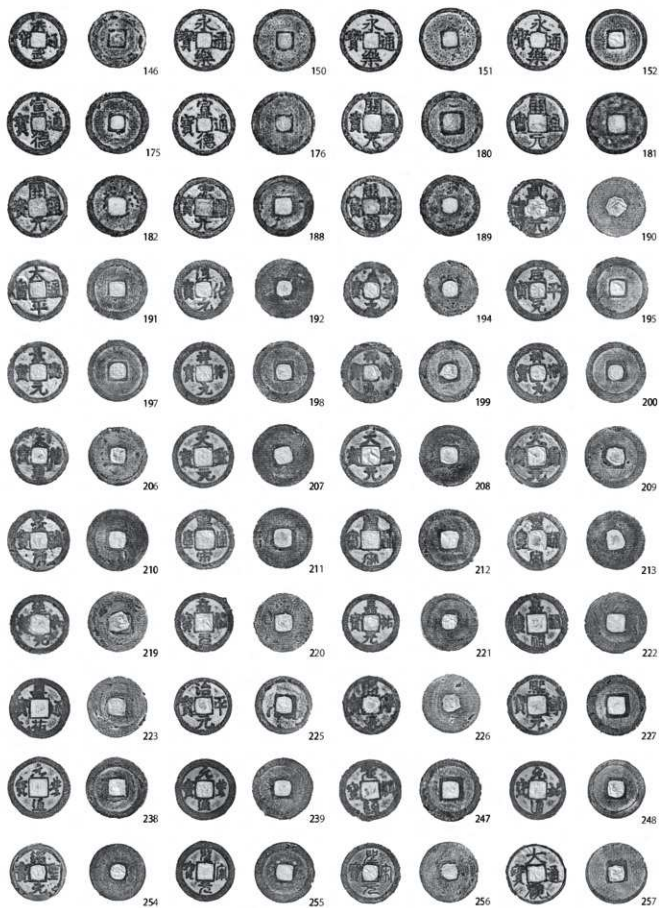
第 52 図 P-240 出土古銭 (1)

0 (S-2.3) 3 cm



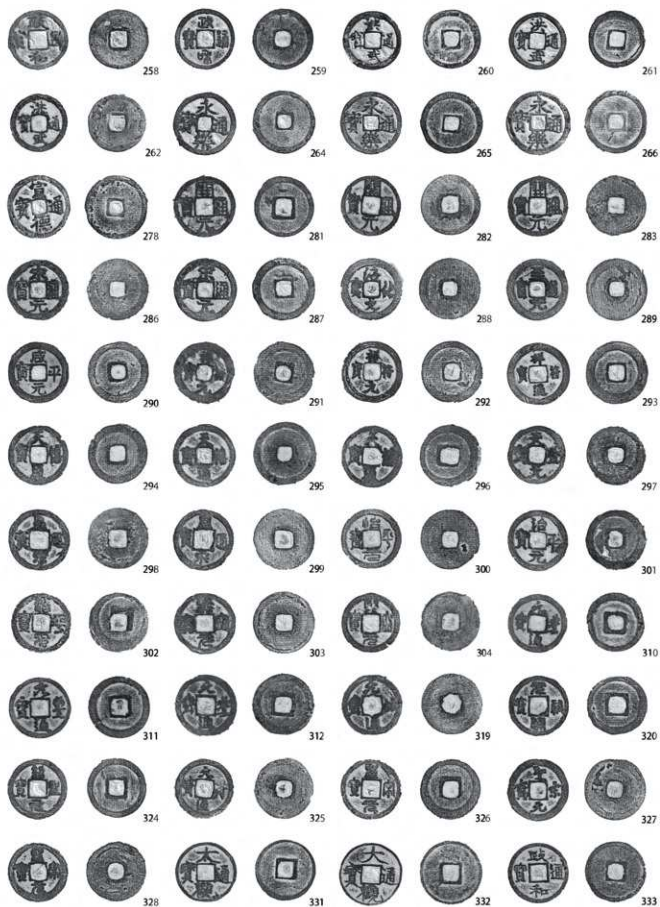
第 53 图 P-240 出土古钱 (2)

0 (S-2-3) 3 cm



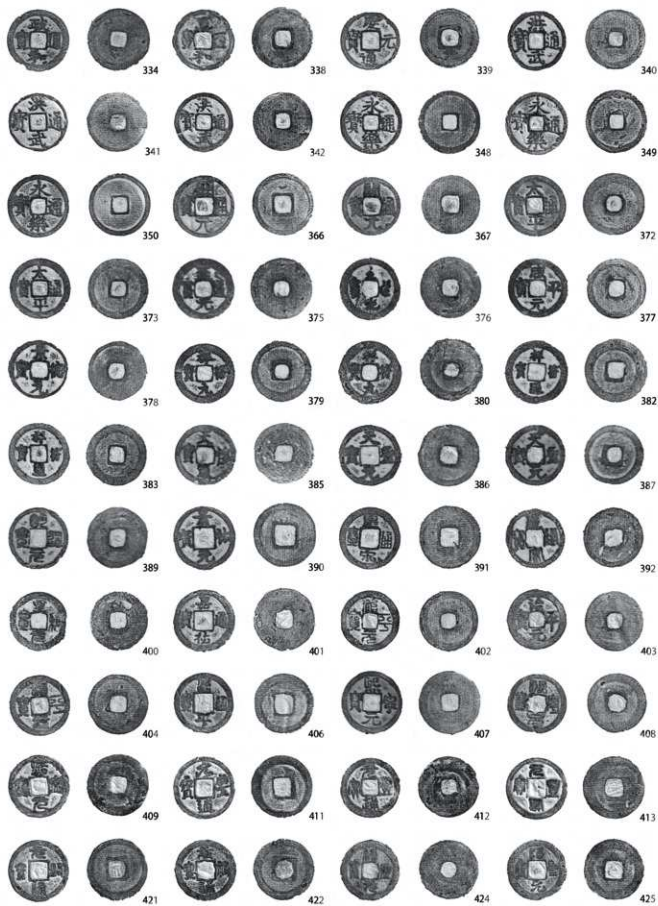
第 54 图 P-240 出土古钱 (3)

0 (S-2.3) 3 cm



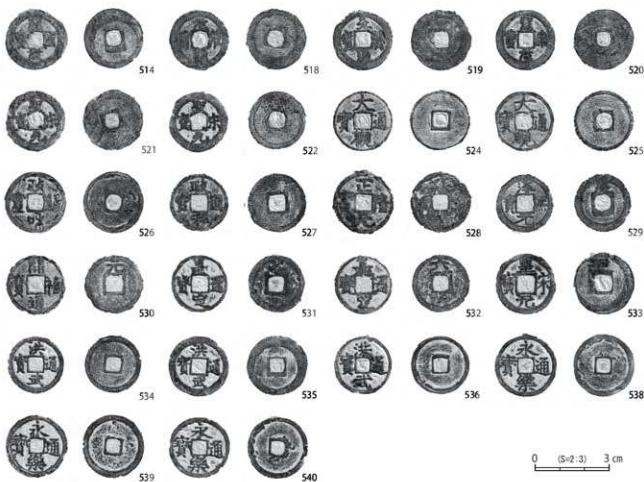
第 55 图 P-240 出土古钱 (4)

0 (S-2.3) 3 cm



第 56 图 P-240 出土古钱 (5)

0 (S-2:3) 3 cm



第 58 図 P-240 出土古銭 (7)

NO	種類	直径 (mm)	孔径 (mm)	重量 (g)	鉛本	写真	NO	種類	直径 (mm)	孔径 (mm)	重量 (g)	鉛本	写真	NO	種類	直径 (mm)	孔径 (mm)	重量 (g)	鉛本	写真
1	開元通宝	2.4	0.9	3.2	○	○	30	祥符元宝	2.4	0.9	2.87	○		59	宣和通宝	2.6	0.9	3.46	○	
2	開元通宝	2.5	0.9	3.04	○		31	熙寧元宝	2.5	0.9	3.21			60	永樂通宝	2.6	0.9	3.02	○	
3	開元通宝	2.6	0.75	3.45	○		32	熙寧元宝	2.5	0.9	2.43			61	永樂通宝	2.6	0.9	3.66	○	○
4	聖宋元宝	2.5	0.9	3	○	○	33	政和通宝	2.5	0.9	3.82	○	○	62	永樂通宝	2.6	0.9	3.25	○	
5	慶曆元宝	2.5	0.9	3.91	○		34	高宗通宝	2.5	0.9	2.94	○		63	永樂通宝	2.6	0.95	3.71		
6	祥符元宝	2.5	0.9	3.37	○	○	35	高宗通宝	2.4	0.9	3.09	○		64	永樂通宝	2.6	0.95	3.62		
7	祥符元宝	2.5	0.6	3.77	○		36	高宗通宝	2.4	0.6	3.07	○	○	65	永樂通宝	2.55	0.9	3.12		
8	祥符元宝	2.5	0.6	3.35			37	高宗通宝	2.4	0.7	3.01			66	永樂通宝	2.50	0.6	3.91		
9	天禧通宝	2.5	0.9	3.09	○		38	紹興元宝	2.5	0.9	3.06	○		67	寧朝	2.5	0.6	2.42		
10	天聖元宝	2.5	0.6	3.38	○		39	紹興元宝	2.5	0.6	3.97	○	○	68	開元通宝	2.5	0.7	2.86	○	○
11	天聖元宝	2.5	0.6	3.02	○		40	紹興元宝	2.3	0.6	2.28			69	開元通宝	2.4	0.7	2.77	○	
12	天聖元宝	2.4	0.6	3.61	○		41	天禧通宝	2.5	0.5	3.03	○		70	開元通宝	2.45	0.7	2.99		
13	天聖元宝	2.55	0.6	3.72			42	聖宋元宝	2.3	0.5	2.35	○		71	開元通宝	2.4	0.7	2.92		
14	天聖元宝	2.5	0.7	2.9			43	聖宋元宝	2.5	0.5	3.03	○		72	太平通宝	2.5	0.6	2.93	○	
15	開禧元宝	2.6	0.7	3.61	○		44	聖宋元宝	2.4	0.6	3.02			73	太平通宝	2.4	0.6	3.47	○	
16	慶曆元宝	2.5	0.9	3.87	○		45	聖宋元宝	2.4	0.9	2.99			74	咸平元宝	2.5	0.7	3.59	○	○
17	慶曆元宝	2.5	0.6	3.18			46	聖宋元宝	2.5	0.6	3.43			75	咸平元宝	2.5	0.7	3.98	○	
18	聖宋元宝	2.4	0.7	3.01	○		47	聖宋元宝	2.4	0.6	2.86			76	咸平元宝	2.4	0.6	3.87	○	
19	聖宋元宝	2.4	0.6	3.04	○		48	聖宋元宝	2.4	0.6	2.72			77	慶曆元宝	2.5	0.6	3.89	○	
20	聖宋元宝	2.5	0.7	2.72	○	○	49	天禧通宝	2.5	0.6	2.82	○	○	78	祥符元宝	2.6	0.7	3.36	○	
21	聖宋元宝	2.5	0.6	3.48			50	天禧通宝	2.5	0.8	2.47	○		79	祥符元宝	2.5	0.8	3.14	○	
22	聖宋元宝	2.5	0.6	3.71			51	政和通宝	2.5	0.6	3.25	○	○	80	祥符元宝	2.5	0.6	2.65	○	
23	聖宋元宝	2.5	0.7	2.98			52	政和通宝	2.5	0.5	3.19	○		81	祥符元宝	2.4	0.6	4.43		
24	聖宋元宝	2.55	0.6	2.21			53	政和通宝	2.5	0.6	3.53	○		82	天禧通宝	2.5	0.7	3.36	○	○
25	聖宋元宝	2.4	0.6	3.61			54	紹興通宝	2.6	0.7	3.13	○	○	83	天禧通宝	2.6	0.7	4.43	○	
26	聖宋元宝	2.4	0.5	3.64	○		55	洪武通宝	2.55	0.6	3.16	○		84	天禧通宝	2.5	0.6	3.5		
27	治平元宝	2.4	0.55	3.72	○	○	56	洪武通宝	2.5	0.9	3.35	○		85	天禧通宝	2.5	0.7	3.71		
28	熙寧元宝	2.4	0.9	3.87	○		57	洪武通宝	2.45	0.55	2.82	○	○	86	天禧通宝	2.4	0.6	4.4	○	○
29	熙寧元宝	2.4	0.6	3.09	○		58	洪武通宝	2.45	0.5	3.72			87	興隆通宝	2.5	0.75	3.44	○	○

表 23 P-240 出土古銭観察表 (1)

NO.	種類	直径 (mm)	孔径 (mm)	重量 (g)	胎本	写真	NO.	種類	直径 (mm)	孔径 (mm)	重量 (g)	胎本	写真	NO.	種類	直径 (mm)	孔径 (mm)	重量 (g)	胎本	写真
88	磨光土瓦	2.55	0.7	3.09	○		157	水車蓮蓬	2.5	0.6	3.16			274	磨光蓮蓬	2.5	0.7	3.16		
89	磨光土瓦	2.5	0.7	3.91	○	○	157	水車蓮蓬	2.5	0.5	3.94			275	磨光土瓦	2.4	0.6	2.21	○	○
90	磨光土瓦	2.4	0.65	2.9	○		158	水車蓮蓬	2.55	0.55	3.2			276	磨光土瓦	2.4	0.6	3.83	○	
91	磨光土瓦	2.4	0.7	2.8	○	○	159	水車蓮蓬	2.55	0.55	3.03			277	磨光土瓦	2.5	0.6	3.17	○	○
92	磨光土瓦	2.55	0.7	3.28	○		160	水車蓮蓬	2.6	0.6	2.22			278	磨光土瓦	2.5	0.65	3.24		
93	磨光土瓦	2.4	0.7	2.56	○		161	水車蓮蓬	2.45	0.65	2.09			279	磨光土瓦	2.5	0.7	3.73		
94	磨光土瓦	2.5	0.6	2.46			162	水車蓮蓬	2.55	0.6	3.01			280	磨光土瓦	2.5	0.65	3.68		
95	磨光土瓦	2.4	0.65	2.25			163	水車蓮蓬	2.55	0.5	3.3			281	磨光土瓦	2.5	0.7	4.44		
96	磨光土瓦	2.5	0.7	3.24			164	水車蓮蓬	2.55	0.55	2.66			282	磨光土瓦	2.45	0.6	3.65		
97	磨光土瓦	2.4	0.75	2.05			165	水車蓮蓬	2.55	0.65	4.15			283	磨光土瓦	2.45	0.7	3.53		
98	磨光土瓦	2.4	0.7	3.92			166	水車蓮蓬	2.5	0.55	3.81			284	磨光土瓦	2.5	0.7	3.57		
99	磨光土瓦	2.45	0.6	2.9			167	水車蓮蓬	2.5	0.55	3.49			285	磨光土瓦	2.4	0.65	2.51		
100	磨光土瓦	2.4	0.6	2.4			168	水車蓮蓬	2.55	0.5	3.44			286	磨光土瓦	2.4	0.6	3.96		
101	磨光土瓦	2.4	0.65	2.8			169	水車蓮蓬	2.5	0.55	3.32			287	磨光土瓦	2.5	0.6	3.02		
102	磨光土瓦	2.3	0.7	3.09			170	水車蓮蓬	2.45	0.55	3.72			288	水車蓮蓬	2.5	0.7	3.46	○	○
103	磨光土瓦	2.45	0.7	3.07			171	水車蓮蓬	2.55	0.5	3.52			289	水車蓮蓬	2.5	0.6	3.57	○	
104	磨光土瓦	2.5	0.7	2.8			172	水車蓮蓬	2.55	0.55	2.93			290	水車蓮蓬	2.5	0.6	3.4		
105	磨光土瓦	2.45	0.7	3.19			173	水車蓮蓬	2.55	0.55	3.27			291	水車蓮蓬	2.5	0.4	3.57		
106	磨光土瓦	2.5	0.65	2.78	○		174	水車蓮蓬	2.55	0.5	3.2			292	水車蓮蓬	2.5	0.7	3.5		
107	磨光土瓦	2.5	0.7	2.59	○		175	磨光土瓦	2.55	0.55	3.68	○		293	水車蓮蓬	2.5	0.6	3.93		
108	磨光土瓦	2.45	0.65	2.65	○		176	磨光土瓦	2.55	0.5	3.19	○	○	294	水車蓮蓬	2.4	0.6	3.22		
109	磨光土瓦	2.4	0.6	2.95	○	○	177	水車蓮蓬	2.55	0.5	3.17			295	水車蓮蓬	2.5	0.6	3.36		
110	磨光土瓦	2.5	0.65	3.08	○		178	水車蓮蓬	2.45	0.7	4.11			296	水車蓮蓬	2.4	0.7	3.94		
111	磨光土瓦	2.5	0.65	3.64	○	○	179	水車蓮蓬	2.45	0.6	3.1			297	水車蓮蓬	2.5	0.7	2.9	○	○
112	磨光土瓦	2.35	0.65	3.55			180	磨光土瓦	2.5	0.6	3.68	○		298	水車蓮蓬	2.4	0.6	3.09	○	○
113	磨光土瓦	2.5	0.65	3.08			181	磨光土瓦	2.5	0.6	3.61	○		299	水車蓮蓬	2.5	0.6	3.77		
114	磨光土瓦	2.5	0.6	3.19			182	磨光土瓦	2.5	0.7	3.24	○		300	水車蓮蓬	2.5	0.65	3.2		
115	磨光土瓦	2.4	0.65	2.98			183	磨光土瓦	2.5	0.7	2.98			301	水車蓮蓬	2.5	0.7	3.38		
116	磨光土瓦	2.5	0.65	3.8			184	磨光土瓦	2.5	0.65	3.77			302	水車蓮蓬	2.4	0.7	3.41		
117	水車蓮蓬	2.45	0.6	4.35	○		185	磨光土瓦	2.4	0.6	3.7			303	水車蓮蓬	2.5	0.6	3.45		
118	水車蓮蓬	2.45	0.7	3.09	○		186	磨光土瓦	2.3	0.5	3.04			304	磨光土瓦	2.4	0.6	2.96	○	○
119	水車蓮蓬	2.45	0.7	2.82	○	○	187	磨光土瓦	2.4	0.6	3.21			305	磨光土瓦	2.5	0.6	3.22	○	○
120	水車蓮蓬	2.5	0.55	3.9			188	水車蓮蓬	2.45	0.6	2.89	○	○	306	磨光土瓦	2.5	0.6	2.99	○	○
121	水車蓮蓬	2.4	0.5	3.26			189	磨光土瓦	2.5	0.6	3.45	○	○	307	水車蓮蓬	2.6	0.6	3.56	○	○
122	水車蓮蓬	2.4	0.7	3.29			190	磨光土瓦	2.4	0.7	2.59	○	○	308	磨光土瓦	2.5	0.6	3.63	○	○
123	水車蓮蓬	2.5	0.65	3.52			191	水車蓮蓬	2.5	0.6	2.47	○	○	309	磨光土瓦	2.4	0.6	3.27	○	○
124	水車蓮蓬	2.4	0.65	3.46			192	水車蓮蓬	2.5	0.6	2.82	○	○	310	磨光土瓦	2.4	0.6	3.61	○	○
125	水車蓮蓬	2.5	0.7	3.97	○		193	水車蓮蓬	2.4	0.6	2.96			311	磨光土瓦	2.4	0.5	2.46	○	○
126	水車蓮蓬	2.4	0.6	3.15	○		194	水車蓮蓬	2.3	0.6	2.75	○		312	磨光土瓦	2.3	0.5	2.85	○	○
127	水車蓮蓬	2.4	0.75	3.41			195	磨光土瓦	2.5	0.6	3.04	○		313	磨光土瓦	2.45	0.5	4.68		
128	水車蓮蓬	2.45	0.65	3.22			196	磨光土瓦	2.5	0.6	3.61			314	水車蓮蓬	2.6	0.5	3.75	○	○
129	磨光土瓦	2.5	0.7	3.41	○		197	磨光土瓦	2.5	0.4	3.03	○	○	315	水車蓮蓬	2.5	0.5	3.76	○	○
130	磨光土瓦	2.45	0.6	2.91	○	○	198	磨光土瓦	2.4	0.6	3.5	○	○	316	水車蓮蓬	2.4	0.5	3.81	○	○
131	磨光土瓦	2.4	0.6	3.14	○		199	磨光土瓦	2.5	0.6	2.68	○		317	水車蓮蓬	2.4	0.5	3.89		
132	磨光土瓦	2.4	0.6	3.19			200	磨光土瓦	2.5	0.6	3.29	○		318	水車蓮蓬	2.4	0.5	3.8		
133	磨光土瓦	2.4	0.6	3.05			201	磨光土瓦	2.6	0.6	3.95			319	水車蓮蓬	2.6	0.5	3.2		
134	磨光土瓦	2.4	0.65	3.26	○		202	磨光土瓦	2.6	0.6	3.97			320	水車蓮蓬	2.6	0.6	3.44		
135	磨光土瓦	2.4	0.65	3.09	○	○	203	磨光土瓦	2.5	0.6	3.53			321	水車蓮蓬	2.6	0.6	3.24		
136	磨光土瓦	2.45	0.65	2.61	○		204	磨光土瓦	2.4	0.55	3.34			322	水車蓮蓬	2.5	0.5	3.39		
137	磨光土瓦	2.4	0.55	2.85			205	磨光土瓦	2.6	0.6	4.04			323	水車蓮蓬	2.5	0.5	3.29		
138	水車蓮蓬	2.4	0.7	3.25	○		206	水車蓮蓬	2.4	0.6	2.99	○		324	水車蓮蓬	2.5	0.5	3.99		
139	水車蓮蓬	2.3	0.6	3.9	○	○	207	水車蓮蓬	2.55	0.65	4.19	○		325	水車蓮蓬	2.5	0.6	3.65		
140	水車蓮蓬	2.45	0.6	2.3			208	水車蓮蓬	2.55	0.7	3.03	○		326	水車蓮蓬	2.5	0.5	3.47		
141	水車蓮蓬	2.45	0.6	2.87	○		209	水車蓮蓬	2.5	0.7	2.99	○		327	水車蓮蓬	2.6	0.5	3.91		
142	水車蓮蓬	2.5	0.6	3.53	○	○	210	磨光土瓦	2.6	0.6	2.84	○		328	磨光土瓦	2.4	0.5	3.61	○	○
143	水車蓮蓬	2.35	0.6	2.22	○		211	磨光土瓦	2.5	0.7	2.47	○	○	329	水車蓮蓬	2.4	0.7	3.03	○	○
144	水車蓮蓬	2.5	0.55	3.7	○		212	磨光土瓦	2.55	0.7	2.99	○		330	水車蓮蓬	2.5	0.65	3.87		
145	水車蓮蓬	2.5	0.6	2.8	○	○	213	磨光土瓦	2.5	0.7	2.82	○		331	磨光土瓦	2.5	0.6	3.17	○	○
146	水車蓮蓬	2.4	0.55	3.6	○		214	磨光土瓦	2.5	0.6	3.62			332	磨光土瓦	2.5	0.7	3.88	○	○
147	水車蓮蓬	2.2	0.55	3.32			215	磨光土瓦	2.4	0.7	2.85			333	磨光土瓦	2.5	0.55	3.23	○	○
148	水車蓮蓬	2.3	0.5	3.61			216	磨光土瓦	2.5	0.7	3.45			334	磨光土瓦	2.3	0.6	2.75		
149	水車蓮蓬	2.3	0.5	2.95			217	磨光土瓦	2.5	0.7	3.36			335	磨光土瓦	2.45	0.55	2.6		
150	水車蓮蓬	2.5	0.6	2.98	○		218	磨光土瓦	2.5	0.7	3.12			336	磨光土瓦	2.55	0.65	2.85	○	○
151	水車蓮蓬	2.5	0.55	4.29	○		219	磨光土瓦	2.5	0.7	3.4	○		337	磨光土瓦	2.5	0.55	3.37	○	○
152	水車蓮蓬	2.45	0.55	2.42	○	○	220	磨光土瓦	2.4	0.6	4.66	○		338	磨光土瓦	2.5	0.5	3.54	○	○
153	水車蓮蓬	2.5	0.55	4.4			221	磨光土瓦	2.4	0.6	3.85	○	○	339	磨光土瓦	2.45	0.65	3.1	○	○
154	水車蓮蓬	2.55	0.5	2.22			222	磨光土瓦	2.6	0.7	3.12	○		340	磨光土瓦	2.45	0.6	3.44	○	○
155	水車蓮蓬	2.5	0.55	3.43			223	磨光土瓦	2.5	0.7	3.32	○	○	341	磨光土瓦	2.4	0.55	3.96	○	○

表 23 P-240 出土古銭観察表 (2)

NO.	種類	直径 (mm)	孔径 (mm)	重量 (g)	胎本	写真	NO.	種類	直径 (mm)	孔径 (mm)	重量 (g)	胎本	写真	NO.	種類	直径 (mm)	孔径 (mm)	重量 (g)	胎本	写真
282	群聚瓦	2.5	0.85	3.32	○	○	265	赤土甕	2.45	0.95	3.5			429	灰泥甕	2.4	0.7	3.27		
283	群聚瓦	2.55	0.8	3.31	○	○	261	赤土甕	2.55	0.55	3.35			429	群聚瓦	2.4	0.7	3.14	○	
284	天冠甕	2.4	0.6	3.14	○	○	262	赤土甕	2.55	0.55	3.78			430	群聚瓦	2.45	0.6	3.42	○	○
285	天冠甕	2.65	0.65	4.08	○	○	263	赤土甕	2.65	0.4	5.07			431	群聚瓦	2.5	0.7	3.05		
286	天冠甕	2.55	0.4	3.05	○	○	264	不明	2.45	0.55	3.07			432	天冠甕	2.45	0.65	3.05	○	
287	天冠瓦	2.4	0.4	3.45	○	○	265	不明	2.4	0.4	2.91			432	天冠甕	2.55	0.75	3.27	○	○
288	群聚瓦	2.45	0.7	3.77	○	○	266	群聚瓦	2.55	0.4	2.93	○	○	434	群聚瓦	2.4	0.4	3.05	○	
289	群聚瓦	2.5	0.75	3.51	○	○	267	群聚瓦	2.4	0.65	2.19	○	○	435	群聚瓦	2.55	0.65	3.52	○	○
290	浴平瓦	2.45	0.65	3.38	○	○	268	群聚瓦	2.4	0.65	2.88			436	群聚瓦	2.5	0.7	3.05	○	
291	浴平瓦	2.5	0.55	3.22	○	○	269	群聚瓦	2.5	0.7	2.44			437	群聚瓦	2.55	0.65	2.6		
292	浴平瓦	2.5	0.65	3.05	○	○	270	群聚瓦	2.4	0.4	2.24			437	群聚瓦	2.4	0.6	2.77		
293	群聚瓦	2.5	0.4	3.08	○	○	271	群聚瓦	2.4	0.4	2.92			439	洋灰瓦	2.4	0.4	2.52	○	○
294	群聚瓦	2.4	0.7	3.47	○	○	272	太平甕	2.6	0.8	3.12	○		440	赤土甕	2.4	0.4	4.02	○	○
295	群聚瓦	2.45	0.65	3.56			273	太平甕	2.45	0.65	3.22	○		441	赤土甕	2.4	0.6	3.2	○	
296	群聚瓦	2.4	0.4	3.41			274	太平甕	2.5	0.55	3.16			442	赤土甕	2.4	0.5	3.34	○	○
297	群聚瓦	2.55	0.4	3.51			275	瓦通瓦	2.5	0.45	3.18	○	○	443	赤土甕	2.4	0.45	3.32		
298	群聚瓦	2.45	0.55	4.28			276	瓦通瓦	2.55	0.45	2.97	○		444	赤土甕	2.4	0.4	3.4		
299	群聚瓦	2.45	0.45	4.37			277	赤土甕	2.5	0.45	3.22	○		445	赤土甕	2.4	0.4	3.52		
300	瓦通瓦	2.25	0.45	4.23	○	○	278	赤土甕	2.45	0.45	2.69	○		446	赤土甕	2.45	0.55	4.5		
301	瓦通瓦	2.5	0.45	3.18	○	○	279	群聚瓦	2.55	0.4	3.29	○		447	赤土甕	2.55	0.4	3.8	○	○
312	瓦通瓦	2.5	0.45	3.52	○	○	280	群聚瓦	2.55	0.4	3.35	○		448	赤土甕	2.4	0.45	3.5	○	○
313	瓦通瓦	2.45	0.4	3.32			281	群聚瓦	2.65	0.4	3.8			449	赤土甕	2.55	0.4	3.14	○	○
314	瓦通瓦	2.45	0.4	3.32			282	群聚瓦	2.65	0.45	4.4	○		450	赤土甕	2.4	0.55	3.78		
315	瓦通瓦	2.45	0.4	3.04			283	群聚瓦	2.55	0.4	3.37	○	○	451	赤土甕	2.55	0.55	2.99		
316	瓦通瓦	2.45	0.45	3.32			284	群聚瓦	2.45	0.45	3.12			452	赤土甕	2.5	0.5	3.59		
317	瓦通瓦	2.45	0.65	3			285	天冠甕	2.55	0.65	2.76	○	○	453	赤土甕	2.55	0.65	4.32		
318	瓦通瓦	2.4	0.4	3.59			286	天冠瓦	2.4	0.45	3.52	○		454	赤土甕	2.4	0.6	3.81		
319	瓦通瓦	2.45	0.45	3.71	○	○	287	天冠瓦	2.55	0.45	3.48	○	○	455	赤土甕	2.4	0.55	3.08		
320	瓦通瓦	2.45	0.45	3.34	○	○	288	天冠瓦	2.45	0.75	3.03			456	赤土甕	2.5	0.65	2.79		
321	瓦通瓦	2.4	0.45	3.12			289	群聚瓦	2.4	0.45	3.02	○	○	457	赤土甕	2.55	0.4	3.88		
322	瓦通瓦	2.5	0.45	4.69			290	群聚瓦	2.45	0.45	3.53	○		458	赤土甕	2.4	0.4	3.29		
323	瓦通瓦	2.5	0.45	3.55			291	群聚瓦	2.55	0.45	3.43	○	○	459	赤土甕	2.4	0.4	4.28		
324	群聚瓦	2.45	0.65	3.54	○	○	292	群聚瓦	2.5	0.45	3.19	○	○	460	赤土甕	2.55	0.4	3.32		
325	浴平瓦	2.4	0.7	3.7	○	○	293	群聚瓦	2.45	0.7	1.99			461	赤土甕	2.55	0.7	4.77		
326	群聚瓦	2.45	0.4	3.35	○	○	294	群聚瓦	2.4	0.4	3.41			462	赤土甕	2.4	0.4	3.58		
327	群聚瓦	2.5	0.45	3.19	○	○	295	群聚瓦	2.4	0.45	3.08			463	赤土甕	2.4	0.6	3.29		
328	群聚瓦	2.4	0.4	2.66	○	○	296	群聚瓦	2.45	0.55	3.43			464	群聚瓦	2.4	0.55	3.2	○	○
329	群聚瓦	2.45	0.65	2.34			297	群聚瓦	2.45	0.75	2.7			465	群聚瓦	2.4	0.55	4.12	○	○
330	群聚瓦	2.35	0.7	2.71			298	群聚瓦	2.45	0.4	2.82			466	群聚瓦	2.4	0.55	4.02	○	○
331	天冠甕	2.5	0.55	3.2	○	○	299	群聚瓦	2.55	0.45	3.14			467	群聚瓦	2.5	0.7	3.45	○	○
332	天冠甕	2.55	0.45	2.4	○	○	400	群聚瓦	2.54	0.4	2.51	○		468	群聚瓦	2.55	0.45	3.13	○	○
333	群聚瓦	2.45	0.55	3.38	○	○	401	群聚瓦	2.4	0.7	3.16	○	○	469	群聚瓦	2.5	0.7	2.86	○	○
334	群聚瓦	2.5	0.45	3.12	○	○	402	浴平瓦	2.45	0.45	3.12	○	○	470	群聚瓦	2.45	0.4	3.22	○	○
335	群聚瓦	2.55	0.45	2.95			403	浴平瓦	2.45	0.45	3.8	○	○	471	群聚瓦	2.4	0.4	3.8	○	○
336	群聚瓦	2.45	0.7	2.05			404	浴平瓦	2.45	0.4	3.27	○	○	472	群聚瓦	2.4	0.65	3.65		
337	群聚瓦	2.45	0.7	3.01			405	浴平瓦	2.4	0.55	3.33			473	群聚瓦	2.55	0.65	2.9	○	○
338	群聚瓦	2.4	0.55	2.98	○	○	406	浴平瓦	2.45	0.4	2.76	○		474	天冠瓦	2.4	0.7	4.02	○	○
339	群聚瓦	2.45	0.7	3.18	○	○	407	群聚瓦	2.55	0.7	3.52	○	○	475	群聚瓦	2.4	0.4	2.9	○	○
340	赤土甕	2.45	0.35	3.25	○	○	408	群聚瓦	2.4	0.45	2.88	○		476	天冠瓦	2.4	0.75	2.5	○	
341	赤土甕	2.4	0.4	3.08	○	○	409	群聚瓦	2.4	0.7	3.47	○		477	群聚瓦	2.4	0.75	2.9	○	
342	赤土甕	2.54	0.5	3.11	○	○	410	群聚瓦	2.45	0.45	2.82			478	群聚瓦	2.55	0.75	3.23	○	○
343	赤土甕	2.35	0.45	3.55			411	赤土甕	2.4	0.75	3.18	○	○	479	群聚瓦	2.4	0.4	4.48	○	○
344	赤土甕	2.35	0.45	3.38			412	赤土甕	2.5	0.45	3.69	○		480	群聚瓦	2.55	0.7	3.07	○	○
345	赤土甕	2.35	0.45	4.21			413	赤土甕	2.55	0.7	3.37	○		481	群聚瓦	2.55	0.7	3.35		
346	赤土甕	2.35	0.45	2.56			414	赤土甕	2.5	0.7	3.62			482	群聚瓦	2.45	0.4	3.52		
347	赤土甕	2.35	0.55	3.2			415	赤土甕	2.45	0.7	2.29			483	群聚瓦	2.55	0.45	3.93		
348	赤土甕	2.55	0.55	3.71	○	○	416	赤土甕	2.55	0.45	3.16			484	群聚瓦	2.55	0.4	3.43		
349	赤土甕	2.55	0.55	3.69	○	○	417	赤土甕	2.55	0.45	3.48			485	群聚瓦	2.5	0.7	3.29		
350	赤土甕	2.5	0.5	3.5	○	○	418	赤土甕	2.45	0.7	2.81			486	群聚瓦	2.55	0.4	4.02		
351	赤土甕	2.4	0.4	3.43			419	赤土甕	2.55	0.45	3.96			487	群聚瓦	2.35	0.4	3.88		
352	赤土甕	2.5	0.5	3.72			420	赤土甕	2.4	0.7	3.59			488	群聚瓦	2.55	0.65	3.56		
353	赤土甕	2.4	0.55	3.25			421	赤土甕	2.45	0.7	3.51	○		489	群聚瓦	2.5	0.65	3.3		
354	赤土甕	2.5	0.55	3.48			422	赤土甕	2.5	0.7	3.23	○	○	490	群聚瓦	2.45	0.4	2.94		
355	赤土甕	2.55	0.5	3.41			423	赤土甕	2.5	0.45	2.57			491	群聚瓦	2.5	0.4	2.65	○	
356	赤土甕	2.55	0.5	3.18			424	群聚瓦	2.5	0.4	3.78	○	○	492	赤土甕	2.55	0.4	3.96	○	○
357	赤土甕	2.5	0.5	3.11			425	群聚瓦	2.5	0.75	3.5	○	○	493	浴平瓦	2.5	0.45	3.48	○	○
358	赤土甕	2.5	0.5	2.51			426	群聚瓦	2.5	0.75	3.65			494	浴平瓦	2.55	0.45	3.43	○	○
359	赤土甕	2.45	0.55	3.47			427	群聚瓦	2.5	0.45	3.07			495	浴平瓦	2.5	0.4	3.39		

表 23 P-240 出土古銭観察表 (3)

NO	種類	直径 (cm)	孔径 (cm)	重量 (g)	粘土	写真	NO	種類	直径 (cm)	孔径 (cm)	重量 (g)	粘土	写真	NO	種類	直径 (cm)	孔径 (cm)	重量 (g)	粘土	写真
496	煎茶元宝	2.45	0.6	3.12	○	○	519	元祐通宝	2.55	0.6	3.15	○	○	542	永樂通宝	2.6	0.45	3.2		
497	煎茶元宝	2.45	0.6	3.16	○		520	聖宋元宝	2.5	0.55	3.45	○		543	永樂通宝	2.6	0.55	3.25		
498	煎茶元宝	2.5	0.65	4.22			521	聖宋元宝	2.55	0.55	3.84	○		544	永樂通宝	2.6	0.5	3.57		
499	煎茶元宝	2.45	0.65	3.41			522	聖宋元宝	2.45	0.65	3.78	○	○	545	永樂通宝	2.45	0.55	3.93		
500	元祐通宝	2.4	0.4	3.28	○		523	聖宋元宝	2.45	0.65	2.46			546	永樂通宝	2.55	0.55	3.24		
501	元祐通宝	2.45	0.45	4.02	○	○	524	大觀通宝	2.55	0.4	3.09	○	○	547	永樂通宝	2.6	0.55	2.96		
502	元祐通宝	2.5	0.45	3.33	○	○	525	大觀通宝	2.5	0.7	3.42	○		548	永樂通宝	2.55	0.55	3.59		
503	元祐通宝	2.5	0.45	3.28			526	嘉寧通宝	2.55	0.65	2.69	○		549	永樂通宝	2.55	0.6	3.09		
504	元祐通宝	2.35	0.45	2.56			527	徽宗通宝	2.45	0.65	2.58	○	○	550	寧順	2.45	0.65	3.31		
505	元祐通宝	2.4	0.6	2.87			528	正徳通宝	2.55	0.6	2.67	○		551	寧順	2.5	0.6	3.38		
506	元祐通宝	2.5	0.65	2.85			529	淳熙元宝	2.45	0.65	3.72	○	○	552	嗣光通宝	2.5	0.65	2.07		
507	元祐通宝	2.55	0.6	3.42	○		530	嘉泰通宝	2.45	0.7	2.86	○	○	553	太平通宝	2.45	0.65	2.42		
508	元祐通宝	2.45	0.65	3.06	○	○	531	嘉寧通宝	2.35	0.65	2.66	○		554	天禧通宝	2.35	0.65	3.33		
509	元祐通宝	2.55	0.6	3.05	○		532	嘉寧通宝	2.45	0.6	3.02	○	○	555	淳平元宝	2.45	0.6	2.91		
510	元祐通宝	2.5	0.65	3.4			533	聖宋元宝	2.55	0.6	3.46	○	○	556	元祐通宝	2.6	0.55	3.84		
511	元祐通宝	2.5	0.6	2.4			534	洪武通宝	2.4	0.55	3.42	○		557	永樂通宝	2.55	0.65	3.84		
512	紹聖元宝	2.45	0.45	3.53	○	○	535	洪武通宝	2.55	0.6	3.17	○		558	永樂通宝	2.55	0.55	3.74		
513	紹聖元宝	2.5	0.45	3.47	○		536	洪武通宝	2.45	0.55	3.98	○		559	永樂通宝	2.55	0.55	3.09		
514	紹聖元宝	2.45	0.45	3.28	○		537	洪武通宝	2.45	0.5	2.91			560	永樂通宝	2.55	0.55	2.41		
515	紹聖元宝	2.4	0.45	2.74			538	永樂通宝	2.6	0.4	2.66	○	○	561	宣徳通宝	2.4	0.45	3.65		
516	紹聖元宝	2.45	0.4	3			539	永樂通宝	2.6	0.55	3.56	○		562	寧順	2.45	0.7	3.13		
517	紹聖元宝	2.45	0.45	2.56			540	永樂通宝	2.55	0.5	3.15	○								
518	元祐通宝	2.6	0.45	2.58	○		541	永樂通宝	2.6	0.55	3.21									

表 23 P-240 出土古銭観察表 (4)

その他のピット

P-221 (第 22・59 図、表 24)

重複関係 なし

規模・形態・構造 直径 0.55～0.6 m、深さ 0.22 m。平面形は不整な円形で、柱痕を確認した。

遺物 須恵器が出土した。須恵器は甕などが含まれる。

P-238 (第 23・59 図、表 24)

重複関係 なし

規模・形態・構造 直径 0.7 m、深さ 0.66 m。平面形は円形で、柱痕を確認した。

遺物 土師器が出土した。土師器は坏などが含まれる。

P-251 (第 23・59 図、表 24)

重複関係 SD-058 → P-251

規模・形態・構造 一辺 0.7 m、深さ 0.26 m。平面形は方形である。

遺物 土師器、須恵器が出土した。土師器は坏・甕などが含まれる。

P-270 (第 23・59 図、表 24)

重複関係 SK-086 → P-270

規模・形態・構造 一辺 0.9～1.0 m、深さ 0.7 m。平面形は方形で、柱痕を確認した。

遺物 土師器、鉄滓 15g が出土した。土師器は坏などが含まれる。

P-293 (第 24・59 図、表 24)

重複関係 P-299 → P-293

規模・形態・構造 長軸 0.8 m、短軸 0.6 m、深さ 0.67 m。平面形は長方形で、柱痕を確認した。

遺物 土師器、須恵器が出土した。土師器、須恵器ともに坏などが含まれる。

P-324 (第 24・59 図、表 24)

重複関係 SK-123 → P-324

規模・形態・構造 直径 0.5 ～ 0.6 m、深さ 0.3 m。平面形は円形である。

遺物 土師器が出土した。土師器は坏などが含まれる。

P-327 (第 23・59 図、表 24)

重複関係 SD-047・072 → P-327

規模・形態・構造 直径 0.6 ～ 0.7 m、深さ 0.7 m。平面形は円形で、柱痕を確認した。

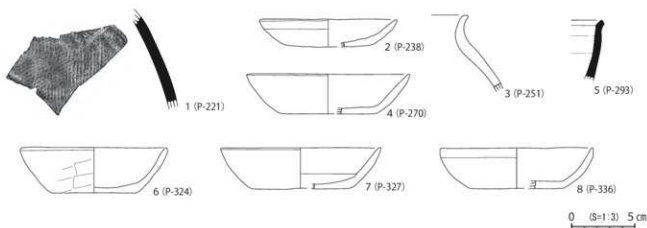
遺物 土師器が出土した。土師器は坏などが含まれる。

P-336 (第 30・59 図、表 24)

重複関係 なし

規模・形態・構造 直径 0.4 m、深さ 0.2 m。平面形は円形である。

遺物 土師器が出土した。土師器は坏などが含まれる。



第 59 図 D区ピット出土遺物実測図

NO	遺物・種類	遺存率	大きさ (cm, g)	特徴	構成	色調	出土
1	褐色器片 P-221	破断片		内面ヘラケズリ、外面平行リナケ。	中や中良	内面灰白色、外面 灰色	砂粒
2	土師器片 P-238	口縁部～底部 1/4	口 (径) 10.9 底 (径) 17.2 高 5.2	磨利度して調整不明。	不良	明黄褐色	砂粒、赤色粒、白色粒
3	土師器片(地 P-251)	口縁部片		口縁部コノアテ、内面ヘラケズリ、外面ヘラケズリ。	良好	にがい黄褐色	砂粒、赤黄、小赤
4	土師器片 P-270	口縁部～底部 1/4	口 (径) 12.9 底 (径) 17.4 高 5.1	磨利度して調整不明。	不良	褐色	砂粒、小粒
5	褐色器片 P-293	口縁部～体部片		リナリ成形。	良好	灰色	砂粒、黒色粒
6	土師器片 P-324	口縁部～底部 1/4	口 (径) 11.2 底 (径) 16.7 高 5.3	内面磨利度して調整不明、外面ヘラケズリ。	中や中良	褐色	砂粒、赤色粒、黒色粒
7	土師器片 P-327	口縁部～底部 1/3	口 (径) 12.4 底 (径) 17.4 高 5.2	磨利度して調整不明。	不良	褐色	砂粒、小粒
8	土師器片 P-336	口縁部～底部 1/4	口 (径) 11.9 底 (径) 17.7 高 5.2	内面アテ、外面磨利度して調整不明。	中や中良	褐色	砂粒、白色粒

表 24 D区ピット出土遺物観察表

その他のピットは、一覧表にまとめた。

透検	基準関係	規模	平断面	柱線の有無	出土遺物	備考
P-167	なし	直径0.8×0.9m、深さ0.20m	円形	有	土師器の片を含む、硬土層	第22区
P-168	なし	直径0.6m、初期0.5m、深さ0.4m	楕円形	無	土師器	第22区
P-169	なし	直径0.5m、深さ0.32m	円形	有	なし	第22区
P-170	なし	直径0.5m、深さ0.40m	不整形円形	有	土師器	第22区
P-171	なし	直径0.6m、深さ0.21m	円形	無	土師器	第22区
P-172	なし	直径1.05m、初期0.7m、深さ0.21m	楕円形	無	土師器	第22区
P-173	なし	一回0.4×0.5m、深さ0.44m	方形	無	なし	第22区
P-174	なし	直径0.9m、初期0.6m、深さ0.32m	楕円形	無	土師器	第22区
P-175	なし	一回0.65×0.7m、深さ0.30m	方形	無	土師器の片を含む、軟土層	第22区
P-176	なし	直径0.8×0.9m、深さ0.30m	円形	有	土師器の片、硬土層の裏を含む、軟土層	第22区
P-177	なし	直径0.7m、深さ0.35m	円形	無	なし	第22区
P-178	なし	直径0.35×0.6m、深さ0.50m	円形	無	土師器	第22区
P-179	なし	輪山部分の直径0.7m、深さ0.40m	円形	有	なし	第22区
P-180	なし	直径0.9m、初期0.63m、深さ0.44m	楕円形	有	なし	第22区
P-181	なし	直径0.7m、初期0.6m、深さ0.27m	楕円形	無	なし	第22区
P-182	なし	直径0.45×0.5m、深さ0.30m	不整形円形	無	なし	第22区
P-183	なし	直径0.5×0.6m、深さ0.25m	円形	有	なし	第22区
P-184	なし	直径0.5×0.6m、深さ0.3m	円形	無	土師器、硬土層	第22区
P-185	なし	直径0.6m、初期0.5m、深さ0.27m	楕円形	有	土師器、硬土層、軟土層	第22区
P-186	SP-096→P-186	直径1.3m、初期0.7m、深さ0.60m	長方形	無	土師器	第22区
P-187	なし	直径0.65m、初期0.65m、深さ0.47	長方形	無	なし	第22区
P-188	なし	直径0.35×0.45m、深さ0.35m	円形	有	土師器	第22区
P-189	なし	直径0.5m、深さ0.35m	円形	有	なし	第22区
P-190	なし	一回1.15m、深さ0.37m	方形	無	土師器の片、硬土層の裏を含む、軟土層、軟土層	第22区
P-191	なし	直径0.4m、深さ0.20m	円形	無	土師器	第22区
P-192	なし	直径0.9m、初期0.55m、深さ0.4m	楕円形	無	なし	第22区
P-193	なし	直径1.0m、深さ0.25m	円形	無	土師器、硬土層の裏を含む	第22区
P-194	なし	直径0.75m、初期0.6m、深さ0.48m	楕円形	有	なし	第22区
P-195	なし	一回0.65×0.75m、深さ0.45m	方形	無	土師器	第22区
P-196	なし	直径0.55m、初期0.3m、深さ0.3m	楕円形	無	土師器	第22区
P-197	なし	直径0.6m、初期0.3m、深さ0.30m	楕円形	有	土師器	第22区
P-198	SP-056→P-198	直径0.5×0.55m、深さ0.52m	円形	無	土師器	第22区
P-199	SP-047→P-199	直径0.6m、初期0.6m、深さ0.30m	楕円形	有	土師器	第22区
P-200	なし	一回0.7m、深さ0.2m	方形	有	土師器の片を含む、硬土層	第22区
P-201	なし	輪山部分の直径0.6m、深さ0.38m	円形	無	なし	第22区
P-202	なし	直径0.75×0.8m、深さ0.35m	不整形円形	無	なし	第22区
P-203	なし	直径0.35×0.6m、深さ0.35m	円形	無	なし	第22区
P-204	なし	直径0.55m、深さ0.61m	円形	無	土師器	第22区
P-205	なし	直径0.4m、初期0.6m、深さ0.31m	楕円形	無	硬土層の裏を含む	第22区
P-206	なし	直径0.35×0.45m、深さ0.45m	円形	有	土師器	第22区
P-207	なし	直径0.5×0.55m、深さ0.35m	円形	無	土師器	第22区
P-208	なし	直径0.35×0.45m、深さ0.46m	円形	無	なし	第22区
P-209	SP-048→P-209	直径0.35×0.39m、深さ0.39m	円形	無	土師器、陶器	第22区
P-210	なし	直径0.4m、深さ0.4m	円形	有	なし	第22区
P-211	P-211→SP-042	直径1.0m、輪山部分の初期0.4m、深さ0.20m	楕円形	有	なし	第22区
P-212	なし	直径1.0m、初期0.8m、深さ0.50m	長方形	有	土師器の片を含む、硬土層、軟土層	第22区
P-213	SP-074→P-213	直径1.0m、初期0.7m、深さ0.2m	楕円形	有	土師器、軟土層	第22区
P-214	P-214→P-215	直径0.6m、輪山部分の初期0.4m、深さ0.22m	楕円形	無	土師器	第22区
P-215	P-214→P-215	直径0.6m、初期0.5m、深さ0.41m	楕円形	有	なし	第22区
P-216	なし	直径0.7m、深さ0.30m	円形	無	なし	第22区
P-217	なし	直径1.0m、初期0.8m、深さ0.30m	楕円形	有	なし	第22区
P-218	SP-047→P-218	直径0.7×0.6m、深さ0.31m	円形	無	土師器	第22区
P-219	SP-052→P-219	直径0.6m、深さ0.30m	円形	有	土師器	第22区
P-220	なし	直径0.35×0.44m、深さ0.2m	円形	無	なし	第22区
P-222	なし	直径0.75m、初期0.6m、深さ0.33m	長方形	無	土師器	第22区
P-223	なし	直径0.7m、深さ0.31m	円形	無	なし	第22区
P-224	SP-043→P-224	直径0.9m、深さ0.4m	円形	無	土師器、硬土層の裏を含む	第22区
P-225	なし	直径0.7m、深さ0.2m	円形	無	なし	第22区
P-226	SP-047→P-226	直径0.4m、深さ0.27m	円形	無	硬土層	第22区
P-227	なし	一回0.6m、深さ0.40m	方形	有	土師器	第22区
P-228	SP-047→P-228→SP-042→SP-052	輪山部分の直径0.8m、深さ0.50m	円形	有	土師器の片を含む、軟土層	第22区
P-229	SP-051→P-229	一回0.6m、深さ0.4m	方形	無	土師器の片を含む	第22区
P-230	なし	直径0.3×0.4m、深さ0.11m	円形	無	土師器	第22区
P-231	SP-051→P-231	直径0.6m、深さ0.26m	円形	無	土師器	第22区
P-232	なし	直径0.7×0.75m、深さ0.46m	円形	無	土師器の裏を含む	第22区
P-233	SP-043→P-233	直径0.6m、初期0.4m、深さ0.22m	長方形	無	土師器	第22区

表 25 D区ピット観察表(1)

P-234	なし		一回0.3~0.6m、深さ0.34m	方形	無	なし	第22段
P-235	SD-049 → P-235		長軸0.8m、短軸0.55m、深さ0.2m	楕円形	有	なし	第22段
P-236	SD-047・049 → P-236		長軸1.0m、短軸0.8m、深さ0.2m	長方形	有	上照器	第22段
P-237	なし		一回0.5m、深さ0.2m	方形	無	上照器	第22段
P-241	P-242 → P-241		直径0.7~0.75m、深さ0.22m	円形	無	上照器	第23段
P-242	SD-052 → P-242 → P-241		輸出部分の直径0.8m、深さ0.6m	円形	有	上照器の横を食む	第23段
P-243	SD-052、P-241 → P-243		直径0.95m、深さ0.41m	円形	有	上照器の横を食む、電池器	第23段
P-244	SD-052 → P-244 → P-243		一回0.95m、深さ0.34m	方形	有	上照器	第23段
P-246	SD-052 → P-246		直径0.5m、深さ0.28m	円形	無	上照器	第22段
P-247	SD-052 → P-247		直径0.35~0.4m、深さ0.16m	円形	無	なし	第22段
P-248	なし		直径0.45~0.4m、深さ0.24m	円形	無	なし	第22段
P-249	SD-049 → P-249		一回0.8~0.65m、深さ0.38m	方形	有	上照器	第23段
P-250	なし		長軸1.1m、短軸0.7m、深さ0.3m	長方形	有	上照器	第23段
P-252	なし		輸出部分の直径0.8m、深さ0.36m	円形	有	上照器の横を食む、口のP 10g	第23段
P-253	なし		直径0.3~0.35m、深さ0.2m	円形	無	上照器	第23段
P-254	なし		輸出部分の直径0.8m、深さ0.32m	円形	有	上照器、電池器	第23段
P-255	なし		輸出部分の一回0.8m、深さ0.36m	方形	有	上照器	第23段
P-256	SD-057 → P-256		一回0.75m、深さ0.27m	方形	無	なし	第23段
P-257	SD-052 → P-257		長軸0.95m、短軸0.3m、深さ0.19m	楕円形	無	上照器	第23段
P-258	なし		一回0.8m、深さ0.29m	多角な方形	無	上照器の横、電池器の横を食む	第23段
P-259	なし		長軸0.9m、短軸0.7m、深さ0.32m	長方形	有	なし	第23段
P-260	SD-052 → P-260		輸出部分の長軸0.9m、短軸0.65m、深さ0.37m	楕円形	無	なし	第23段
P-261	SD-051 → P-261		輸出部分の長軸0.7m、短軸0.55m、深さ0.22m	楕円形	無	上照器	第23段
P-262	なし		直径0.6m、深さ0.46m	多角な円形	無	上照器	第23段
P-263	SD-049 → P-263		長軸1.0m、短軸0.7m、深さ0.34m	長方形	無	上照器、電池器	第23段
P-264	なし		長軸1.1m、短軸0.8m、深さ0.25m	楕円形	無	なし	第23段
P-265	SD-047・049 → P-265		直径0.45~0.39m、深さ0.32m	円形	無	上照器の横を食む、鉄屑16g	第23・25段
P-266	P-267 → P-266		長軸0.9m、短軸0.8m、深さ0.6m	楕円形	有	上照器、鉄屑14g	第23段
P-267	P-267 → P-266		長軸1.0m、輸出部分の短軸0.6m、深さ0.38m	楕円形	無	上照器	第23段
P-268	SD-052 → P-268		直径0.6~0.65m、深さ0.25m	円形	無	なし	第23段
P-269	なし		長軸0.8m、短軸0.65m、深さ0.3m	楕円形	有	なし	第23段
P-271	SD-057 → P-271		長軸1.0m、短軸0.55m、深さ0.38m	長方形	有	上照器の横を食む	第23・25段
P-272	SD-061 → P-272 → SD-060		輸出部分の長軸1.2m、短軸0.7m、深さ0.19m	楕円形	無	上照器、電池器	第23段
P-273	SD-056 → P-273		直径0.6~0.65m、深さ0.36m	円形	無	上照器、鉄屑7g	第24段
P-274	なし		直径0.35m、深さ0.1m	円形	無	上照器の横を食む、電池器、鉄屑26g	第23段
P-275	SD-061 → P-275		直径0.45~0.39m、深さ0.3m	円形	無	上照器	第24段
P-276	SD-061 → P-276		直径0.55m、深さ0.2m	円形	無	上照器	第24段
P-277	SD-043 → P-277		長軸0.9m、深さ0.63m	長方形	無	上照器、電池器の横を食む、鉄屑95g	第24段
P-278	なし		直径0.4~0.45m、深さ0.29m	円形	無	上照器、電池器	第24段
P-279	なし		一回0.65m、深さ0.19m	方形	無	上照器	第24段
P-280	なし		長軸0.8m、短軸0.5m、深さ0.34m	長方形	有	上照器の横を食む	第24段
P-281	なし		輸出部分の直径0.8m、深さ0.66m	円形	有	なし	第24段
P-282	なし		長軸0.9m、短軸0.8m、深さ0.36m	多角な楕円形	無	上照器、電池器	第24段
P-283	なし		一回0.9m、深さ0.3m	多角な方形	無	上照器の横、電池器の横を食む	第24段
P-284	なし		直径0.45m、深さ0.2m	円形	無	なし	第24段
P-295	なし		直径0.4~0.5m、深さ0.11m	円形	無	上照器	第24段
P-296	なし		直径0.65m、深さ0.14m	多角な円形	無	上照器	第24段
P-299	P-299 → P-293		長軸0.9m、短軸0.7m、深さ0.32m	長方形	無	なし	第24段
P-300	なし		長軸1.0m、短軸0.7m、深さ0.32m	長方形	有	上照器、電池器、口のP 12g	第24段
P-301	なし		長軸0.85m、短軸0.5m、深さ0.19m	長方形	無	なし	第24段
P-302	SD-068 → SD-070 → P-302		直径0.45~0.5m、深さ0.22m	円形	無	上照器の横を食む	第24段
P-303	なし		一回0.7m、深さ0.55m	方形	有	上照器の横を食む、鉄屑43g	第24段
P-304	なし		輸出部分の一回0.95m、深さ0.26m	方形	無	上照器	第24段
P-305	SD-062 → P-305		直径0.3~0.6m、深さ0.20m	円形	無	上照器	第24段
P-306	SD-062 → P-306		直径0.4~0.45m、深さ0.49m	円形	無	なし	第24段
P-307	SD-062 → P-307		直径0.6m、深さ0.61m	円形	無	上照器	第24段
P-308	なし		直径0.2~0.25m、深さ0.28m	円形	有	なし	第24段
P-309	なし		直径0.4m、深さ0.2m	円形	無	なし	第24段
P-310	なし		直径0.6m、深さ0.28m	円形	無	なし	第24段
P-311	なし		一回0.4~0.45m、深さ0.38m	方形	有	なし	第24段
P-312	なし		直径0.5m、深さ0.1m	円形	有	なし	第24段
P-313	P-313 → SD-107		輸出部分の直径0.5m、深さ0.36m	円形	無	なし	第24段
P-314	なし		一回0.6m、深さ0.52m	方形	有	なし	第24段
P-315	SD-112 → P-315		直径0.6m、深さ0.6m	円形	有	なし	第24段
P-316	なし		直径0.9m、深さ0.3m	円形	無	上照器	第24段
P-317	なし		直径0.5m、深さ0.18m	円形	無	上照器	第24段
P-318	SD-060 → P-318		直径0.65~0.71m、深さ0.55m	多角な円形	無	上照器	第24段

表 25 D区ビット観察表(2)

P-219	SD-113 → P-219	直径 0.25 m、深さ 0.14 m	円形	無	土師器	第 24 区
P-220	なし	→SD-05 → 0.7 m、深さ 0.28 m	方形	無	なし	第 29 区
P-221	なし	長軸 0.9 m、短軸 0.5 m、深さ 0.22 m	不整形楕円形	有	土師器	第 28 区
P-222	なし	長軸 0.4 m、深さ 0.1 m、深さ 0.12 m	楕円形	無	土師器	第 28 区
P-223	SD-073 → P-223	直径 0.7 m、深さ 0.20 m	円形	無	土師器、須恵器	第 24 区
P-225	SD-066 → P-225	直径 0.5 m、深さ 0.20 m	円形	無	なし	第 29 区
P-226	SD-066 → P-226	直径 0.5 m、深さ 0.32 m	円形	有	なし	第 29 区
P-228	なし	長軸 0.3 m、短軸 0.27 m、深さ 0.19 m	楕円形	無	なし	第 28 区
P-229	なし	直径 0.3 m、深さ 0.42 m	円形	無	土師器	第 29 区
P-230	SD-063 → P-230	直径 0.3 m、深さ 0.15 m	円形	無	土師器	第 29 区
P-231	SD-063 → P-231	直径 0.3 m、深さ 0.17 m	円形	無	なし	第 29 区
P-232	SD-046 → P-232	長軸 0.45 m、短軸 0.7 m、深さ 0.45 m	楕円形	有	なし	第 24 区
P-233	なし	直径 0.6 → 0.7 m、深さ 0.41 m	円形	無	土師器	第 30 区
P-234	なし	直径 0.6 m、深さ 0.4 m	円形	無	土師器の碎片を含む	第 30 区
P-235	なし	直径 0.45 → 0.7 m、深さ 0.22 m	不整形円形	無	土師器、須恵器	第 30 区
P-237	なし	長軸 0.7 m、短軸 0.5 m、深さ 0.43 m	不整形長方形	無	土師器の碎、須恵器の碎を含む	第 30 区
P-238	なし	直径 0.9 → 1.0 m、深さ 0.3 m	円形	無	土師器	第 30 区
P-239	なし	長軸 0.9 m、短軸 0.55 m、深さ 0.29 m	楕円形	無	なし	第 30 区
P-240	SD-076 → P-240	→SD-06 → 0.7 m、深さ 0.23 m	方形	無	土師器、須恵器	第 30 区
P-241	SD-077 → P-241	長軸 0.6 m、短軸 0.6 m、深さ 0.2 m	楕円形	無	土師器	第 30 区
P-242	SD-077 → P-242	長軸 0.9 m、短軸 0.6 m、深さ 0.36 m	楕円形	無	なし	第 30 区
P-243	SD-077 → P-243 → P-241	検出部分の→SD-05 m、深さ 0.1 m	方形	無	なし	第 30 区
P-244	SD-077 → P-243 → P-241	長軸 1.0 m、短軸 0.8 m、深さ 0.2 m	長方形	無	なし	第 30 区
P-245	SD-076 → P-245	直径 0.55 → 0.6 m、深さ 0.17 m	円形	有	土師器、須恵器	第 30 区
P-246	SD-076 → P-246	直径 0.3 m、深さ 0.13 m	円形	無	なし	第 30 区
P-247	なし	直径 0.3 m、深さ 0.2 m	円形	無	土師器	第 30 区
P-248	なし	長軸 0.5 m、短軸 0.3 m、深さ 0.71 m	楕円形	有	なし	第 30 区

表 25 D区ピット観察表 (3)

6 E区 (第 60 ~ 64 図、表 26 ~ 29)

溝跡

SD-026 (第 60・63 図)

重複関係 なし

規模・形態・構造 幅 0.7 ~ 1.4 m、深さ 0.57 ~ 0.61 m、検出部分の長さは 41.0 m。南東-北西方向に走り、南西方向へ直角に曲がる溝で、断面形は逆台形状である。

遺物 土師器、須恵器が出土した。小片のため図示し得るものはない。

SD-027 (第 60・63 図)

重複関係 なし

規模・形態・構造 幅 0.7 ~ 1.1 m、深さ 0.88 m、検出部分の長さは 6.1 m。南東-北西方向に走る溝で、断面形は逆台形状である。

SD-028 (第 60 図)

重複関係 なし

規模・形態・構造 幅 0.9 ~ 1.1 m、深さ 0.38 m、検出部分の長さは 2.4 m。南東-北西方向に弧状に走る溝で、断面形は逆台形状である。

SD-029 (第 62・63 図)

重複関係 SD-029 → P-142

規模・形態・構造 幅 0.4 ~ 0.6 m、深さ 0.78 m、検出部分の長さは 31.4 m。南東-北西方向に走る溝

で、断面形は箱状である。

遺物 土師器が出土した。小片のため図示し得るものはない。

SD-030 (第 60・62・63 図)

重複関係 SD-034・041、P-140 → SD-030 → SK-061・062・065、P-165・166

規模・形態・構造 幅 0.7～2.3 m、深さ 0.87～1.0 m、検出部分の長さは 81.7 m。南東-北西方向に走る溝で、東側は両側にテラスをもつ形状で、底面は平坦、断面形は北西側は逆台形状である。

遺物 土師器が出土した。土師器の甕などが含まれるが、小片のため図示し得るものはない。

SD-031 (第 62・63 図)

重複関係 なし

規模・形態・構造 幅 0.6～0.8 m、深さ 0.67 m、検出部分の長さは 26.1 m。南東-北西方向に走る溝で、断面形は逆台形状である。

遺物 土師器、陶器が出土した。

SD-032 (第 60・63 図)

重複関係 SD-032 → SK-052

規模・形態・構造 幅 0.7～0.9 m、深さ 0.25～0.28 m、検出部分の長さは 12.4 m。南東-西方向に弧状に走る溝で、断面形は皿状である。

遺物 土師器、須恵器が出土した。須恵器は甕などが含まれるが、小片のため図示し得るものはない。

SD-033 (第 60・63 図)

重複関係 なし

規模・形態・構造 幅 0.7 m、深さ 0.16～0.23 m、検出部分の長さは 15.2 m。南東-西方向に弧状に走る溝で、断面形は逆台形状である。

遺物 土師器、陶器が出土した。

SD-034 (第 60・61・63 図、表 26)

重複関係 SD-034 → SD-041 → SD-030 → SK-065、P-152

規模・形態・構造 幅 1.8～2.2 m、深さ 0.8 m、検出部分の長さは 40.4 m。南東-北西方向に走る溝で、両側にテラスをもち、底面は平坦である。

遺物 土師器 16,989g、須恵器、鉄滓 167g が出土した。土師器は環・高環・甕、須恵器は蓋などが含まれる。土師器は環が最も多い。

SD-036 (第 60・63 図)

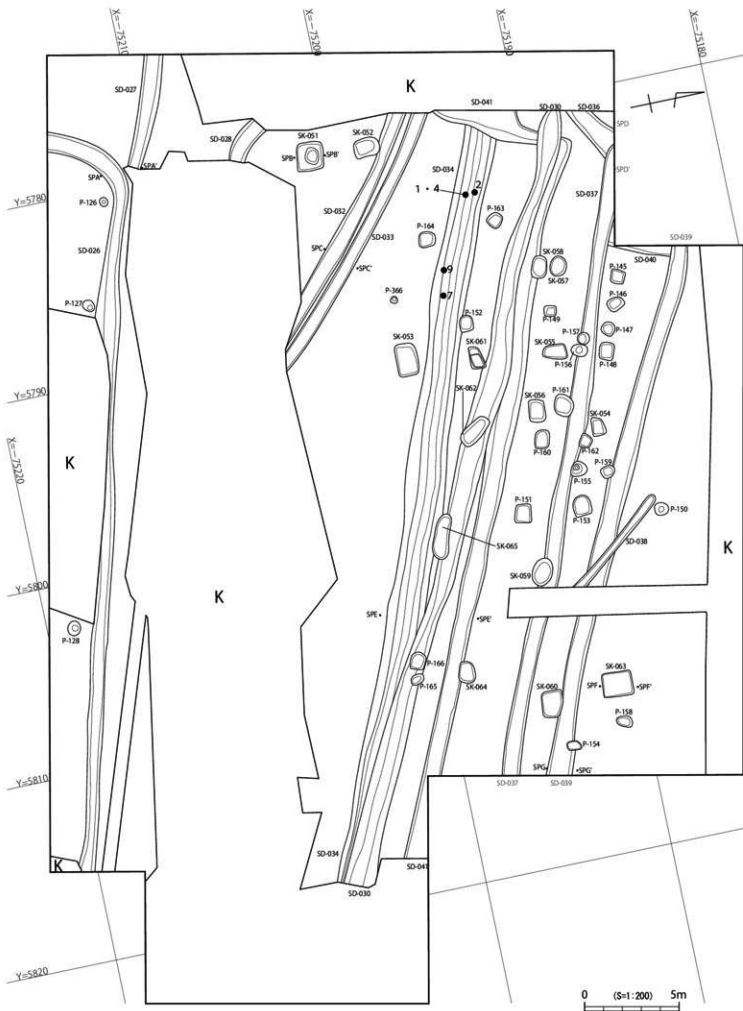
重複関係 SD-036 → SD-037

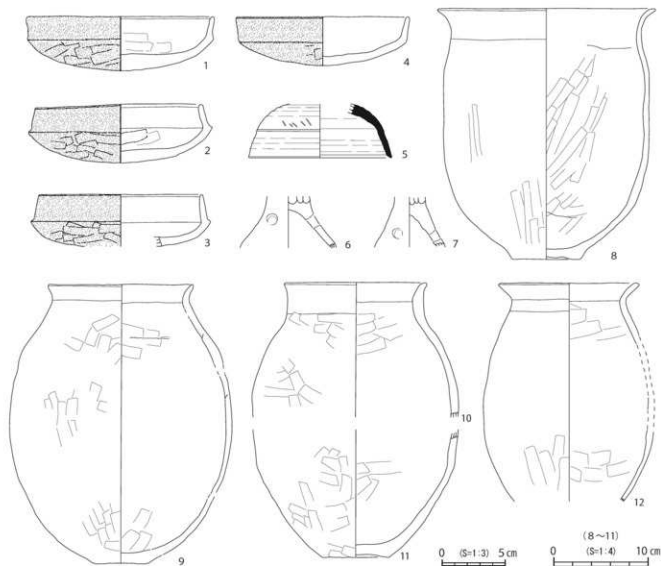
規模・形態・構造 幅 1.1～1.4 m、深さ 0.65 m、検出部分の長さは 2.8 m。南西-北東方向に走る溝で、断面形は逆台形状である。

遺物 土師器が出土した。土師器は甕などが含まれるが、小片のため図示し得るものはない。

SD-037 (第 60・64 図、表 29)

重複関係 SD-036 → SD-037 → SK-059、P-155～157・161・162

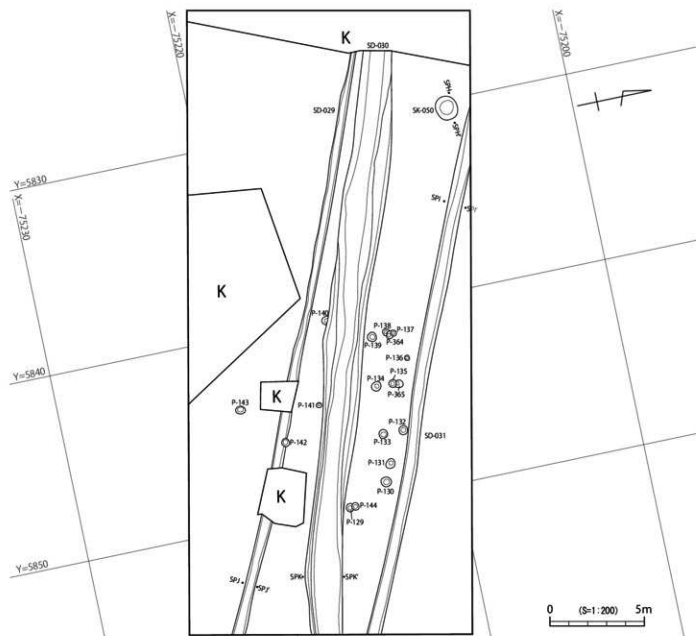




第 61 図 SD-034 出土遺物実測図

No	器種・種類	遺存部	大きさ (mm, g)	特徴	構成	色調	胎土
1	土師器片	口縁欠部	口 14.9 高 4.7	内面ヘラケテ、外面ヘラケテテ。内外面ともに赤黒。	土封	灰黄色、赤黒部分 赤色	赤黒、黒赤黒、赤黄
2	土師器片	口縁欠部	口 13.1 高 4.0	内面ヘラケテ、外面ヘラケテテ。内外面ともに赤黒。	土封	灰黄色、赤黒部分 赤色	赤黒、赤黄、赤色胎
3	土師器片	口縁	口 幅 112.9 高 4.0	内面ヘラケテ、外面ヘラケテテ。内外面ともに赤黒胎。	土封	紅い・淡褐色	胎い・赤色胎
4	土師器片	口縁	口 幅 113.3 高 3.9	内面ヘラケテ、外面ヘラケテテ。内外面ともに赤黒。	中・土封	灰黄色	赤黒、赤色胎
5	赤糸織片	体部～口縁部 1/3	口 幅 113.2 高 14.3	口口の成形、唇部は口縁上長押し付け。	土封	褐色	赤黒、中黒
6	土師器片	胴部 1/4	高 14.9	原料産しC調整不明、約9mmの孔が3箇所に確認できる。	不封	褐色	赤黒、中黒
7	土師器片	胴部 1/2	高 13.9	原料産しC調整不明、約7mmの孔が4箇所に確認できる。	不封	褐色	赤色胎、赤黒
8	土師器物	口縁部～胴部 1/4	口 幅 123.9 高 17.3 底 26.3	内外面ともにヘラケテテ。外面一部磨耗。	中・土封	紅い・淡褐色	赤黒、赤色胎、中黒
9	土師器物	口縁部～胴部 1/3	口 幅 14.9 高 5.9 底 126.8	内面ヨリ外面ヘラケテテ、外面ヘラケテテ。	中・土封	明赤褐色	赤黒、赤赤
10	土師器物	口縁部～胴部 1/4	口 幅 114.7 高 114.1	内外面ともにヘラケテテ。	中・土封	灰黄色	胎い・赤色胎、中黒
11	土師器物	胴部～底部 1/3	高 17.3 底 113.4	内面ヘラケテテ、外面ヘラケテテ。	土封	灰黄色	胎い・赤色胎、中赤
12	土師器物	口縁部～底部 1/4	口 幅 114.5 底 33.0	内面ヘラケテテ、外面ヘラケテテ。	土封	紅い・淡褐色	赤黒、赤色胎

表 26 SD-034 出土遺物観察表



第 62 図 E区遺構平面図 (2)

規模・形態・構造 幅 0.8～1.1 m、深さ 0.37～0.7 m、検出部分の長さは 33.6 m。南東―北西方向に走る溝で、断面形は逆台形状である。

遺物 土師器、須恵器、羽口片 110g が出土した。土師器は坏・甕、須恵器は坏・壺などが含まれる。

SD-038 (第 60 図)

重複関係 SD-039 → SD-038

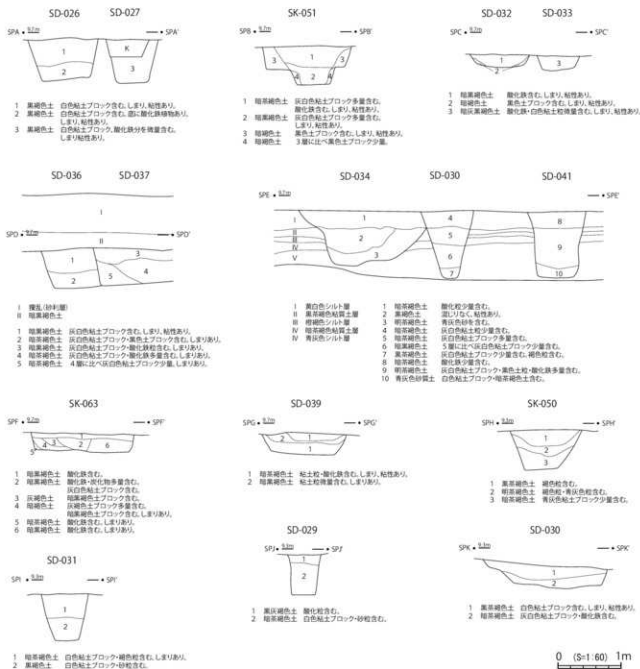
規模・形態・構造 幅 0.5 m、深さ 0.17 m、検出部分の長さは 6.3 m。南東―北西方向に走る溝で、断面形は逆台形状である。

遺物 土師器が出土した。小片のため図示し得るものはない。

SD-039 (第 60・63・64 図、表 29)

重複関係 SD-014・022・017・021・025、SK-154 → SD-015

規模・形態・構造 幅 0.8～1.1 m、深さ 0.25～0.7 m、検出部分の長さは 29.0 m。南東―北西方向に走る溝で、断面形は逆台形状である。



第 63 図 E区遺構断面図

遺物 土師器、須恵器が出土した。土師器は坏・高坏・甕、須恵器は坏などが含まれる。

SD-040 (第 60 図)

重複関係 SD-040 → SD-037・039

規模・形態・構造 検出部分の幅 1.0 m、深さ 0.83 m、検出部分の長さは 3.4 m。南西-北東方向に走る溝で、断面形は逆台形状である。

遺物 土師器が出土した。土師器は甕などが含まれるが、小片のため図示し得るものはない。

SD-041 (第 60・63 図)

重複関係 SD-034 → SD-041 → SD-030 → SK-058・064

規模・形態・構造 幅 1.0 ~ 1.5 m、深さ 0.7 ~ 0.82 m、検出部分の長さは 45.2 m。南東-北西方向へ

走り、西方向に直角に曲がる溝で、断面形は逆台形状である。

遺物 土師器、鉄滓 27g が出土した。

土坑

SK-051 (第 60・63・64 図、表 29)

重複関係 なし

規模・形態・構造 一辺 1.4～1.5 m、深さ 0.38 m。平面形は方形で、断面形は箱状で底面にビット状の掘り込みをもつ。

遺物 土師器が出土した。土師器は坏などが含まれる。

SK-058 (第 60・64 図、表 29)

重複関係 SD-041 → SK-058

規模・形態・構造 長軸 1.1 m、短軸 0.9 m、深さ 0.27 m。平面形は楕円形で、断面形はU字状である。

遺物 土師器、須恵器が出土した。須恵器は甕などが含まれる。

その他土坑

下記のとおり一覧表にまとめた。

遺構	重複関係	規模・特徴	平面形	断面形	出土遺物	備考
SK-050	なし	直径 1.2～1.3 m、深さ 0.45 m	円形	U字状	土師器の坏を含む	第 62 図
SK-052	SD-032 → SK-052	長軸 1.4 m、短軸 1.0 m、深さ 0.47 m	長方形	逆台形	土師器、須恵器	第 60 図
SK-053	なし	長軸 1.7 m、短軸 1.2 m、深さ 0.7 m	長方形	箱状	なし	第 60 図
SK-054	なし	長軸 1.0 m、短軸 0.7 m、深さ 0.38 m	長方形	逆台形	土師器の坏を含む、鉄滓 3g	第 60 図
SK-055	なし	長軸 1.3 m、短軸 0.8 m、深さ 0.33 m	長方形	U字状	土師器の甕を含む	第 60 図
SK-056	なし	長軸 1.2 m、短軸 0.9 m、深さ 0.4 m	長方形	逆台形	土師器の甕を含む、須恵器	第 60 図
SK-057	なし	長軸 1.1 m、短軸 0.9 m、深さ 0.28 m	楕円形	逆台形	土師器	第 60 図
SK-059	SD-027 → SK-059	長軸 1.5 m、短軸 1.1 m、深さ 0.33 m	楕円形	U字状	土師器の坏を含む	第 60 図
SK-060	SD-030 → SK-060	長軸 1.4 m、短軸 1.2 m、深さ 0.3 m	4角な長方形	箱状	土師器、釘口片 43.4g、鉄滓 3g	第 60 図
SK-061	SD-030 → SK-061	長軸 1.2 m、短軸 0.7 m、深さ 0.6 m、西側にナラスをもつ	長方形	逆台形	土師器、須恵器	第 60 図
SK-062	SD-030 → SK-062	長軸 1.9 m、短軸 0.9 m、深さ 0.63 m	楕円形	逆台形	土師器	第 60 図
SK-063	なし	長軸 1.1 m、短軸 0.8 m、深さ 0.33 m	長方形	箱状	土師器、鉄口片 4g、釘口片 2g	第 60・63 図
SK-064	SD-041 → SK-064	長軸 1.1 m、短軸 0.9 m、深さ 0.4 m	楕円形	逆台形	なし	第 60 図
SK-065	SD-034 → SD-030 → SK-065	長軸 1.8 m、短軸 0.8 m、深さ 0.35 m	楕円形	U字状	土師器	第 60 図

表 27 E区土坑観察表

ビット

平面から掘立柱建物跡の組み合わせを検したが、組み合わせるものはなかった。

P-162 (第 60・64 図、表 29)

重複関係 SD-037 → P-162

規模・形態・構造 一辺 0.6～0.7 m、深さ 0.32 m。平面形は方形である。

遺物 土師器、須恵器が出土した。土師器は甕、須恵器は坏などが含まれる。

P-163 (第 60・64 図、表 29)

重複関係 なし

規模・形態・構造 一辺 0.7～0.9 m、深さ 0.3 m。平面形は方形である。

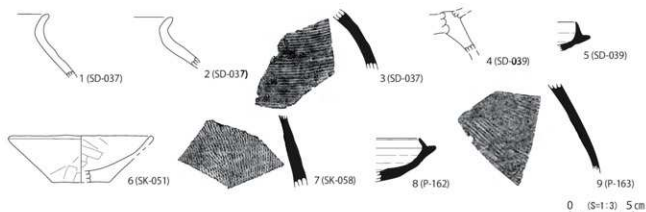
遺物 土師器、須恵器、鉄滓 3g が出土した。須恵器は甕などが含まれる。

その他のピット

一覧表にまとめた。

遺構	遺構関係	規模	平面形	前後の有無	出土遺物	備考
P-126	なし	長さ 0.7 m、深さ 0.27 m	円形	無	土師器	第 60 区
P-127	なし	長さ 0.7 m、短軸 0.6 m、深さ 0.42 m	楕円形	無	土師器、須恵器の底台打穿、鉄押 びり	第 60 区
P-128	なし	長軸 0.8 m、短軸 0.7 m、深さ 0.3 m	楕円形	無	土師器、須恵器	第 60 区
P-129	P-129 → P-144	長軸 0.7 m、幅山部分の短軸 0.4 m、深さ 0.27 m	楕円形	無	なし	第 62 区
P-130	なし	長さ 0.7 m、深さ 0.25 m	円形	無	土師器、須恵器	第 62 区
P-131	なし	長さ 0.5 ~ 0.55 m、深さ 0.2 m	不整形円形	無	なし	第 62 区
P-132	なし	長さ 0.3 m、深さ 0.36 m	円形	無	なし	第 62 区
P-133	なし	長さ 0.45 ~ 0.3 m、深さ 0.2 m	円形	無	なし	第 62 区
P-134	なし	長さ 0.5 ~ 0.55 m、深さ 0.39 m	円形	無	土師器	第 62 区
P-135	P-365 → P-135	長さ 0.45 m、深さ 0.15 m	円形	無	土師器	第 62 区
P-136	なし	長さ 0.7 m、深さ 0.22 m	円形	無	なし	第 62 区
P-137	P-138 → P-364 → P-137	長さ 0.3 m、深さ 0.17 m	円形	無	なし	第 62 区
P-138	P-138 → P-364 → P-137	長軸 0.7 m、幅山部分の短軸 0.3 m、深さ 0.3 m	楕円形	無	なし	第 62 区
P-139	なし	長さ 0.5 m、深さ 0.17 m	円形	無	土師器	第 62 区
P-140	P-140 → SD-039	幅山部分の長さ 0.4 m、深さ 0.19 m	円形	無	土師器	第 62 区
P-141	なし	長さ 0.25 ~ 0.3 m、深さ 0.22 m	円形	無	土師器	第 62 区
P-142	SD-039 → P-142	長さ 0.4 m、深さ 0.4 m	円形	無	なし	第 62 区
P-143	なし	長軸 0.6 m、短軸 0.4 m、深さ 0.53 m	楕円形	無	なし	第 62 区
P-144	P-129 → P-144	長さ 0.3 m、深さ 0.3 m	円形	無	なし	第 62 区
P-145	なし	一辺 0.7 ~ 0.8 m、深さ 0.2 m	方形	無	土師器	第 60 区
P-146	なし	長軸 0.9 m、短軸 0.7 m、深さ 0.23 m	長方形	無	なし	第 60 区
P-147	なし	長さ 0.7 ~ 0.8 m、深さ 0.22 m	円形	無	土師器の片を含む	第 60 区
P-148	なし	長軸 1.0 m、短軸 0.8 m、深さ 0.2 m	長方形	無	土師器の片を含む	第 60 区
P-149	なし	一辺 0.55 ~ 0.7 m、深さ 0.34 m	方形	無	土師器	第 60 区
P-150	なし	長軸 0.9 m、短軸 0.6 m、深さ 0.36 m	楕円形	無	土師器の片を含む、鉄押 6g	第 60 区
P-151	なし	長さ 1.0 m、短軸 0.9 m、深さ 0.27 m	長方形	無	土師器、須恵器	第 60 区
P-152	SD-039 → P-152	長軸 0.9 m、短軸 0.7 m、深さ 0.3 m	長方形	無	土師器の片を含む	第 60 区
P-153	なし	長軸 1.1 m、短軸 0.7 m、深さ 0.3 m	不整形長方形	無	土師器の片を含む、須恵器	第 60 区
P-154	SD-039 → P-154	長く 0.7 m、短軸 0.5 m、深さ 0.22 m	楕円形	無	土師器	第 60 区
P-155	SD-037 → P-155	長さ 0.8 ~ 0.9 m、深さ 0.4 m	不整形円形	有	土師器の片を含む	第 60 区
P-156	SD-037 → P-156	長軸 0.9 m、短軸 0.6 m、深さ 0.5 m	楕円形	無	土師器	第 60 区
P-157	SD-037 → P-157	長さ 0.8 ~ 0.7 m、深さ 0.55 m	円形	無	土師器	第 60 区
P-158	なし	長軸 0.9 m、短軸 0.6 m、深さ 0.39 m	楕円形	無	なし	第 60 区
P-159	SD-038 → P-159	長さ 0.6 ~ 0.7 m、深さ 0.34 m	円形	無	土師器	第 60 区
P-160	なし	長軸 1.0 m、短軸 0.8 m、深さ 0.34 m	長方形	無	土師器、須恵器	第 60 区
P-161	SD-037 → P-162	一辺 1.1 ~ 1.2 m、深さ 0.32	不整形方形	無	土師器、鉄押 9g	第 60 区
P-164	なし	一辺 0.8 ~ 0.9 m、深さ 0.25 m	方形	無	土師器の片を含む	第 60 区
P-165	SD-039 → P-165	長軸 0.9 m、短軸 0.5 m、深さ 0.4 m	楕円形	無	土師器	第 60 区
P-166	SD-030 → P-166	一辺 0.8 ~ 0.9 m、深さ 0.49 m	不整形方形	無	土師器	第 60 区
P-364	P-138 → P-364 → P-137	幅山部分の長軸 0.4 m、短軸 0.3 m、深さ 0.26 m	楕円形	無	なし	第 62 区
P-365	P-365 → P-135	長さ 0.4 m、深さ 0.32 m	円形	無	なし	第 62 区
P-366	なし	長さ 0.4 m、深さ 0.42 m	円形	無	なし	第 60 区

表 28 E区ピット観察表



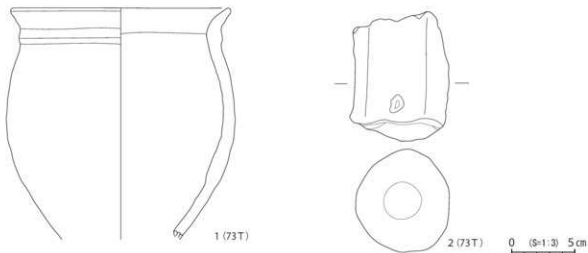
第 64 図 E区出土遺物実測図

№	器種・種類	遺存率	大きさ (mm, g)	特徴	構成	色調	胎土
1	土器器底小壺 器-037	口縁部～胴部		内面ヘラナダ、外面ヘラケズラ。	良好	褐色	小灰、赤灰
2	土器器底小壺 器-037	口縁部～胴部		一部器底割破、外面ナダ。	中～良好	黄褐色	小灰、赤色粒、赤灰
3	褐色器底 器-037	胴部片		コテロ成形、外面ヘケ加工品でナダ。	良好	灰色	細クハ～砂粒
4	土器器底片 器-039	胴部片		膠料産して調整不明。	不良	にがい黄褐色	砂粒、赤色粒
5	褐色器底 器-039	口縁部～体部		コテロ成形。	良好	灰色	砂粒、白色粒
6	土器器底片 器-051	口縁部～器底1/4	口 (径) 11.3 高 (厚) 高 3.7	内面ヘラケズラ、外面ヘラケズラ、上部器底割破。	中～良好	内面一部黄灰色、 外面にのび黄褐色	小灰、赤灰
7	褐色器底 器-059	胴部片		内面あて具傷、外面ヘラケズラ。	良好	灰白色	細クハ～白色粒、小礫
8	褐色器底片 器-162	口縁部～器底片	高 (厚) 13.3	コテロ成形。	良好	灰色	砂粒、小礫
9	褐色器底 器-163	胴部片		外面平行タタキ、自然割け傷。	良好	内面灰白色、外面 オリーブ灰色	細クハ～砂粒

表 29 E区出土遺物観察表

7 その他出土遺物 (第 65 図・表 30)

確認調査で出土した遺物を掲載した。



第 65 図 遺構外出土遺物実測図

№	器種・種類	遺存率	大きさ (mm, g)	特徴	構成	色調	胎土
1	土器器底 73 T	口縁部～器底 4/5	口 17.3 高 (厚) 19.3	膠料産して調整不明。	中～不良	明黄褐色	小灰、砂粒、赤色粒、白色粒、 赤灰
2	鉢口 73 T		最大幅 7.9 高 (厚) 7.3 重 473.2	膠料産して調整不明。	中～不良	褐色	砂粒、白色粒

表 30 遺構外出土遺物観察表

第3章 まとめ

今回の調査区は、従前住宅が建てられており、攪乱の範囲が調査区全体に及んでおり、遺構の全体を把握しにくい部分があった。また、確認調査の結果、調査区南側が微高地上になっており、遺構の広がりを確認した。出土した遺物は、弥生時代から近世までと多岐にわたる。検出した遺構の中心は奈良・平安時代のものである。各時代ごとに以下のとおりまとめる。

1 古墳時代以前

遺構は検出されなかったが、弥生土器片が1点のみ出土した。近接地の上湯江遺跡IVでも縄文時代の遺物が出土している。低地での古墳時代以前の遺跡としては常代遺跡や外箕輪遺跡、郡遺跡などが挙げられる。

2 古墳時代

調査区全体で遺物が出土しているが、遺構は少なく、A・E区で検出したのみである。遺物の多くは、古墳時代後期のものであり、奈良・平安時代の遺物と共存している。上湯江遺跡IVでは、古墳時代の竪穴住居跡などが検出されたため、本調査区でも古墳時代の集落が検出される可能性を念頭に置き、調査を実施した。調査の結果、遺構としてはA区のSD-007・008、SK-023及びE区のSD-034のみの検出であった。

SK-023は鉄滓が多量に出土しており、鉄製作関係の遺構である可能性もある。SD-034で出土した土師器杯は、小糸川左岸の低地遺跡である常代遺跡や郡遺跡で出土したものと類似している。また、常代遺跡では古墳の周溝も調査されている。上湯江遺跡でも古墳の周溝が確認されていることから、遺構の密度は低い近隣の遺跡との共通点も指摘できるのではないだろうか。

3 奈良・平安時代

今回の調査成果の中心は当該期であり、数多くの遺構・遺物を検出した。遺構の種類ごとに特徴的なものについてここで挙げたい。

(1) 竪穴住居跡

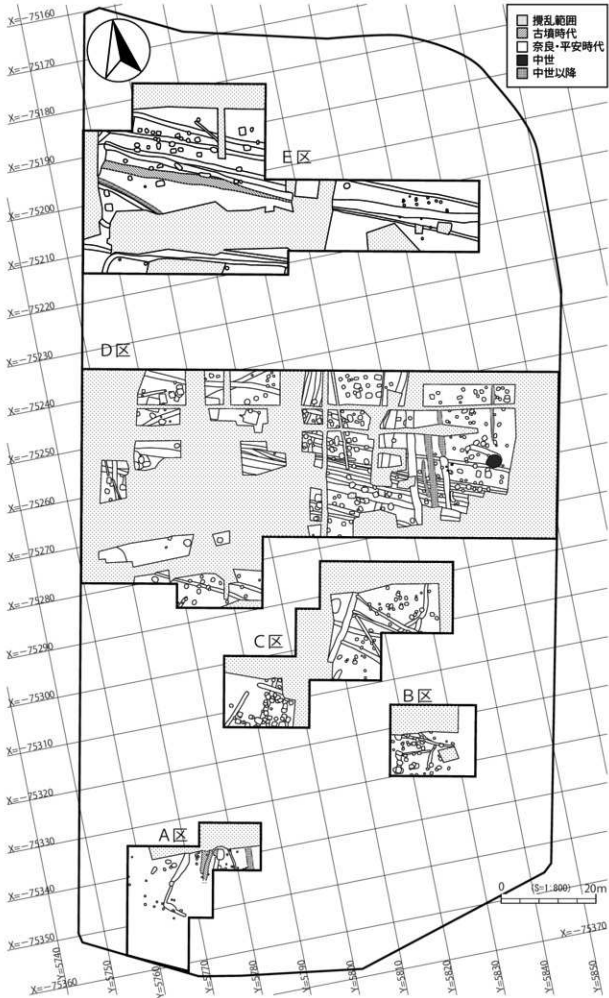
D区で竪穴住居跡3軒を検出した。SI-001では、カマドの一部を確認したが、貯蔵穴や柱穴は確認できなかった。SI-002・003の上部は削平を受けており、詳細は不明である。D区は東西で確認面の高さが異なり、住居跡を検出した周辺は若干高くなっている。上湯江遺跡IV同様、微高地上に住居跡があることがわかった。調査面積に対して検出数が少ないことは、攪乱によって壊されている、もしくは集落が調査区西側に広がっていく可能性も考えられる。

(2) 掘立柱建物跡

調査区全体で柱痕をもつピットを検出したが、組み合うものは、ほとんどなかった。D区でSB-001・002を検出した。いずれも柱痕跡から径0.2～0.3mの柱が想定できる。

(3) 溝跡

調査区全体を通して溝跡が多く検出された。一部、古墳時代や近世の溝跡も含まれるが、ほとんどが奈



第 66 図 調査成果

良・平安時代の溝跡である。南東―北西方向に走る溝が多く、北西方向から南東へ向かって緩やかに下がっていく傾向がある。D区では、調査区全体に溝跡が走っており、1条の長さも長い。断面形は、箱形もしくは逆台形状のものである。溝跡から出土した遺物は、そこまで多くはないが、SD-059からは、8世紀代の土師器皿が出土した。

(4) 土坑

D区では、鉄滓が数多く出土し、酸化鉄の硬化面を確認した。上部をSD-059で削平されているため詳細は不明ではあるが、鉄製作関係遺構であった可能性が高い。また、確認調査の73 Tから出土した羽口片も多数の鉄滓と共伴していることから調査区内もしくは付近に鍛冶遺構があった可能性が高い。SK-107・111は、土層の観察から人為堆積であると考えられることから、土坑墓である可能性もある。

(5) 井戸

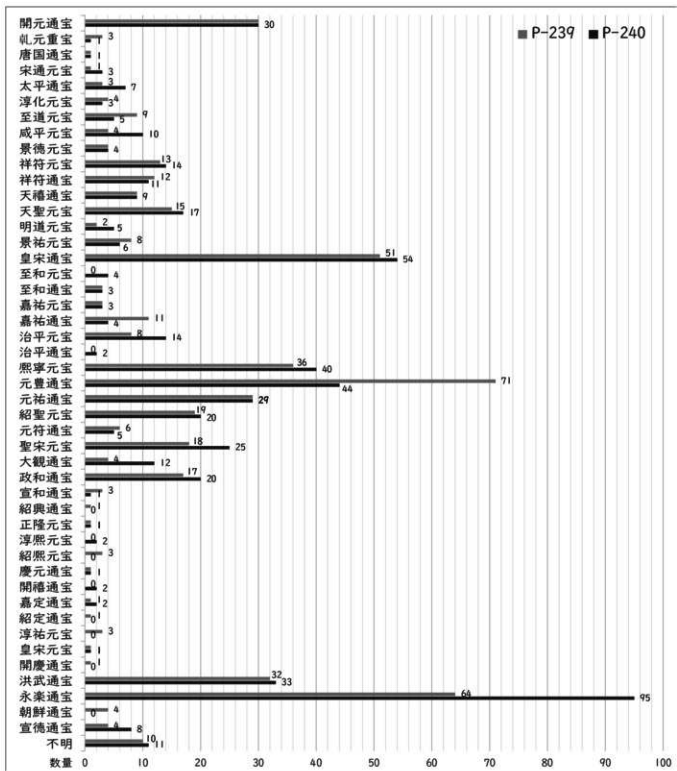
D区で2基の井戸を検出した。SE-003は、方形の木製井戸枠を伴う井戸で、出土した遺物は古墳時代後期から奈良・平安時代のものである。井戸に使用している木材は厚く、重量のあるものであった。組み合わせる際の板材の掘り込みや固定するために板と板との隙間に土器片を使用するなどの構造が見られた。遺物は、墨書土器が複数点出土し、「奉」「内」の2文字を複数点確認した。墨書土器は、上湯江遺跡では初出土である。小片のため図示していないが、上層には、小片の遺物を含む層があり、それを下げて木組みを検出した。井戸の上層では瓦片が出土し、井戸の内部から出土したものは時期幅がある。また、斎申も複数点出土していることからSE-003で何らかの祭祀行為を行っていた可能性が高い。

4 中世

15世紀代の井戸及び古銭が出土したビット3基を検出した。井戸からは常滑の甕や木製の下駄などが出土した。ビットからは、500点以上の古銭が出土した。袖ヶ浦市の文脇遺跡では、大甕に入れた状態で古銭が出土している。今回検出したものは、袋のようなものに入れていたと考えられる。出土した古銭の種類別数量は第67図のとおりである。最も多いものは永楽通宝で、次いで元豊通宝である。2基合わせて全1,086枚だが多数の銭種が含まれていることがわかる。

上湯江遺跡では、近年調査の件数が増加し、調査の度に新たな知見を得てきた。今回の調査でも、新たに奈良・平安時代の木組みの井戸や墨書土器、中世の古銭出土ビットなどを検出した。これまでの調査成果から、上湯江遺跡は古墳時代後期から奈良・平安時代が中心で、その後の中世まで連面と続いていたことがわかっている。上湯江遺跡IVで出土した水滴から識字層の存在を示唆していたが、今回の調査で墨書土器が出土したことにより、官衙や寺院跡などの施設がある可能性が高まった。また、過去の確認調査で龍泉窯の青磁片が出土したことから鎌倉とのつながりが分かっている。時代は異なるが、15世紀代の井戸や永楽通宝などの宋銭が入るビットなどを検出した。

近年の大規模開発によって上湯江遺跡の全貌が明らかになりつつある。遺跡内の微高地上に遺構が広がり、集落や井戸など様々な遺構を検出している。上湯江・貞元地区には「湯坐郷」や「貞元親王」などの伝説が残っている。今回の調査によって識字層の存在は明らかとなり、君津市内でも重要な遺跡のひとつであるといえるだろう。検出しなかった官衙や寺院跡については、今後の調査成果に期待したい。



第 67 図 P-239・240 出土古銭種類別数量

参考文献

- 『永吉台遺跡群』1985 財団法人君津郡市文化財センター
 『常代遺跡群』1996 財団法人君津郡市文化財センター
 『郡遺跡群発掘調査報告書Ⅱ』1996 財団法人君津郡市文化財センター
 鈴木公雄『銭の考古学』2002 株式会社吉川弘文館
 『袖ヶ浦市文協遺跡(中・近世編)』2017 千葉県教育委員会
 『上湯江遺跡Ⅳ』2019 君津市教育委員会

第4章 自然科学分析

1 上湯江遺跡V出土木製品の樹種同定

小林克也 (バレオ・ラボ)

1. はじめに

千葉県君津市の上湯江遺跡Vから出土した木製品の樹種同定を行った。

2. 試料と方法

試料は、井戸跡SE-002、003、土坑SK-038、040、041、ビットP-58から出土した木製品で、計20点である。時期については、SE-003、SK-038、040、041、P-58は奈良・平安時代、SE-002は15世紀頃と考えられている。各試料について、切片採取前に木取りの確認を行なった。

樹種同定は、材の横断面(木口)、接線断面(板目)、放射断面(柁目)について、カミソリで薄い切片を切り出し、ガムクロラールで封入して永久プレパラートを作製した。その後乾燥させ、光学顕微鏡にて検鏡および写真撮影を行なった。

3. 結果

同定の結果、針葉樹のモミ属とヒ

表1 上湯江遺跡V出土木製品の樹種同定結果

	時期							15世紀 下駄	合計	
	奈良・平安時代		15世紀			不明				
器種	板	木杭	曲物	井戸棒	木杭	番串	器種不明木製品			
ノキの2分類群と、				5					5	
ヒノキ	3	1	2		5	2			13	
広葉樹のクスノキ					1				1	
クスノキ科								1	1	
モクレン属									1	
科とモクレン属の	合計	3	1	2	5	1	5	2	1	20

2分類群の、計4

分類群がみられた。ヒノキが13点で最も多く、モミ属が5点、クスノキ科とモクレン属が各1点であった。同定結果を表1に、一覧を付表1に示す。

以下に、同定された材の特徴を記載し、図版に光学顕微鏡写真を示す。

(1) モミ属 *Abies* マツ科 図版1 1a-1c(No. 1-1)、2a-2c(No. 1-3)

仮道管と放射組織で構成される針葉樹である。晩材部は厚く、早材から晩材への移行は緩やかである。放射組織は単列で、高さ1~8列となる。分野壁孔は小型のスギ型で、1分野に2~4個みられる。また、放射組織の末端壁は数珠状に肥厚する。

モミ属には高標高域に分布するシラビソ、オオシラビソ、ウラジロモミと、低標高域に分布するモミなどがあり、いずれも常緑高木である。材はやや軽軟で、切削その他の加工は容易、割裂性も大きい。

(2) ヒノキ *Chamaecyparis obtusa* (Siebold et Zucc.) Endl. ヒノキ科 図版1、2 3a-3c(No. 3)、4a-4c(No. 5-1)

仮道管と放射組織、樹脂細胞で構成される針葉樹である。晩材部は薄く、早材から晩材への移行は急である。放射組織は単列で、高さ1～15列である。分野壁孔はトウヒ～ヒノキ型で、1分野に2個みられる。

ヒノキは福島県以南の暖温帯に分布する常緑高木の針葉樹である。材はやや軽軟で加工しやすく、強度に優れ、耐朽性が高い。

(3) クスノキ科 Lauraceae 図版2 5a-5c(No.2)

小型の道管が単独ないし2～3個複合し、やや密に散在する散孔材である。軸方向柔組織は周囲状となる。道管は単穿孔を有する。放射組織は同性で、幅1～2列となる。木部繊維内には、油細胞が認められる。

クスノキ科にはニッケイ属やタブノキ属、クロモジ属などがあり、暖帯を中心に分布する、主に常緑性の高木または低木である。

(4) モクレン属 *Magnolia* モクレン科 図版2 6a-6c(No.6)

小型の道管が単独ないし2～3個複合してやや密に散在する散孔材である。道管は単穿孔を有し、道管交互壁孔は階段状となる。放射組織は上下端1列が直立する異性で、幅1～2列となる。

モクレン属にはホオノキ、コブシなどがある。代表的なホオノキは、山間の肥沃なところに散生する落葉高木の広葉樹で、材は軽軟で堅くなく、切削その他の加工は極めて容易である。

4. 考察

奈良・平安時代の板と木杭は、いずれもヒノキであった。ヒノキは木理通直で真っすぐに生育する、加工性の良い樹種である(伊東ほか, 2011)。千葉県内で確認されている奈良・平安時代の板ではヒノキの利用がみられるが、杭ではクスノキ科やサカキなどの広葉樹が多くみられ、ヒノキは確認されていない(伊東・山田編, 2012)。

奈良・平安時代の井戸枠はモミ属、木杭はクスノキ科で、曲物、畜串、器種不明木製品はいずれもヒノキであった。モミ属はヒノキと同様に真っすぐで加工性が良く、水湿に強い樹種である。また、クスノキ科は堅硬な部類の樹種である(伊東ほか, 2011)。千葉県内で確認されている奈良・平安時代頃の杭にはカヤやイヌガヤが多いが、クスノキ科もみられる。また、曲物の底板や蓋板、側板ではヒノキとスギが確認されている。

15世紀の下駄は、モクレン属であった。モクレン属は軽軟で加工性の良い樹種である(伊東ほか, 2011)。千葉県内で確認されている15世紀頃の下駄には、マツ属複雑管束亜属やヒノキ、スギなどの針葉樹と、スダジイやケヤキなどの広葉樹がみられるが、モクレン属は確認されていない(伊東・山田編, 2012)。

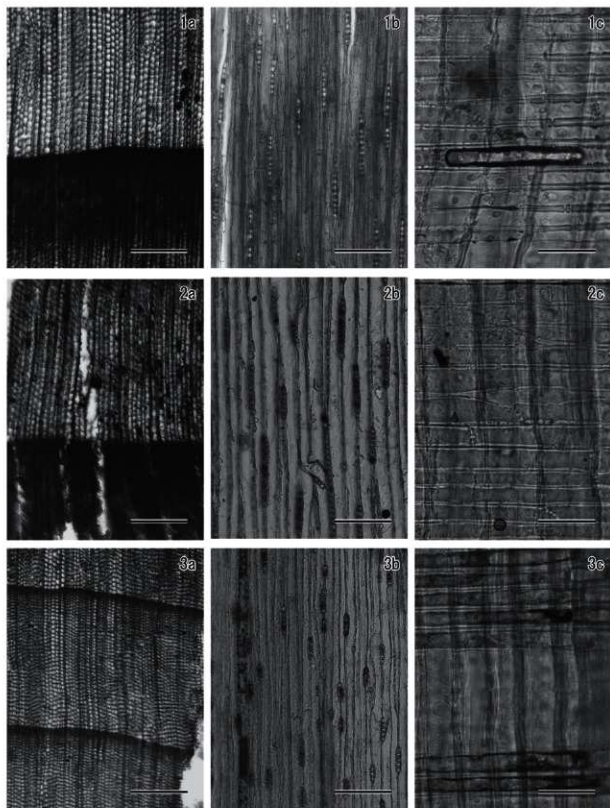
引用文献

伊東隆夫・佐野雄三・安部 久・内海泰弘・山口和穂(2011)日本有用樹木誌, 238p, 海青社。

伊東隆夫・山田昌久編(2012)木の考古学—出土木製品用材データベース—, 449p, 海青社。

付表1 上湯江遺跡V出土木製品の樹種同定結果一覧

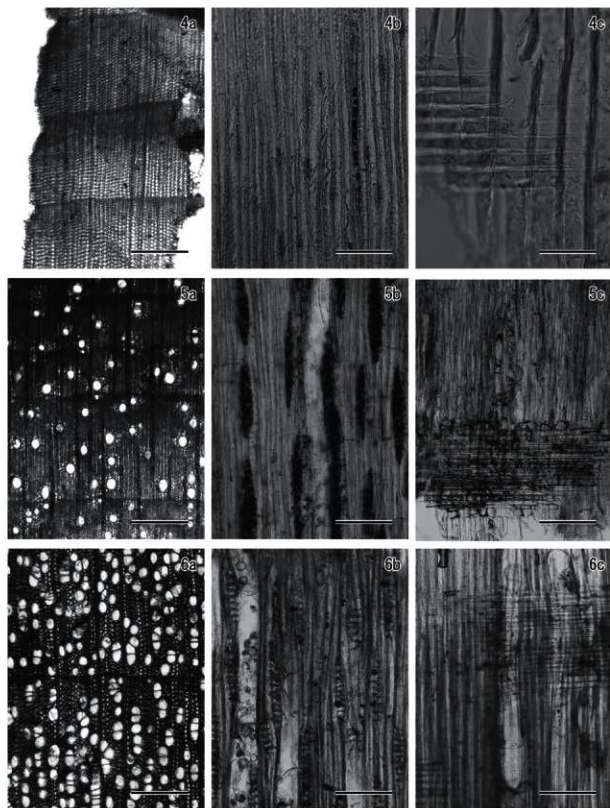
試料No.	遺構名	番号	器種	樹種	木取り	時期
1-1	SE-003		井戸枠	モミ属	板目	奈良・平安時代
1-2	SE-003		井戸枠	モミ属	板目	奈良・平安時代
1-3	SE-003		井戸枠	モミ属	板目	奈良・平安時代
1-4	SE-003		井戸枠	モミ属	板目	奈良・平安時代
1-5	SE-003		井戸枠	モミ属	板目	奈良・平安時代
2	SE-003		木杭	クスノキ科	芯持丸木	奈良・平安時代
3	SE-003		曲物	ヒノキ	頭板目	奈良・平安時代
4	SE-003		曲物	ヒノキ	板目	奈良・平安時代
5-1	SE-003		斎串	ヒノキ	芯去削出	奈良・平安時代
5-2	SE-003		斎串	ヒノキ	芯去削出	奈良・平安時代
5-3	SE-003		斎串	ヒノキ	芯去削出	奈良・平安時代
5-4	SE-003		斎串	ヒノキ	板目	奈良・平安時代
5-5	SE-003		器種不明木製品	ヒノキ	板目	奈良・平安時代
5-6	SE-003		器種不明木製品	ヒノキ	節部	奈良・平安時代
5-7	SE-003		斎串	ヒノキ	板目	奈良・平安時代
6	SE-002	0051	下駄	モクレン属	板目	15世紀
7	SK-038		板材	ヒノキ	板目	奈良・平安時代
8	SK-040		板材	ヒノキ	割材	奈良・平安時代
9	SK-041		板材	ヒノキ	板目	奈良・平安時代
10	P58		木杭	ヒノキ	割れ	奈良・平安時代



図版1 上湯江遺跡V出土木製品の光学顕微鏡写真(1)

1a-1c. モミ属(No. 1-1)、2a-2c. モミ属(No. 1-3)、3a-3c. ヒノキ(No. 3)

a: 横断面(スケール=500 μm)、b: 接線断面(スケール=200 μm)、c: 放射断面(スケール=50 μm)



図版2 上湯江遺跡Ⅴ出土木製品の光学顕微鏡写真(2)

4a-4c. ヒノキ(No. 5-1)、5a-5c. クスノキ科(No. 2)、6a-6c. モクレン属(No. 6)

a: 横断面(スケール=500 μm)、b: 接線断面(スケール=200 μm)、c: 放射断面(スケール=4:50 μm ・5-6:200 μm)

2 上湯江遺跡V出土の動物遺体

三谷智広 (パレオ・ラボ)

1. はじめに

上湯江遺跡Vの発掘調査において動物遺体が出土した。ここでは、動物遺体の同定結果を報告する。

2. 試料と方法

動物遺体はSE-003(井戸跡)から出土した。遺構の時期は、奈良・平安時代である。試料は、肉眼および実体顕微鏡下で観察し、標本との比較により部位と分類群を同定し、解体痕や加工痕などの特徴を記載した。

3. 結果

同定結果を表1に示す。同定されたのはすべて哺乳類で、イノシシまたはブタ (*Sus scrofa* or *Sus scrofa domestica*)、ノウサギ (*Lepus brachyurus*)、ニホンジカ (*Cervus nippon*) が同定された。以下、動物種ごとに特徴を述べる。

同定された破片数において、最も多く出土したのは、イノシシまたはブタであった。出土した部位は、頭骨、下顎骨、上腕骨、脛骨、腓骨、寛骨(腸骨および座骨)であり、機骨や尺骨などの前腕部や、大腿骨、椎骨、肋骨などの部位は出土せず、全身の部位は見られなかった。出土した部位のうち、四肢骨の骨端は未癒合であり、また寛骨も癒合していない。下顎骨にみられる歯列は、第1後臼歯が萌出途中であるため、6ヶ月齢頃の幼獣と推定される。骨端が未癒合である点を考慮すると、すべて同一個体と考えられる。

イノシシまたはブタに次いで、ノウサギが多く出土した。出土した部位は、頭骨、下顎骨、肩甲骨、上腕骨、大腿骨である。ノウサギについても全身の部位は認められなかった。頭蓋骨は鼻骨と後頭骨を欠損する。左上腕骨の遠位端滑車部には1条のカットマークが認められ、解体・加工に伴う解体痕と考えられる。頭骨と下顎骨は接合が可能であり、大きさなどを見ても、すべて同一個体と考えられる。

ニホンジカでは、下顎骨のみが認められた。下顎枝を欠損する。第3後臼歯が萌出しており、成獣の個体と考えられる。

4. 考察

今回出土した試料は、すべて井戸跡から出土している。出土した部位は全身が揃っておらず、ノウサギの上腕骨には解体痕が認められた点から、食用などに供された後に、人為的に井戸跡へ投棄されたと考えられる。

井戸跡から動物遺体が出土する例として、牛馬骨が出土する事例(桜井, 1992)もあり、儀礼的な行為との関係も考えられている。今後、井戸跡の埋没過程や動物遺体の出土状況などを考慮した上で、類例をはじめ、時期や地域、民俗例などもふまえて、井戸跡から動物遺体が出土する背景を考えていく必要がある。

引用・参考文献

松井 章 (2008) 動物考古学, 312p, 京都大学学術出版会.

松井 章・西本豊弘 (1999) 考古学と動物学, 210p, 同成社.

西本豊弘・新美倫子編 (2010) 事典 人と動物の考古学, 276p, 吉川弘文館.

西本豊弘編 (2008) 人と動物の日本史 (1), 276p, 吉川弘文館.

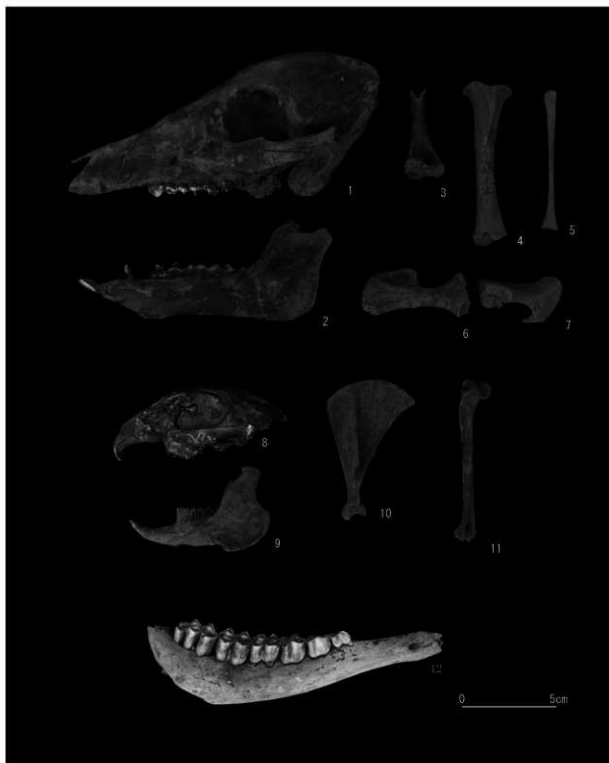
桜井秀雄 (1992) 井戸から出土する牛馬遺存体について—動物犠牲との関係—, 考古学研究, 39-2, 125-138.

林 良博 (1977) 日本産イノシシの歯牙による年令と性の判定, 日本獣医学雑誌, 392, 165-174.

Angela von den Driessh (1976) A Guide to the Measurement of Animal Bones from Archaeological Sites, 148p, Peabody Museum Press.

表1 上湯江遺跡Vの動物遺体同定結果

遺構	分類群	部位	左右	点数	状態	備考	
SE003	イノシシまたはブタ	脛骨	右	1	腸骨残存	未癒合	
		脛骨	左	1	脛骨残存	未癒合	
		脛骨	左	1	近・遠位端欠	骨端未癒合	
		脛骨	右	1	近・遠位端欠	骨端未癒合	
		脛骨	左	1	近・遠位端欠	骨端未癒合	
	12	イノシシまたはブタ	上腕骨	左	1	近位部および遠位端欠	骨端未癒合
		ノウサギ	大腿骨	左	1	完存	
	15	イノシシまたはブタ	下顎骨	左	1	完存	接合可、同一個体 左歯列: i1, c, dm2, dm3, dm4, M1
		イノシシまたはブタ	下顎骨	右	1	完存	右歯列: i1, i2, c, dm2, dm3, dm4, M1
		イノシシまたはブタ	脛骨	左	1	腸骨	未癒合
		ノウサギ	側骨	—	1	鼻骨および後頭骨欠	
		ノウサギ	下顎骨	左	1	ほぼ完存	
		ノウサギ	肩甲骨	左	1	ほぼ完存	
		ノウサギ	上腕骨	左	1	完存	遠位端滑車部にカットマーク
	31	ニホンジカ	上腕骨	右	1	完存	
			下顎骨	右	1	下顎枝欠	M3萌出完了
	48	イノシシまたはブタ	側骨	—	1	後頭骨欠	15の下顎骨と同一個体 左右ともに切歯・犬歯欠損, P1未萌出 dm2, dm3, dm4萌出, M1萌出途中



図版1 上湯江遺跡V出土の動物遺体

1～7. イノシシまたはブタ (1. 頭骨 2. 左下顎骨 3. 左上腕骨 4. 左脛骨 5. 左腓骨 6. 左腸骨 7. 左座骨) 8～11. ノウサギ (8. 頭骨 9. 左下顎骨 10. 左肩甲骨 11. 左上腕骨) 12. ニホンジカ右下顎骨



図版2 ノウサギ左上腕骨に認められたカットマーク（白矢印部分）



1. D区航空写真(南東→)



2. D区航空写真(北西→)

図版2



1. 南側調査前風景(北→)



2. 北側調査前風景(南→)



3. 重機による掘削状況(南西→)



4. 31T遺構確認状況(北→)



5. 31T西壁(東→)



6. 73T遺構確認状況(南西→)



7. 79T(北→)



8. 79T西壁(東→)



1. A区 SD-006断面(南西→)



2. A区 SD-008遺物出土状況(南→)



3. A区 SD-009完掘(北→)



4. A区 SK-019断面(南→)



5. A区 SK-020遺物出土状況(北東→)



6. A区 SK-023遺物出土状況(南→)



7. A区 SD-006及び周辺完掘(北東→)

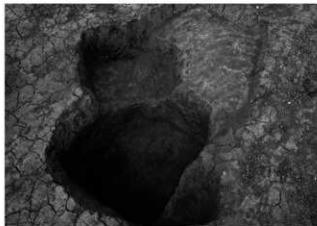


8. A区 水没状況(北→)

図版4



1. B区 SD-001、SK-004断面(東→)



2. B区 SK-013-016、P-23・25完掘(南西→)



3. B区 完掘(南西→)



4. B区 完掘(北西→)



5. B区 作業風景(南西→)



6. B区水没状況(北西→)



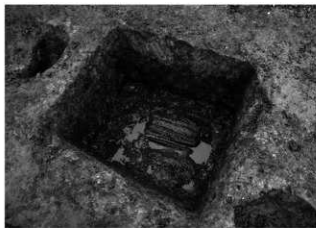
7. C区 SD-011-012断面(北東→)



8. C区 SK-035木材出土状況(北東→)



1. C区 SK-040完掘及び木材出土状況(東→)



2. C区 SK-041木材出土状況(北→)



3. C区 南西側完掘(北東→)



4. C区 SK-043遺物出土状況(北→)



5. C区 SD-014、SK-043完掘(北→)



6. C区 東側完掘(南東→)



7. C区 SD14~016完掘(北西→)



8. C区 東側完掘(北西→)

図版6



1. C区 SD-015北東側完掘(北→)



2. C区 水没状況(北西→)



3. D区 SI-001断面(南→)



4. D区 SI-001遺物出土状況(南→)



5. D区 SI-001遺物出土状況カマド周辺(南東→)



6. D区 SI-001カマド断ち割り状況(南→)



7. D区 SI-002完掘(南→)



8. D区 SI-003完掘(東→)



1. D区 掘立柱建物完掘状况(上→)



2. D区 SB-002-P10柱痕迹遗存状况(西→)



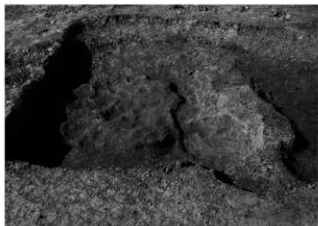
3. D区 SD-043断面(西→)



4. D区 SD-062,063周边(东→)



5. D区 SD-071遗物出土状况近景(东→)



6. D区 SK-084铁淬硬化面(东→)



7. D区 SK-084完掘(北东→)



8. D区 SK-108·109·110完掘(北东→)

図版8



1. D区 SE-002断面(西→)



2. D区 SE-002完掘(北西→)



3. D区 SE-003木組み検出状況(南→)



4. D区 SE-003黙骨検出状況(西→)



5. D区 SE-003木組検出状況(北→)



6. D区 SE-003木組検出状況(南→)



7. D区 P-239古銭検出状況遠景(南→)



8. D区 P-239断面(南東→)



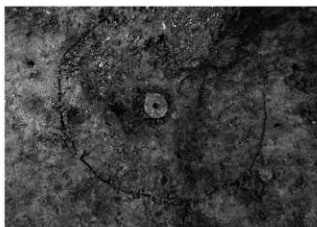
1. D区 P-239完掘(南東→)



2. D区 P-240古銭検出状況(西→)



3. D区 P-240完掘(西→)



4. D区 P-245古銭検出状況(西→)



5. D区 西側全景(南東→)



6. D区 全景(北東→)



7. D区 南東側全景(北西→)



8. D区 全景(北東→)

図版 10



1. D区 作業風景(北西→)



2. E区 遺構確認西側(北西→)



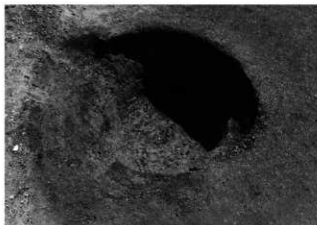
3. E区 SD-030-034断面(西→)



4. E区 SD-041断面(西→)



5. E区 SD-036完掘(東→)



6. E区 SK-050完掘(西→)



7. E区 東側作業風景(西→)



8. E区 水没状況(南東→)



1. 第7图6



2. 第7图14



3. 第7图16



4. 第7图17



5. 第7图19



6. 第8图22



7. 第8图24



8. 第8图25



9. 第8图26



10. 第8图27



11. 第12图4



12. 第12图5



13. 第12图9



14. 第12图10



15. 第12图11



16. 第12图12 凹面



17. 第12图12 凸面



18. 第12图14

图版 12



1. 第16图1



2. 第16图2



3. 第16图3



4. 第16图4



5. 第19图1



6. 第19图4



7. 第19图6



8. 第19图5



9. 第21图4



10. 第26图1



11. 第26图7



12. 第26图9



13. 第26图10



14. 第26图12



15. 第26图13



16. 第26图16



17. 第27图1



1. 第27图4



2. 第27图5



3. 第27图6



4. 第27图9



5. 第27图10



6. 第32图1



7. 第32图2



8. 第32图5



9. 第32图6



10. 第32图7



11. 第33图5-6



12. 第34图4



13. 第34图11



14. 第34图12



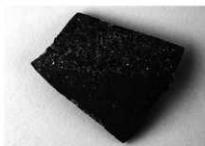
15. 第35图1.



16. 第35图2



17. 第35图3



18. 第35图4

图版 14



1. 第35图5



2. 第35图7



3. 第36图10



4. 第36图11



5. 第36图12



6. 第36图13 表



7. 第36图13 裏



8. 第38图2



9. 第38图7



10. 第38图9



11. 第38图10 外面



12. 第38图10 内面



13. 第38图11



14. 第38图12



15. 第38图13



16. 第38图14



17. 第38图15



18. 第38图16



1. 第39图17



2. 第39图20



3. 第39图21



4. 第39图24



5. 第39图25



6. 第49图26



7. 第39图27



8. 第39图28 外面



9. 第39图28 内面



10. 第39图29



11. 第39图30



12. 第39图31



13. 第39图32



14. 第40图33



15. 第40图34



16. 第40图35



17. 第40图36



2. 第40图37



1. 第40图38



2. 第40图39



3. 第40图40



4. 第40图41



5. 第40图42



6. 第40图45



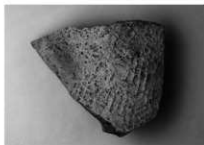
7. 第40图46



8. 第40图48



9. 第41图49 凹面



10. 第41图49 凸面



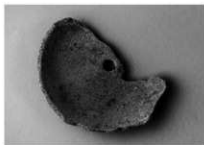
11. 第41图50 凹面



12. 第41图50 凸面



13. 第41图51



14. 第41图52



15. 第41图53



16. 第41图54



17. 第41图55·56



18. 第42图57



1. 第42図58



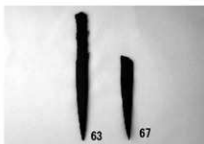
2. 第42図59



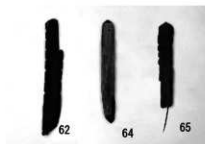
3. 第42図60



4. 第42図61



5. 第42図63・67



6. 第42図62・64・66



7. 第61図1・2



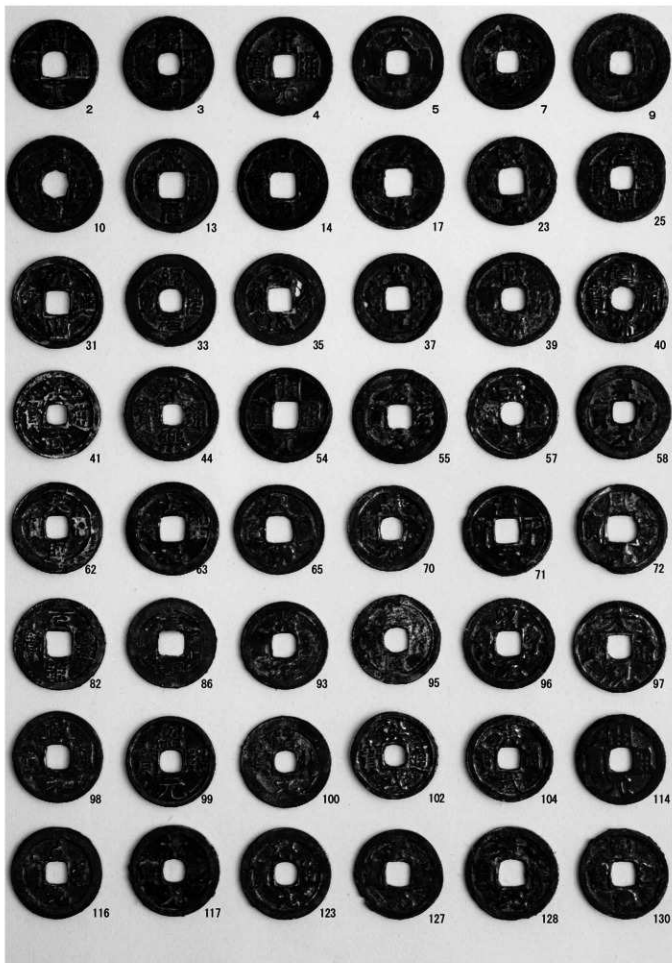
8. 第65図1



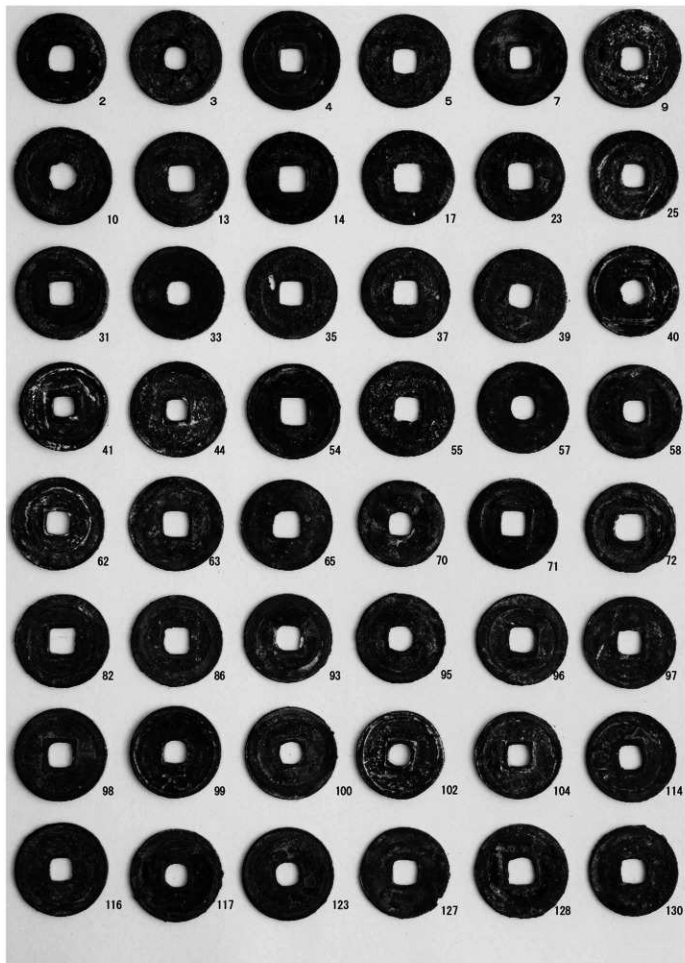
9. 第65図2



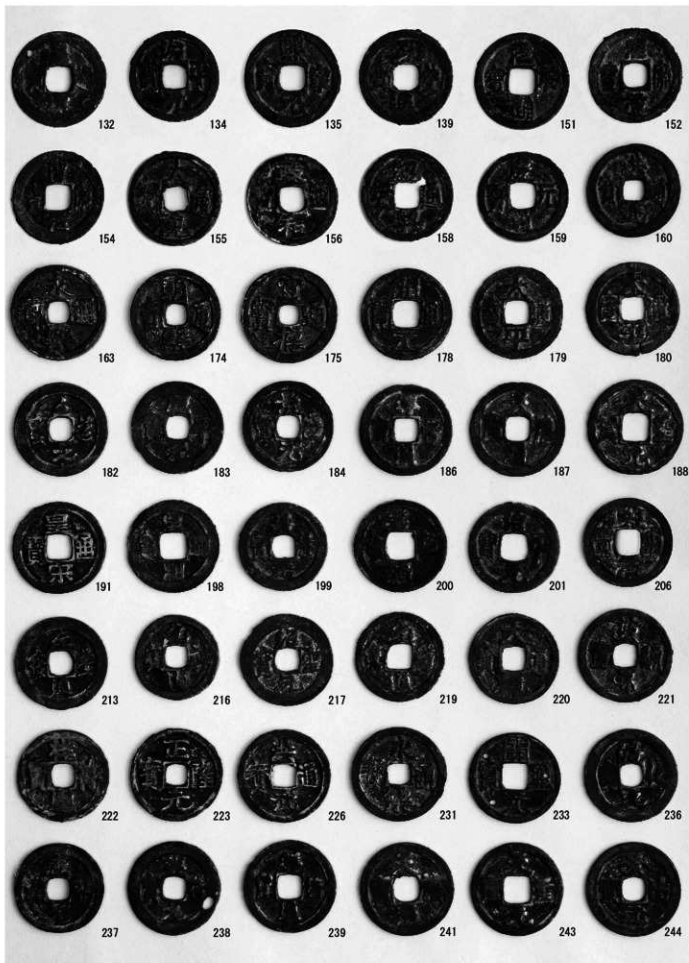
10. SE-003井戸枠 木材1~4



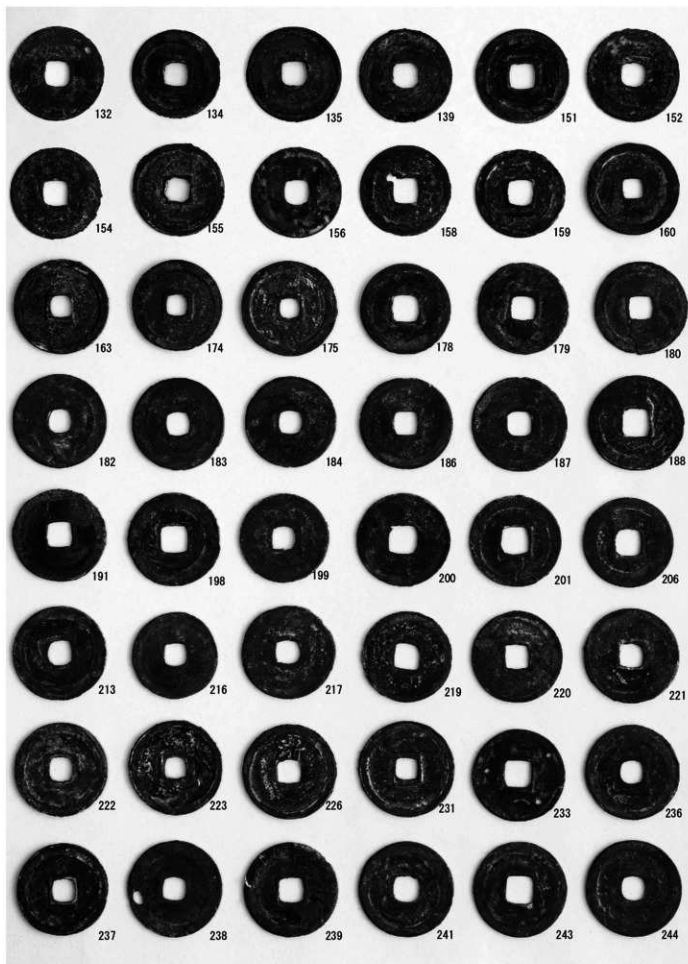
1. P-239出土古钱(1)表



1. P-239出土古钱(1)裏



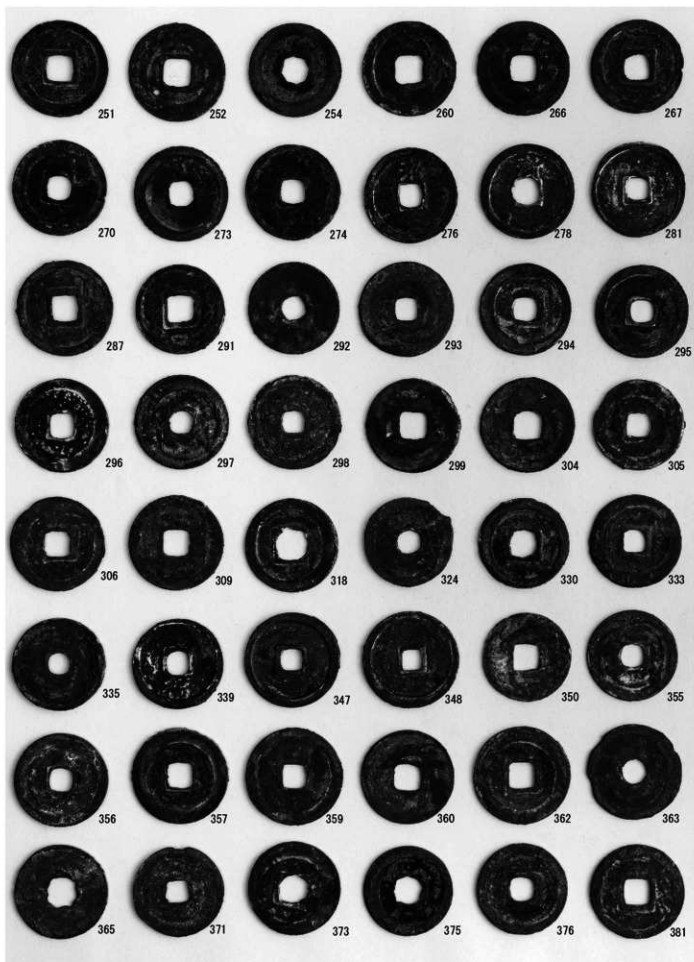
1. P-239出土古钱(2)表



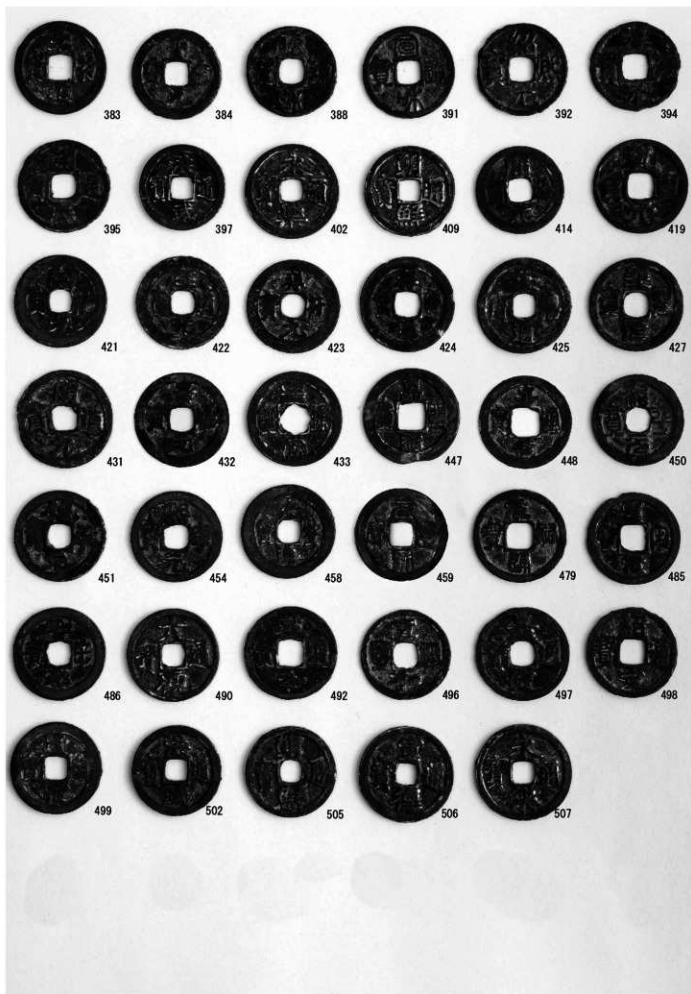
1. P-239出土古钱(2)裏



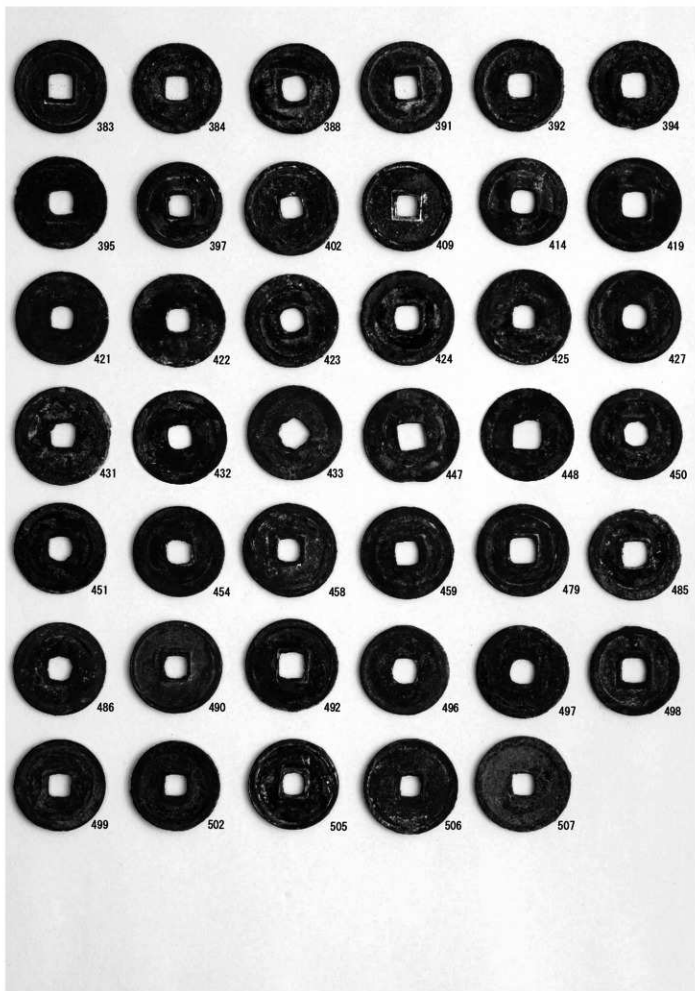
1. P-239出土古钱(3)表



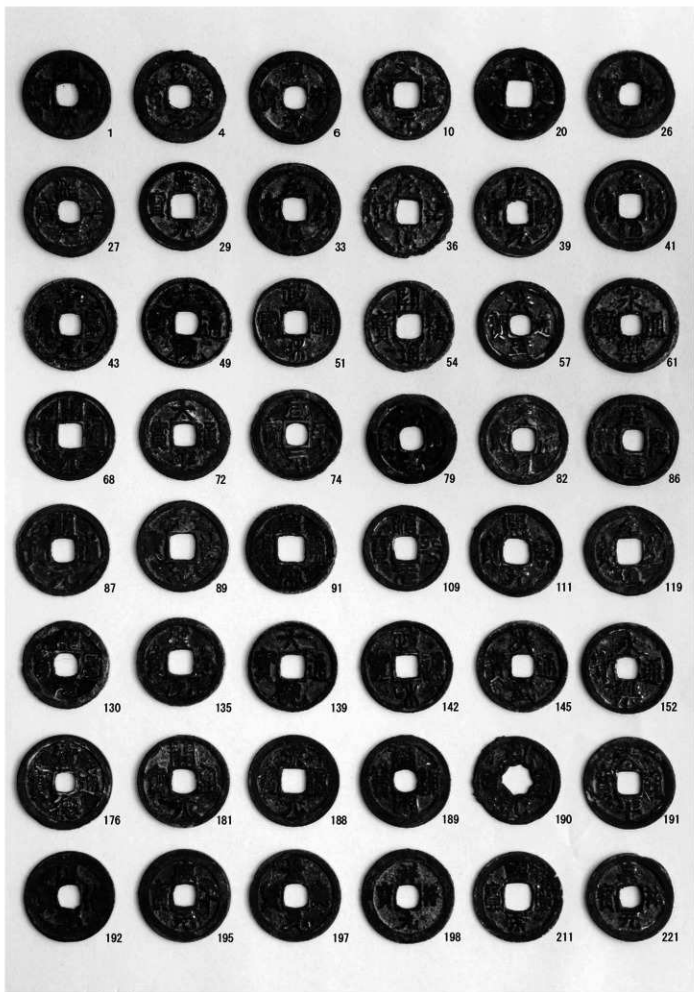
1. P-239出土古钱(3)裏



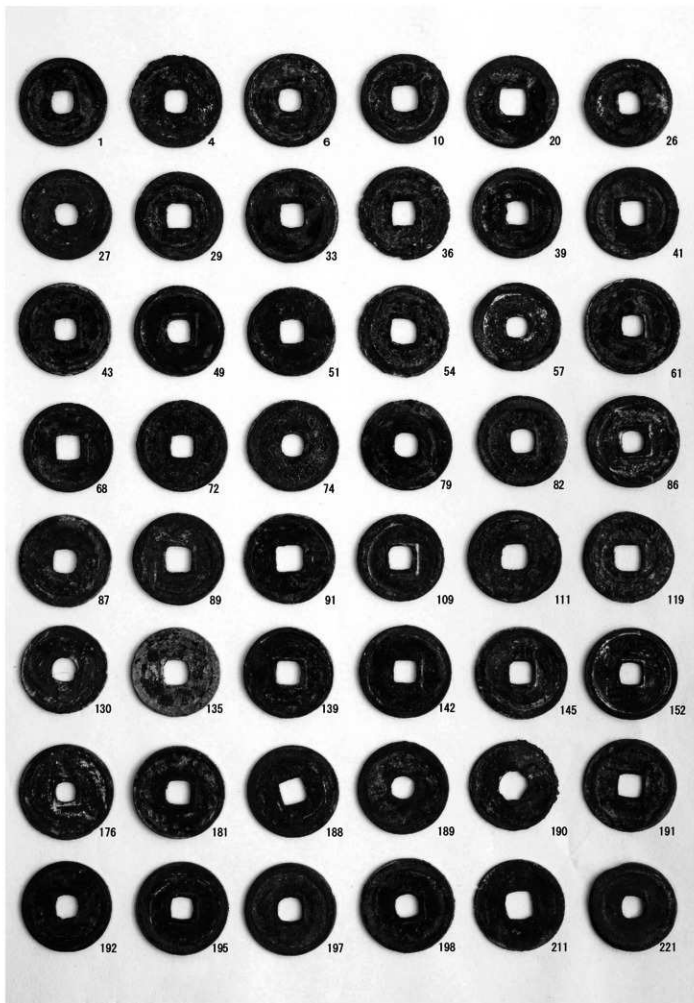
1. P-239出土古钱(4)表



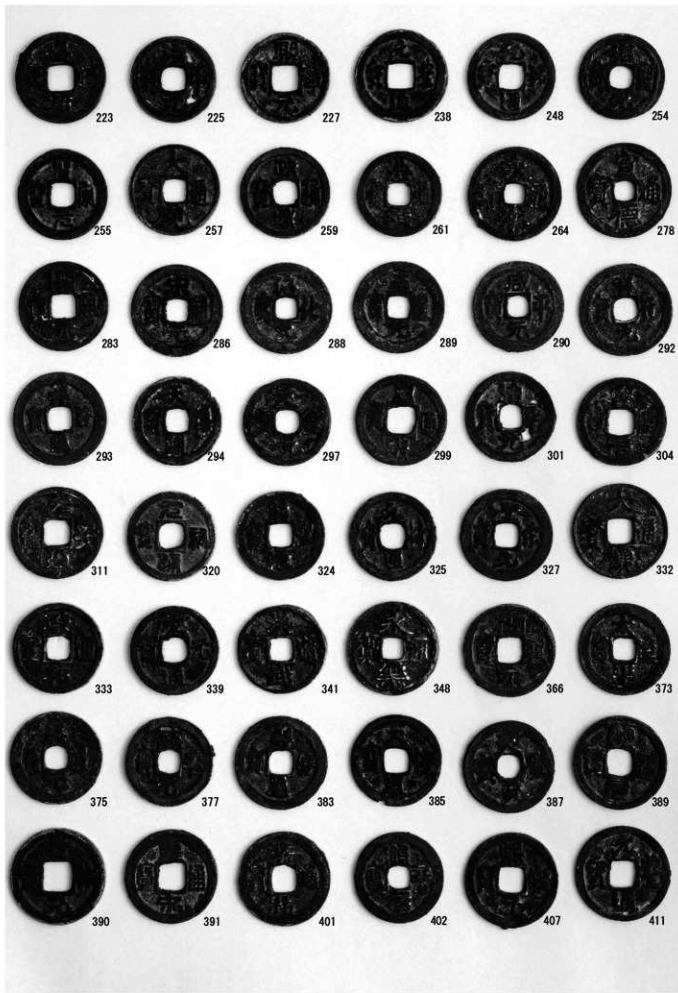
1. P-239出土古钱(4)裏



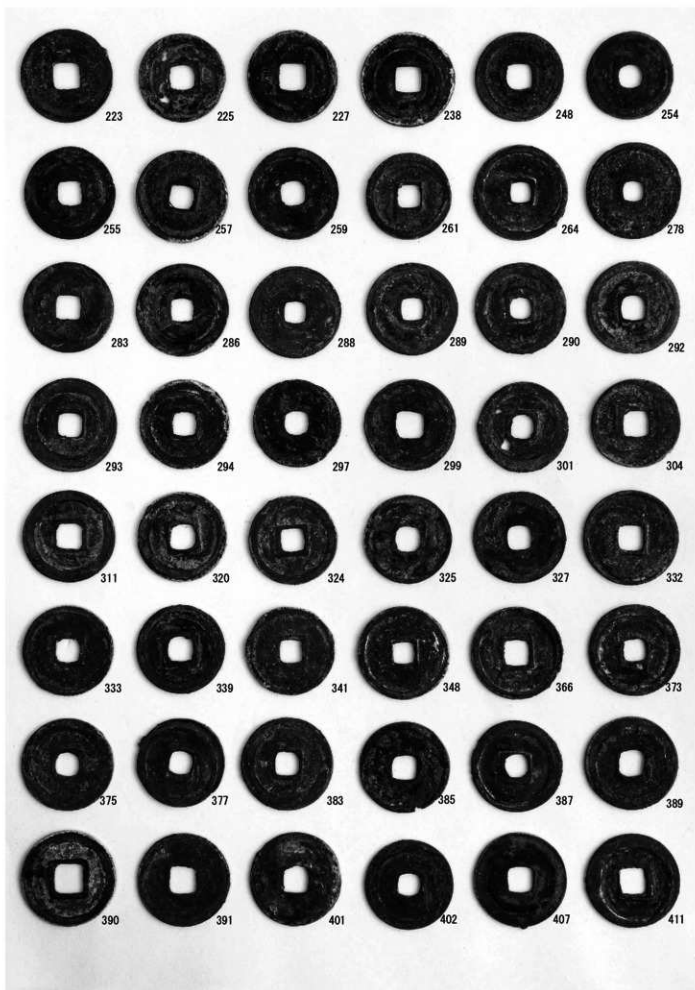
1. P-240出土古钱(1)表



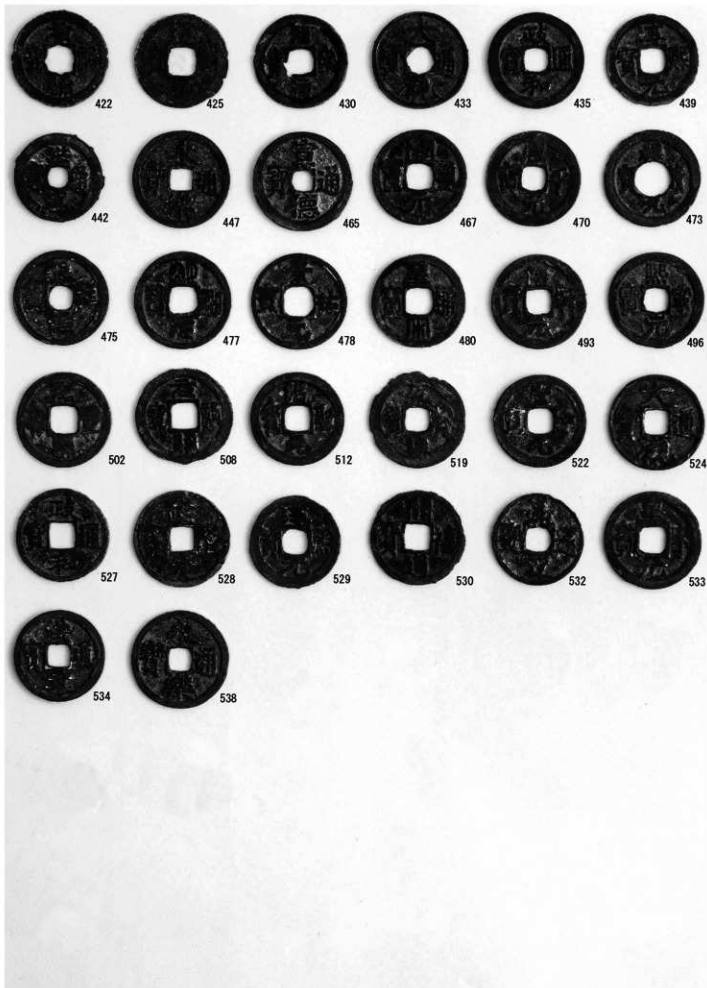
1. P-240出土古錢(1)裏



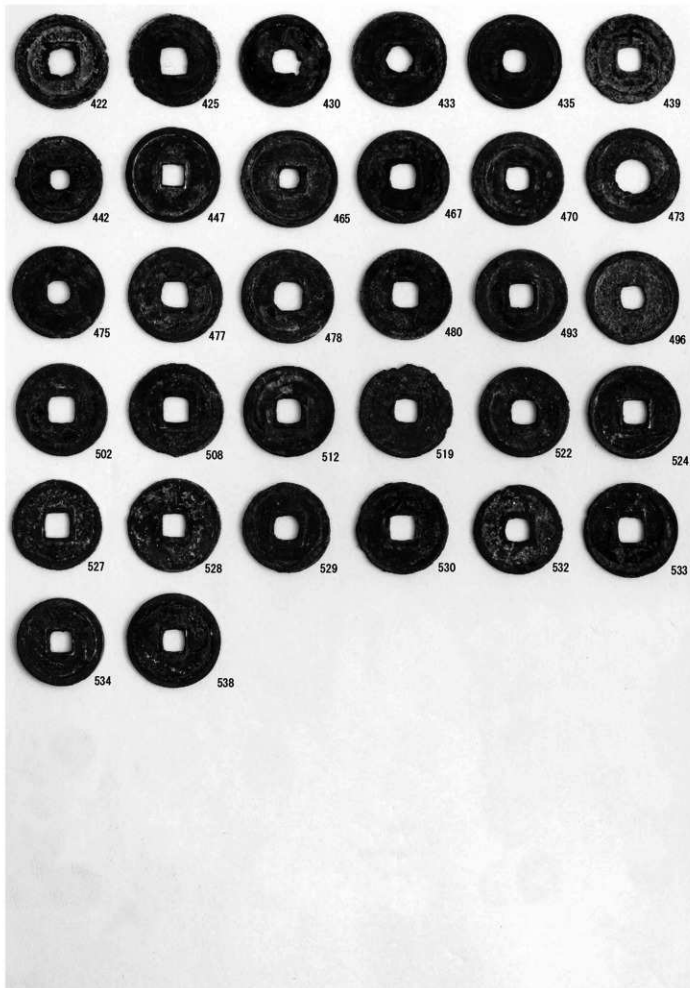
1. P-240出土古钱(2)表



1. P-240出土古钱(2)裏



1. P-240出土古钱(3)表



1. P-240出土古钱(3)裏

報告書抄録

ふりがな	きみつし かみゆえいせき							
書名	一君津市一 上湯江遺跡V							
副書名	宅地造成に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書							
巻次								
シリーズ名								
シリーズ番号								
編著者	曾我真実子 小林克也 (パレオ・ラボ) 三谷智弘 (パレオ・ラボ)							
編集機関	君津市教育委員会							
所在地	〒299-1192 千葉県君津市久保2丁目13番1号							
発行年月日	西暦2022年(令和4年)3月30日							
ふりがな 所収遺跡	ふりがな 所在地	コード		世界測地 系北緯	世界測地 系東経	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号					
かみゆえいせき 上湯江遺跡V	きみつしかみゆえいせき 君津市上湯江字 おのの 若宮1488番1ほか	12225	KT056	35°19' 05"	139°54' 01"	[確認] 2020年2月6日～ 2020年3月25日	1,792 /21,878.95 ㎡	宅地造成
						[本調査] 2020年5月18日～ 2021年1月13日		
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構		主な遺物		特記事項	
上湯江遺跡V	包蔵地	古墳時代 奈良・平安時代 中世 中世以降	溝跡3条 土坑1基 竪穴住居跡3軒 掘立柱建物跡2棟 溝跡66条 土坑149基 井戸2基 ピット352基 井戸1基 ピット3基 溝跡6条		弥生土器 古墳時代土師器・須恵器 奈良・平安時代土師器・須恵器・土製品・石製品・鉄製品・木製品 中世陶器・古銭・木製品 近世古銭		古墳時代後期から中世までの幅広い遺構・遺物を検出した。今回の調査成果の中心は奈良・平安時代である。方形の木製井戸枠を伴う井戸からは墨書土器や香串などが出土し、識字層の存在や井戸祭祀などが明らかになった。また、ピットから宋銭が出土したのもあり、上湯江遺跡は古墳時代後期から中世まで連続していたことがわかる。	

令和4年3月23日 印刷
令和4年3月30日 発行

— 君津市 —
上湯江遺跡Ⅴ

宅地造成に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

発行 株式会社 新昭和
君津市教育委員会
君津市久保2丁目13番1号
印刷 有限会社 アドメイクス
千葉県本更津市清見台東2-19-16
